

2025年度

# 履修要項

---

工 学 部

拓殖大学



2025年度

# 履修要項

工学部



## 〔注意事項〕

1. この履修要項は、2025 年度入学の工学部学生に対して、実際に適用される「学則」の運用について解説したもので、学則に明示されていない細則もこの履修要項によります。
2. この履修要項は卒業まで使用するものです。再交付は行いませんので卒業まで大切に保管しておいてください。
3. 履修科目を選択する前に、本書を熟読し、工学部（学科／コース）のカリキュラムを十分に理解したうえで、授業時間割に従い本年度の履修科目を各自で決めてください。
4. 履修は、定められた期間内に必ず登録してください。
5. 履修について疑問がある場合は、各学科の指導教員又は八王子学務課窓口で直接問い合わせてください（電話等による問い合わせには応じません）。
6. 八王子学務課から学生諸君に伝達する事項は、ポータルサイト（Takudai Portal）から配信するか掲示板に掲示しますから、常に注意してください。
7. この履修要項は、ガイダンスの時必ず持参してください。

## 目次

### 工学部 学士課程教育に関する基本方針

#### 1 工学部の教育方針

1-1 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	1
1-2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	5
1-3 カリキュラムマップ・カリキュラムツリー	11
1-4 科目ナンバー	11

### 履修についての一般事項

#### 2 授業について

2-1 4年間の授業の方針	13
2-2 学期・授業期間	13
2-3 授業時間	14
2-4 科目	14
2-5 休講	14
2-6 補講	15
2-7 欠席	15
2-8 連絡	15
2-9 問い合わせ	15

#### 3 単位について

#### 4 履修登録について

4-1 カリキュラム	17
4-2 履修登録の基本事項	17
4-3 履修登録の手続き	18
4-4 履修登録取消制度	18
4-5 再履修	19

#### 5 試験について

5-1 学期試験	20
5-2 追試験	22
5-3 再試験	23

#### 6 成績について

6-1 成績発表	24
6-2 成績照会	24
6-3 成績評価	24
6-4 GPA制度	25

6-5	修学指導	26
6-6	厳格な成績評価への取組	27
7	入学前に他大学等で修得した科目の単位認定	29
8	鉄道運行停止時の授業・学業試験の取り扱いについて	
8-1	鉄道運行停止時の授業・学期試験の取り扱い	30
8-2	大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業・学期試験の対応	30
履修	→ 授業 → 試験 → 成績発表フロー	31
工学部における履修について		
9	工学部での履修の仕組み	
9-1	工学部の構成	33
9-2	開講科目の種類について	34
9-3	進級要件・卒業要件	35
9-4	進級標準単位数	35
9-5	履修登録の制限	36
9-6	コースによる履修	36
9-7	特別プログラム	39
10	機械・通信・システム学系の開講科目と履修上の注意	
10-1	進級・卒業要件	41
10-2	進級標準単位数	43
10-3	コースの種類とコース修了要件	43
10-4	機械システム工学科の専門科目	45
10-5	電子システム工学科の専門科目	49
11	情報・デザイン・メディア学系の開講科目と履修上の注意	
11-1	進級・卒業要件	55
11-2	進級標準単位数	56
11-3	コースの種類とコース修了要件	56
11-4	情報工学科の専門科目	59
11-5	デザイン学科の専門科目	63
12	専門基礎科目と履修上の注意	
12-1	「数学・物理学・化学」の履修方法	69
12-2	「英語」の履修方法	74
13	全学共通教養科目と履修上の注意	76
14	自由科目と履修上の注意	79
15	外国人留学生の履修に関する特別措置	80
16	資格等取得による単位の認定	81
17	国際コースの履修について	

17-1	履修の概要	82
17-2	進級、卒業単位	82
17-3	開講科目	83
17-4	特別措置	85
17-5	履修の要件	85
18	教職課程の履修について	87
19	拓殖大学学則（抜粋）	101
20	拓殖大学研究倫理ガイドライン	113
21	カリキュラムツリー	117

**工学部**

**学士課程教育に関する基本方針**



# 1 工学部の教育方針

工学部では、工学部の教育課程を修了し学位を授与される学生が到達すべき能力を「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」として定めた上で、ディプロマ・ポリシーの能力を獲得するためのカリキュラムを「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づいて編成し教育を行います。

編成されたカリキュラムの体系的な構成を明確にするために、授業科目とディプロマ・ポリシーで示した到達目標の項目との対応関係を「カリキュラムマップ」として、また、カリキュラムの進行と授業科目間の関係性を「カリキュラムツリー」として明示しています。さらに、各授業科目には、学問分野や難易度に応じて授業科目を選択できるように、学修の段階や順序等を表す「科目ナンバー」が付与されています。

## 1-1 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

工学部では、「ものづくり」に興味を持ち、自ら進んで学び、技術を身に付け、品格と教養を備えたエンジニアやデザイナーの育成を目標に教育・研究活動を行っており、各学科所定の課程を修め、以下のような到達目標に達した学生に対し、厳格な成績評価のもとに学士（工学）の学位を授与する。

- ア. 基礎学力と幅広い教養を備え、企業におけるエンジニアやデザイナーとして活躍できるような工学に関する専門的な知識と技術を修得している。
- イ. 国際化する社会で、「ものづくり」を通じて協働できるコミュニケーション能力を持っている。
- ウ. 新しい技術を修得し、自らのエンジニアやデザイナーとしての能力向上に積極的に取り組む素養を身に付けている。
- エ. 学修した専門的知識・技術を総合して課題解決できる能力を有することを示すために、4年生の必修科目として卒業研究に取り組み、卒業論文審査に合格すること。

### (1) 機械システム工学科

#### 1. 卒業時までの到達目標

「工学に関する基礎から応用に至る『ものづくり』を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する」とする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、機械システム工学科では、国際感覚と教養を身につけるとともに、機械システム工学に関する均整のとれた知識を修得し、社会と工学の発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。

### DP 1. 教養・基礎学力の修得

専門的な知識のみでなく、学士として必要な教養を身につけている。  
また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身につけている。

### DP 2. 専門知識・技術の修得

企業におけるエンジニアとして期待される人材養成のために設定された機械工学とその周辺技術の学修を通して幅広い視野を持ち、自らが進んで社会の発展のために貢献する気構えを身につけている。

機械部品の図面の読み描きや加工法について、基本的な能力と技術を身につけている。

機械工学の実験について、機器の操作や計測を円滑に行うことができ、観測された現象について工学的に考察できる能力を身につけている。

### DP 3. コミュニケーション能力の修得

グローバル化した社会の中で、機械工学の知識を生かしながら、コミュニケーションをとることのできる能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

### DP 4. 総合課題解決能力の修得

体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる能力を身につけている。

## 2. 卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、機械工学分野の設計、製造、保守・整備や新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

## (2) 電子システム工学科

### 1. 卒業時までの到達目標

「工学に関する基礎から応用に至る『ものづくり』を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する」とする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、電子システム工学科では、現代社会を支える多様化した電子システムを開発・運用するために必要な知識と技術能力を修得し、国内外の発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。

#### DP 1. 教養・基礎学力の修得

工学における全般的な基礎知識を有し、社会の様々な要請に応えるための必要な教養を身につけている。

また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身につけている。

#### DP 2. 専門知識・技術の修得

電子システム工学領域の全体に共通する基本的な知識と実践的な技術を身につけている。また、電子システム工学の各領域における専門的な知識を身につけている。

#### DP 3. コミュニケーション能力の修得

グローバル化した社会の中で、電子工学の知識を生かしながら、コミュニケーションをとることのできる能力を身につけている。また、自ら考え抜く力を培い、自分の考えを的確に表現することができる能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

#### DP 4. 総合課題解決能力の修得

体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる能力を身につけている。

## 2. 卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、電子情報通信工学分野の設計、生産、保守・整備や新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

## (3) 情報工学科

### 1. 卒業時までの到達目標

「工学に関する基礎から応用に至る『ものづくり』を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する」とする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、情報工学科では、情報社会及び多彩な産業分野におけるコンピュータ活用技術を身につけ、情報システムの構築並びに情報サービスの発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。

#### DP 1. 教養・基礎学力の修得

情報モラル、倫理を理解し、実践することができ、専門的知識を支える情報の収集、

分析、表現能力を身につけている。また、情報分野と関わりがある文化、歴史、社会などの教養を身につけている。

また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身につけている。

#### **DP 2. 専門知識・技術の修得**

ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどの情報工学の基礎知識や、AI、IoT、データサイエンス、サイバーセキュリティなどの応用分野の知識を身につけている。

情報システムや情報サービスに関する仕様や構造が理解でき、構築や運用ができる能力を身につけている。

情報システムを用いた問題解決のためのプログラミング技術を身につけている。

#### **DP 3. コミュニケーション能力の修得**

グローバル化した社会のなかで、個人またはチームとして、情報システム開発や情報サービスの運用をするためのコミュニケーション能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

#### **DP 4. 総合課題解決能力の修得**

体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる能力を身につけている。

## **2. 卒業後の進路**

本学科の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、情報工学・コンピュータサイエンス分野の開発、設計、製造、サービスやAI、IoT、データサイエンス、サイバーセキュリティなどの新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

### **(4) デザイン学科**

#### **1. 卒業時までの到達目標**

「工学に関する基礎から応用に至る『ものづくり』を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する」とする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、デザイン学科では、工学における「ものづくり」を基盤に、デザイン提案に必要な知識と技術能力を身につけ、生活文化の発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。

#### DP 1. 教養・基礎学力の修得

デザインに関わる専門力の基盤となる教養と基礎学力を身につけている。  
また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身につけている。

#### DP 2. 専門知識・技術の修得

デザイナーとして活躍するために必要なデザイン分野の基本的知識を備え、自ら創出したアイデアを具現化する基本的技術を身につけている。

また、デザインの社会的役割を理解し、感性、生活、プロダクト、メディアをキーワードとしたデザイン分野のより専門的な知識・スキルを身につけ、それを応用し、展開する能力を身につけている。

#### DP 3. コミュニケーション能力の修得

自ら創出したアイデアを第三者に伝えるための表現力と伝達力を身につけ、グローバル化した社会の中で協働することができる能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

#### DP 4. 総合課題解決能力の修得

デザイン領域の広がりや社会的意義を理解し、身につけた知識や技術、応用・展開する力、表現・伝達・協働する力を統合して、デザイン分野の課題解決に取り組むことができる能力を身につけている。

## 2. 卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、デザイン分野の創作、設計、製造、サービスや新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

## 1-2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

工学部では、幅広い教養と基礎学力を備え、企業における技術者として活躍できるような専門知識と技術を修得し、国際化する社会で協働できるコミュニケーション能力を身に付けることが可能なカリキュラムを編成する。

各学科に用意された履修コースに沿って学修することにより、学生自らがキャリアを考え、将来の進路に直結する学修を可能とし、国際化が進んだ今日必要とされ、海外で活躍できる技術コミュニケーション能力と国際的なセンス、行動力を持ったエンジニアを育成できるような外国語教育と合わせて数量的かつ科学的思考、特にコンピュータ・リテラシーを身に付

けることが可能なカリキュラムを編成する。実験・実習・演習科目だけでなく、各学科の多くの講義科目や数学や物理学等の専門基礎科目が Active Learning（双方向学修）となるよう配慮する。

さらに、複雑化・大規模化する技術対象に関する問題解決にあたり、学際的工学知識を総合して課題を解決できるような能力を身に付けることができるように配慮されたカリキュラムを編成する。

## （１） 機械システム工学科

### 1. 教育課程の編成

工学部機械システム工学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、「ものづくり」を基本とした技術者教育を目指し、以下の4点を重視した編成とし、これらの能力を身につけた人材を育成する。教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。さらに、ロボットエンジニアや機械設計を含む幅広い機械工学分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

#### CP1. 教養・基礎学力の育成

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする全学共通教養科目の学修を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

#### CP2. 専門知識・技術の育成

実験と実習に重きを置き、コンピュータ技術を加味したカリキュラムの編成により、機械工学とその周辺技術の学修を通して幅広い視野を培い、自らが進んで社会の発展に貢献する人材を育成する。

#### CP3. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた実験・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼される機械工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

#### **CP4. 総合課題解決能力の育成**

卒業研究において、機械工学分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

### **2. 学修成果の評価**

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

## **(2) 電子システム工学科**

### **1. 教育課程の編成**

工学部電子システム工学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、「ものづくり」を基本とした技術者教育を目指し、以下の4点を重視し編成する。

教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。さらに、電気通信エンジニアや回路設計を含む幅広い電子工学分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

#### **CP1. 教養・基礎学力の育成**

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする全学共通教養科目の学修を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

#### **CP2. 専門知識・技術の育成**

1年次より回路やコンピュータの基礎を学修すると共に実習を行い、2年次以降の専門科目の学修が円滑に進むよう配慮したカリキュラムの編成により、全員が一定の知識・技能を身につけた人材を育成する。

### CP3. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた実験・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼される電子工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

### CP4. 総合課題解決能力の育成

卒業研究において、電子工学分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

## 2. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

## (3) 情報工学科

### 1. 教育課程の編成

工学部情報工学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、理工系学部情報系学科のためのコンピュータサイエンス教育を基本とした科目構成に加えて、実践的な演習科目を中心として、以下の4点を重視し編成する。教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は卒業研究において個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。さらに、システムエンジニア、プログラマやAI、IoT、データサイエンス、サイバーセキュリティなどの新しい技術を含む幅広い情報工学分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

### CP1. 教養・基礎学力の育成

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする全学共通教養科目の学修を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

### CP2. 専門知識・技術の育成

情報処理学会が定める情報工学カリキュラム標準に基づいた上で、多様な応用分野の履修を可能とするカリキュラム編成により、視野の広い人材を育成する。

### CP3. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた実験・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼される情報工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

### CP4. 総合課題解決能力の育成

卒業研究において、情報工学分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

## 2. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

### (4) デザイン学科

#### 1. 教育課程の編成

工学部デザイン学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、多様なデザイン領域の中から学生の個性や能力に応じた選択肢を準備し、基礎と専門の知識と技術を修得できるように、以下の4点を重視し編成する。教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。

さらに、各種デザイナーや企画・設計者を含む幅広いデザイン分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

### CP1. 教養・基礎学力の育成

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする全学共通教養科目の学修を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

### CP2. 専門知識・技術の育成

バランスよく配置された講義と演習で、デザインに関わる理論とスキルを体験的に学修し、情報工学科との共同開講による多様な応用分野の履修を可能とするカリキュラム構成で、視野の広い人材を育成する。

### CP3. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた演習・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼されるデザイン分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

### CP4. 総合課題解決能力の育成

卒業研究において、デザイン分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

## 2. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

### 1-3 カリキュラムマップ・カリキュラムツリー

各学科の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の到達目標に対して、それぞれの科目がどのような対応関係になるのかを示したものが「カリキュラムマップ」です。

10章以降の科目区分ごとの科目の一覧表の中に、科目と到達目標（DP1～4）との対応関係を◎（直結する科目）と○（関連する科目）とで表記してあります。ただし、専門科目と専門基礎科目については、各学科でDP2をさらに細分化して示しています。

カリキュラムマップで示した授業科目とDP（到達目標）との対応関係に基づき、それぞれの科目を科目区分ごとに履修年次順に並べて図式化したものが「カリキュラムツリー」です。

なお、各学科のカリキュラムツリーは巻末に掲載しています。

### 1-4 科目ナンバー

学問分野や難易度に応じて授業科目を選択できるように、各科目に付与された番号が「科目ナンバー」です。科目ナンバーは以下のように構成されており、10章以降の科目区分ごとの科目の一覧表の中に掲載されています（教職課程科目は100ページにまとめて掲載しています）。

科目ナンバーは、以下のコードの組み合わせで構成されています。

ABC    -    1    -    301    -    99  
(a)                    (b)                    (c)                    (d)

#### (a) 学部学科等コード

FEN：工学部（Faculty of Engineering）

DMS：機械システム工学科（Department of Mechanical Systems Engineering）

DES：電子システム工学科（Department of Electronics and Computer Systems）

DCS：情報工学科（Department of Computer Science）

DDE：デザイン学科（Department of Design）

UGE：全学共通教養科目（University General Education）

UTL：教職課程科目（University Teaching License Program）

#### (b) 難易度コード

1：基礎的な科目    2：応用的な科目    3：発展的な科目    4：卒業研究

#### (c) 科目区分コード

科目区分ごとのコードを付します。

【専門科目】

必修	301
選択	311
選択（国際コース）	318
選択（教職）	321

【専門基礎科目】

数学・物理学・化学	数学	201
	物理学	202
	化学	203
	共通	205
英語	一般	211
	国際コース	212

【全学共通教養科目】

A系列（国際性を高める）	100
B系列（専門性の幅を広げる）	110
C系列（人間性を高める）	120
D系列（キャリア形成を行う）	130
E系列（データ活用能力を養う）	140

【自由科目】

自由科目	401
------	-----

【教職課程科目】

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）	101
教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）	201
教育の基礎的理解に関する科目	301
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	311
教育実践に関する科目	321
大学が独自に設定する科目	401

(d) 固有番号

科目区分ごとの履修順序を極力考慮して、科目を識別する固有番号を付します。

## 履修についての一般事項



## 2 授業について

### 2-1 4年間の授業の方針

本学工学部の学生は、工学部および各学科で開講されている授業科目を、履修要項に則った条件で履修し、所定の単位数を修得することで、卒業が認められ、同時に学士（工学）の学位を取得することができます。

開講されている授業科目には次のような種類があります。

専門科目	学部共通、学系別、学科別専門科目
専門基礎科目	数学・物理学・化学 英語
全学共通教養科目	A系列：国際性を高める B系列：専門性の幅を広げる C系列：人間性を高める D系列：キャリア形成を行う E系列：データ活用能力を養う
自由科目	第二外国語、その他
教職課程科目	

これらの授業科目については、メディアを利用して学修する科目もあります。

工学部では、学年毎に次の表に示すような指針のもとに授業を開講しています。

学 年	履 修 の 指 針
第1学年	主として、工学を学修するための基礎となる専門基礎科目、専門とする分野への導入を目的とした科目、広く大学生としての教養を身につける全学共通教養科目を履修する。
第2学年	主として、専門分野の基礎となる科目を履修し、同時に専門基礎科目、全学共通教養科目なども履修する。
第3学年	主として、専門分野の応用を目的とした科目を履修する。
第4学年	主として、卒業研究を行うとともに、専門科目も履修する。

### 2-2 学期・授業期間

1つの学年は2学期制となっており、学則上では**前期**（4月1日～9月30日）と**後期**（10月1日～3月31日）に分かれています。

ただし、学年暦（1年間の日程表）は年度毎に決まり、実際の授業期間は年度によって異なります。また、各曜日の授業回数を十分に確保するために祝日に授業を実施する場合があります。

ります。詳細は毎年配付される学年暦を参照してください。

### 2-3 授業時間

授業は1時限105分で、**原則として週単位で編成された授業時間割に従って**、以下の時間帯で行われます。時間帯は両キャンパス統一です。

時 限	授 業 時 間 帯
1時限	9:20~11:05
2時限	11:15~13:00
(昼休み)	(13:00~13:50)
3時限	13:50~15:35
4時限	15:45~17:30
5時限	17:40~19:25

### 2-4 科目

科目には、次の6つの形態があります。科目により授業形態が異なりますので、授業時間割表で確認してください。

- (1) 前期科目 前期の期間に授業が行われる科目
- (2) 後期科目 後期の期間に授業が行われる科目
- (3) 通年科目 1年間（前期・後期）にわたって授業が行われる科目
- (4) 連続授業科目 1週間に2時限以上授業が行われる科目
- (5) 集中講義科目 休暇期間中などに集中的に実施したり、不定期に実施したりする科目
- (6) 単位認定科目 学修の成果により単位が認定される科目（履修登録は不要）

### 2-5 休講

大学側あるいは授業担当教員の都合、**更には自然災害や鉄道の運行停止等により**、やむを得ず授業を休講とする場合があります。休講情報は、**ポータルサイト (Takudai Portal) から配信**しますので、授業が始まる前までに必ず確認してください。

休講の配信がなく、授業開始から30分経過しても授業担当教員が出講していないときには、八王子学務課窓口で指示を受けてください。

なお、電話等での休講に関する問い合わせには一切応じませんので注意してください。  
また、鉄道運行停止時等の授業の取り扱いについては、8章を参照してください。

## 2-6 補講

授業は講義要項等に示された授業計画に基づいて進行しますが、休講になった場合や講義の進行が遅れた場合は、**補講**を行います。補講情報は、**ポータルサイト (Takudai Portal) から配信**しますので確認してください。

補講は、原則として毎週土曜日1～3時限目と前・後期の学期末に設定される補講期間(期間は毎年発表される学年暦を参照)に行います。

## 2-7 欠席

科目履修者は、基本的にすべての授業に出席することが求められており、欠席が多い場合、成績評価に影響が及ぶとともに学期試験を受けられなくなることがあります。体調不良等でやむを得ず欠席する場合には、欠席届を提出することができます。欠席届用紙は、八王子学生支援室に用意してあります(就職活動の場合は、八王子就職課)。病気等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、所定の欠席届用紙に記入し、証明書を持参のうえ八王子学生支援室で指示を受け、担当教員へ直接提出してください。

**ただし、この欠席届の扱いは、担当教員の判断によりますので、必ずしも出席扱いになるものではありません。**

## 2-8 連絡

履修・授業・試験・成績等に関する重要事項の連絡は、次の2つの伝達方法で行いますので毎日必ず確認するようにしてください。

(1) **ポータルサイト (Takudai Portal) からの配信**

(2) **掲示板への掲示**

なお、大学から学生個人に対する緊急の用件、その他必要が生じたときは、電話による連絡を行う場合があります。

また、八王子学務課より上記方法で学生個人に対する連絡があった時は、速やかに指示に従ってください。

**ポータルサイト (Takudai Portal) や掲示板を確認しなかったり、指示に従わなかったりすることにより生じる、不利益や不都合等については、大学は一切関知しません。**

## 2-9 問い合わせ

履修・授業・試験・成績・休講等についての**電話等による問い合わせには、一切応じません。**質問等があるときは、必ず**本人が八王子学務課窓口**に直接出向いて**確認**してください。

また、外部からの個人的な連絡(電話の取り次ぎ・郵便物の受け渡し)には一切応じません。

### 3 単位について

各科目にはそれぞれ「単位」が、割り当てられています。進級や卒業の要件として、一定以上の単位の修得が必要となります。

ここでいう「単位」とは、学修の量を示す基準です。教育課程（カリキュラム）に従い科目を履修し、試験等に合格することによって、その科目の単位を修得したものと認められます。

各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としていますので、授業時間で不足する学修時間分は「授業時間外に必要な学修等」として授業内容を深く理解するために、自ら準備、確認、予習、復習等の時間を授業時間外に設けることが求められます。単位の計算方法は、授業科目の種類によって異なり、次の基準によって計算されます。

- (1) 講義及び演習の授業科目については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技の授業科目については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) ゼミナール論文、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

授業は予習を前提として行われますので、講義要項に書かれている予習項目にしっかりと取り組み、授業に出席してください。また、次回の授業までにその回の授業の復習を行い、理解をより一層深めることに努めてください。

## 4 履修登録について

### 4-1 カリキュラム

卒業するには4年以上在籍し、各年次で履修登録を行い所定の単位を修得しなければなりません。そのためには、自分の所属する学科（コース）のカリキュラムをよく理解し、履修計画を立てることが大切です。

科目は、体系的に学修できるように編成されており、**履修年次が定められています。**

また、各学科（コース）の目的に従って科目区分が設けられています。

（「9-2 開講科目の種類について」参照）

### 4-2 履修登録の基本事項

科目を履修する際には、定められた規則に従わなければなりません。

次の事項は、履修登録の基本となりますので、十分理解しておいてください。

- (1) この「履修要項」や毎年度提示される「講義要項」を熟読して、授業科目の概要を理解してください。
- (2) 工学部では、各学系または学科毎に進級要件、卒業要件が定められています。  
この条件を満たすように履修計画を立てる必要があります。
- (3) 所属する学科(コース)のカリキュラムをよく理解し、卒業までの履修計画を立ててください。
- (4) 八王子国際キャンパス開講科目を履修してください。
- (5) **同一名称の科目は1科目しか履修・修得できません。**
- (6) 科目毎に定められた履修年次・学期に従って履修してください。
  - a) 原則として**上級年次の配当科目は履修できません。**
  - b) 下級年次の配当科目は履修できます。
  - c) **必修科目は、必ず指定された年次に履修してください。**
- (7) クラス編成を行う科目は、**必ず指定されたクラスを履修してください。**
- (8) 科目には、**必修科目、選択科目**があります。

**必修科目**は、卒業するためには必ず履修し、単位を修得しなければならない科目です。

**選択科目**は、用意されている科目の中から、定められた履修条件の中で自由に選んで履修できる科目です。

※ 専門基礎科目の中には、「選択必修科目」や「指定選択科目」という科目もありますが、これについては12章の「専門基礎科目と履修上の注意」を参照してください。
- (9) 一度単位修得した科目を再び履修することはできません。  
また、**修得した単位を取り消すこともできません。**
- (10) メディアを利用して行う授業（遠隔授業）により修得できる単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、60単位が限度となるので注意してください。  
※ 遠隔授業の詳細は毎年配布される「履修登録資料」を確認してください。

### 4-3 履修登録の手続き

履修登録は、1年間の学修計画を決める上で最も重要な手続きであり、履修登録が正しくされていない場合は、単位を修得できず進級や卒業ができなくなります。

次の(1)～(5)をよく理解のうえ、必ず履修登録を行ってください。

- (1) 学年の始めに年間の履修計画を立て、その年度に履修する科目(前期・後期ともに)をポータルサイト(Takudai Portal)より登録してください。

所定の期日までに登録しない場合は、除籍の対象になるので注意してください。

- (2) 登録内容は、ポータルサイト(Takudai Portal)で確認できます。正しく登録されているか確認してください。

- (3) 登録した科目は、所定の期間に手続きすることで、履修登録の取り消しをすることができます(「4-4 履修登録取消制度」参照)。

また、後期の科目については、指定された期間に前期の成績を確認した上で、既に登録してある科目をポータルサイト(Takudai Portal)で変更(削除・追加)できません。

- (4) 登録していない科目は、たとえ授業に出席し、試験で合格点を取っても単位は認定されません。また、不合格になった科目は学業成績表に記録が残り、GPAにも影響があるため、安易に履修しないで慎重に履修計画を立てることが大切です(「6-4 GPA制度」参照)。

- (5) 履修登録期間以外の登録は認めません。

### 4-4 履修登録取消制度

履修登録取消制度とは、履修登録して授業を受けたものの、「授業内容が勉強したいものと違っていた」「授業についていけないだけの学力が不足していた」等の理由により履修登録の取り消しを認めるもので、単位修得できないことによりGPA(「6-4 GPA制度」参照)が下がることを回避するための制度です。

次の(1)～(5)をよく理解した上で、申請してください。

- (1) 前期・後期それぞれの所定期間内(授業開始から4～5週間目頃)にポータルサイト(Takudai Portal)から申請することで履修登録の取り消しが認められます。申請期間等の詳細は、ポータルサイト(Takudai Portal)でお知らせします。

- (2) 取り消し科目数の制限は設けません。ただし、全科目の取り消しはできません。  
なお、4年生については、取り消し後の履修登録単位数が、最低履修登録単位数を下回ることはできません。
- (3) 通年科目は、前期履修登録取消期間にのみ取り消すことができます。
- (4) 取り消した科目は、当該年度のみ学業成績表に記載され（最終評価には[W]が付きます）、次年度以降は記載されません。
- (5) 登録を取り消しても、履修登録単位制限（年間上限48単位）の計算からは除外されません。

#### 4-5 再履修

履修登録した科目が不合格になった場合、原則として、その科目を年度内に再び履修することはできません。

ただし、翌年度以降、あらためて履修することができます。これを「再履修」といいます。なお、科目によっては、翌年度以降休講になり、再履修できない場合や、クラス指定等制限のある科目もあります。詳細は毎年配付される履修登録に関する資料等を参照してください。

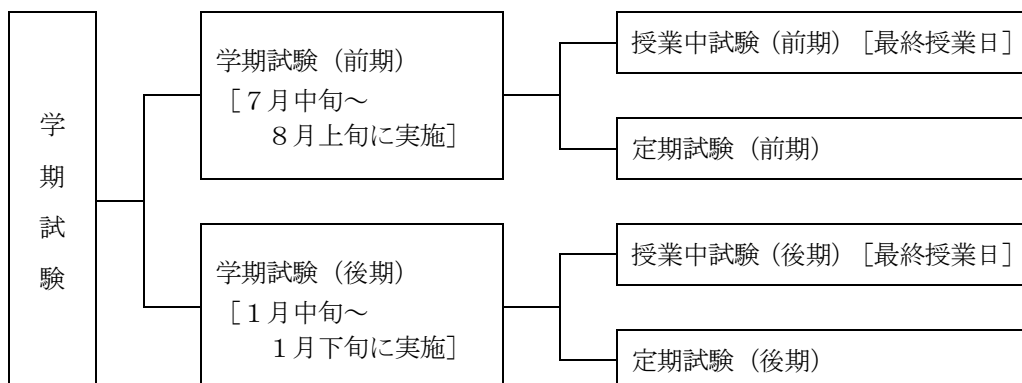
※ 前年度までに履修登録した科目と同一名称科目であれば、担当教員が異なっても「再履修」になります。

## 5 試験について

試験には、**学期試験（前期・後期）・追試験（前期・後期）・再試験（年度末）の3種類**があります。この他に、担当教員が必要に応じて、小テスト等を実施する場合があります。

### 5-1 学期試験

(1) 学期試験は、2つの日程（授業中試験・定期試験）に分けて実施します。



(2) 「授業中試験」は、最終授業日に実施します。八王子学務課では授業中試験で実施する科目の試験日時等の発表は行いませんので、通常の授業中に担当教員より指示を受けてください。

(3) 「定期試験」は、通常の授業曜日・時限とは異なり、新たに時間割を編成して実施します。定期試験の時間割は、定期試験開始の3週間前頃にポータルサイト (Takudai Portal) で発表します。

(4) 定期試験時間帯

1時限	9:30～10:30
2時限	11:00～12:00
3時限	13:00～14:00
4時限	14:30～15:30
5時限	16:00～17:00
6時限	17:30～18:30

- (5) 学期試験は、**原則としてその科目の授業回数**の「**3分の2以上**」出席しなければ受験資格が与えられません。その他の受験資格については、担当教員の判断により異なります。
- (6) 試験の方法は原則として筆記試験ですが、担当教員によっては論文・レポートの提出または口頭試験等で実施する場合があります。
- (7) 次のいずれかに該当する場合は、学期試験を受験することはできません。  
また、たとえ受験したとしても、単位は認定されません。
- a. 受験した科目を履修登録していない場合
  - b. **決められた時間（試験開始後15分）までに試験室に入室していない場合**
  - c. **学生証を携帯していない場合**
  - d. その他、規定による受験資格のない場合
- (8) 定期試験の時間割で、受験すべき科目が同一時限に重なった場合は、指定期間内に「試験時間重複科目届」を八王子学務課に提出してください。提出のない場合にはどちらか一科目しか受験できませんので注意してください。
- (9) **定期試験では試験開始30分後、試験室から退出できません。**
- (10) 筆記試験受験の際、試験答案用紙には、学生番号・氏名をペン書き（ボールペン等）で記入してください（答案作成は鉛筆を用いてかまいません）。
- (11) 試験は試験監督の指示に従い、厳粛な気持ちで受験してください。  
不正行為があった場合は、学則の規定により処罰し、保護者等に通告しますので、正々堂々と自己の実力を試すよう、取り組んでください。  
また、不正行為があった場合は、進級・卒業に影響を及ぼします。

## 5-2 追試験

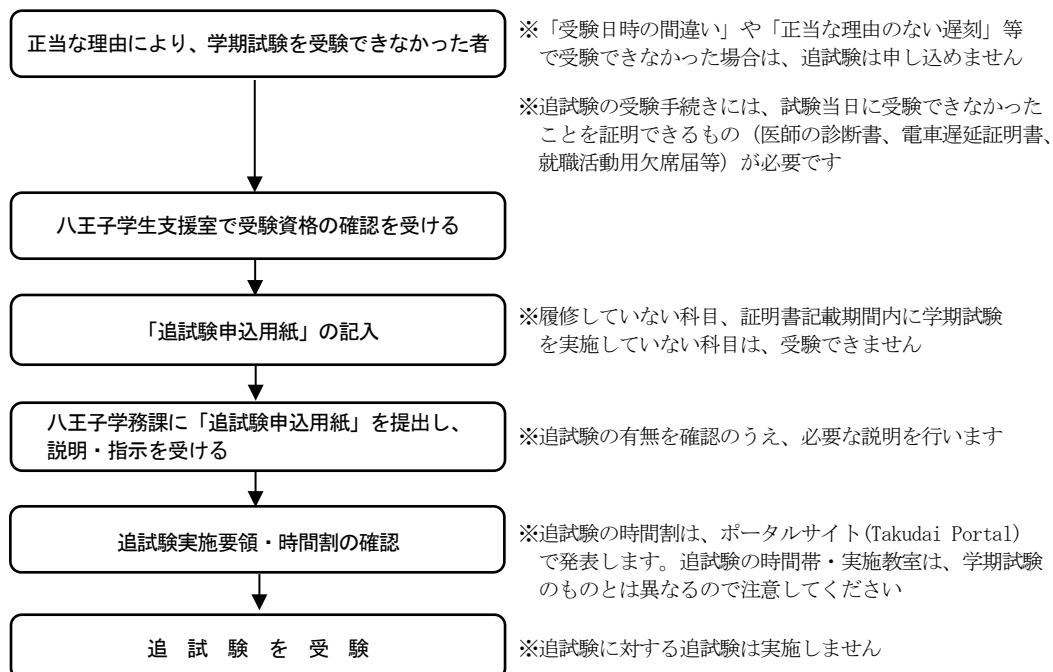
学期試験を正当な理由（電車遅延・疾病・就職活動等）により受験できなかった場合は、**追試験**を受験することができます。

(1) 追試験は次の要領で実施します。

追 試 験 の 実 施 条 件 等

項 目	条 件 等
受 験 可 能 な 学 年	全 学 年
受 験 資 格	正当な理由により学期試験を受験できなかった者
対 象 科 目	学期試験を実施した全科目（平常点・レポート試験は除く）
申 込 ・ 受 験 可 能 な 単 位 数	制 限 な し
成 績 評 価	通常 of 学期試験に準ずる
実 施 時 期	前 期 ・ 後 期 学 期 試 験 終 了 後 (詳細はポータルサイト(Takudai Portal)および掲示等でお知らせします)

(2) 追試験の受験手続は、次の手順によって行います。



### 5-3 再試験

進級保留者および卒業保留者は、再試験を受験することができます。

再試験は次の要領で実施されますが、受験には申込の他、受験料が必要になります。詳細は、ポータルサイト (Takudai Portal) や掲示等で連絡します。

なお、**当年度履修科目のうち、最後の成績評価が「F (0~59点)」の不合格科目のみが受験対象となります。すなわち、最後の成績評価が未受験の科目「---**」や出席不足などにより評価に値しないことを意味する「×××」の場合は受験できません。

#### 《工学部 再試験実施要領》

項 目		条 件 な ど
対 象 学 年		全学年
対 象 科 目  採点が「0~59点」の不合格科目。「-」、「XXX」で不合格になった科目は、受験できません。	全学共通教養科目	実施します。ただし以下の科目は実施しません。 【実施しない科目】 ・講座「拓く力」(世界の中の日本) ・講座「スポーツと人間」 ・スポーツ演習 ・トレーニング演習 ・歴史の中の拓殖大学
	専門基礎科目	実施します。ただし、学期試験以外の方法で成績評価を行う「基礎科学実験」などの一部の科目は「再試験」を実施しません。
	学科専門科目	実施します。ただし、学期試験以外の方法で成績評価を行う科目などの一部の科目は「再試験」を実施しません。
	教職課程科目	実施しません。
申込・受験ができる単位数		当該年度履修科目のうち、10単位以内
実 施 時 期		2月下旬 ~ 3月上旬
成 績 評 価		試験(筆記、口頭、実技等)、レポート、授業参加状況(発表等)を総合的に判断して評価した成績について、再試験の結果を考慮し、60点を上限として再評価する。

※再試験受験料は毎年配布される「履修登録資料」等を確認してください。

## 6 成績について

### 6-1 成績発表

- (1) 学業成績は、年2回「学業成績表」によってお知らせします。詳細については、ポータルサイト (Takudai Portal) および掲示等で連絡します。

成績発表の時期・方法

	学年	発表時期	発表方法
前期成績	全 学 年	9月上旬	ポータルサイト (Takudai Portal) で発表
後期成績	1～3年	3月中旬～3月下旬	
	4 年	2月中旬～2月下旬	

通年科目は、前期に成績発表を行わず、後期に通年評価としての点数を発表します。

半期科目は前期のみ、あるいは後期のみに成績を発表します。

- (2) 成績評価に関して不明な事項がある場合は、**成績発表日から1ヶ月以内に申し出なければ無効**となります。質問等がある場合は、科目担当教員に直接申し出てください。

### 6-2 成績照会

学業成績表の見方、進級・卒業単位について質問がある場合は、学業成績表を持参のうえ、八王子学務課窓口に直接出向いて相談してください（電話等での問い合わせには一切応じません）。

### 6-3 成績評価

- (1) 成績は、科目担当教員が試験（筆記、口頭、実技等）、レポート、授業参加状況（発表等）を総合的に判断して評価します。成績評価の方法は講義要項を参照してください。

- (2) 成績は**原則として素点（0～100点）で発表**されます。  
ただし、次のような表示で発表される場合もあります。

[――] 印・・・**未受験**（試験等を未受験の場合）

[×××] 印・・・**評価に値せず**（出席不良等で評価に値しない場合）

- (3) 成績の評価は、S・A・B・C・Fで表記します。  
評価基準は次のとおりです。

合否	評価	素点等	成績の状況
合格 (単位修得)	S	100～90点	特に優れている 学修の成果が到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績に与えられます。
	A	89～80点	優れている 学修の成果が到達目標を十分に達成できている優れた成績に与えられます。
	B	79～70点	良好 学修の成果が到達目標を達成できている成績に与えられます。
	C	69～60点	合格と認められる最低限 学修の成果が到達目標を最低限達成できている成績に与えられます。
不合格	F	59～0点	合格基準に達していない 学修の成果が到達目標を達成できていない 場合です。
		[—]	
		[XXX]	

- (4) 通年科目は、前期に成績発表を行わず、後期に通年評価としての点数を発表します。
- (5) 不合格となった科目は、次年度以降、学業成績表の「不合格科目欄」に記載されます。「不合格科目欄」に記載された科目は、原則として次年度以降再履修し、単位修得すると抹消されます(科目担当教員が異なってもかまいません)。
- (6) 教職課程科目(各教科教育法、教育の基礎的理解に関する科目等、介護等体験)および各学科専門選択科目の教職科目(「職業指導Ⅰ・Ⅱ」)については、不合格になっても評価に[F]は付きません。また次年度以降も、学業成績表の不合格科目欄に記載されません。

#### 6-4 GPA制度

GPA (Grade Point Average) とは、科目毎の成績素点に対してGP (Grade Point) を設定し、その科目の単位数を加味して1単位あたりのGPの平均値を表したもので、学修状況を総合的に示す指標です。GPAは次のとおり算出します。

- (1) 各科目のGPを求める

$$GP = (\text{成績素点} - 55) / 10$$

ただしGPが

- ① 0.5未満のときは、 $GP = 0.0$  (59点以下)

- ② 0.5～0.9 のときは、G P = 1.0 (60 点～64 点)  
 ③ 4.1～4.5 のときは、G P = 4.0 (96 点～100 点) になります。

◆評価・成績素点・G P 対照表

評価	素点	G P	評価	素点	G P	評価	素点	G P	評価	素点	G P	評価	素点	G P
S	100	4.0	A	89	3.4	B	79	2.4	C	69	1.4	F	59～0 「XXX」 「---」	0.0
	99	4.0		88	3.3		78	2.3		68	1.3			
	98	4.0		87	3.2		77	2.2		67	1.2			
	97	4.0		86	3.1		76	2.1		66	1.1			
	96	4.0		85	3.0		75	2.0		65	1.0			
	95	4.0		84	2.9		74	1.9		64	1.0			
	94	3.9		83	2.8		73	1.8		63	1.0			
	93	3.8		82	2.7		72	1.7		62	1.0			
	92	3.7		81	2.6		71	1.6		61	1.0			
	91	3.6		80	2.5		70	1.5		60	1.0			
90	3.5													

(2) GPAを求める

$$GPA = \frac{(\text{履修登録科目のG P} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録科目の総単位数} (\text{不合格科目含む})}$$

① GPAの対象とならない科目

- ・ 教職課程科目 (各教科教育法、教育の基礎的理解に関する科目等、介護等体験) および各学科専門選択科目の教職科目 (「職業指導 I・II」)
- ・ 履修登録の取り消しが認められた科目
- ・ 素点を示さず、単位認定された科目

② GPAの値は、小数第3位を切り捨てて、小数第2位まで表示します。

(3) GPAの発表

GPAは、学業成績表に学期 (前期・後期) ・年度・累積の3種類を記載します。  
 また、成績証明書に累積のGPAを記載します。

## 6-5 修学指導

本学では、入学後にオリエンテーションを実施し、履修要項および履修ガイダンス資料に基づき、4年間の履修手続の流れや学修計画の立て方などについて、きめ細かな履修指導を行うとともに、学生が気軽に教員の研究室を訪れ、個別に学業などの質問や相談ができるよう、全ての専任教員が「オフィスアワー」(教員情報に掲載)を設定し、年間を通した学修指導の体制を整えています。さらに、学修状況の不調を早期に把握する観点から出席不良、成績不振、原級等となった学生への個別面接などを行っています。

このように本学では、学生が自覚をもって有意義な大学生活を送り、やがて自律した社会

人となることを支援するよう努めています。

本学の学則24条では、次のとおり、在学年限を超過して在学することができないことになっています。この規定に該当すると退学の措置を適用することになります。

#### 学則（在学年限）

第24条 学生は、6年をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、8年以内の期間、在学することができる。

2 第30条第1項の規定により入学した学生は、同条第2項により定められた在学年数の1.5倍の年数（端数が生じた場合は切上げた数）をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、その2倍に相当する年数以内の期間、在学することができる。

このような措置の対象とならないよう、本学では、生活習慣を改善し学修意欲を高めてもらうこと、学修活動の改善を支援することなどを目的として、次のとおり、GPAの基準を用いて、「成績不振学生の面接等」を行っています。

#### ○成績不振学生の面接等

学期ごとのGPAが、その終了時に1.0未満の学生を対象に次のとおり面接等を行います。ただし、当該学期の休学者、卒業所要単位修得者および学部が対象外とする者を除きます。

回数	指導内容等
1回	学生本人に、学部長が指名する教員が修学指導を行います。
2回連続	学生本人に、学部長又は学部長が指名する教員が進路変更を含めた修学指導を行います。
3回連続	学生本人・保護者等に学部長が退学を含む進路変更を勧告します。

この他、八王子学生支援室において、出席不良、原級等となった学生への個別面接も行っていきます。

## 6-6 厳格な成績評価への取組

本学では、成績評価を客観的かつ厳格に行うことを目的として、次のとおり、GPAの基準を用いて「成績不振学生の面接等」を行うこと、学科目別の成績評価分布の状況を把握し公表したうえで、教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」（履修要項25ページ参照）及び「成績評価分布の目安」を定めるなどの取組を行っています。

(1) 教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」等

- ① 試験問題やレポートの難易度は、客観的な評価となるよう、工夫し予め70から80点程度の平均点となるように努めます。
- ② 成績評価は、学期試験、レポート、小テスト、授業への参加状況など、多面的かつ総合的に評価し、その個々の評価点の割合を講義要項で示します。
- ③ 成績評価は、極端な偏りの評価が行われないよう、学科目別成績評価分布表の平均値を踏まえ、下表のとおり、評価の分布（目安）となるように努めます。

○成績評価分布の目安

評 価	素 点	評価の分布（目安）
S	100 ～ 90 点	20%程度
A	89 ～ 80 点	20～30%程度
B	79 ～ 70 点	20～30%程度

※ C・Fの評価の分布の目安は、次に示す「学科目別成績評価分布」の平均値を考慮します。

※ 履修者20名以下および習熟度別クラスの科目は除きます。

(2) 学科目別の成績評価分布表

「学科目別成績評価分布」は、本学ホームページで公表しています。

「拓殖大学 学科目別 成績評価分布」で検索してください。

## 7 入学前に他大学等で修得した科目の単位認定

入学前に他の大学または短期大学等において修得した科目について、本学が教育上有益と認めるとき、本人の申請（入学時のみ）に基づいて単位認定を行います。申請方法等詳細については、八王子学務課に問い合わせてください。

### (1) 申請対象者・申請期間

申請対象者は、新入生のみで、入学年度の4月に指定する期間を申請期間とします。

### (2) 申請に必要な資料

- ①既修得科目単位認定申請書
- ②申請時最新の成績証明書とその写し
- ③在学証明書(単位認定申請科目の成績を修得した時点の当該大学等の在籍が分かるもの)
- ④シラバス・講義要項(単位認定申請科目履修時のもの)
- ⑤授業回数・授業時間が分かるもの(単位認定申請科目履修時のもの)
- ⑥履修要項(単位認定申請科目の配当[専門科目または教養科目、年次]の記載があるもの)

### (3) その他

認定に際し、別途面接を実施します。

## 8 鉄道運行停止時の授業・学業試験の取り扱いについて

台風・大雨・大雪等の自然災害により鉄道の運行が停止した場合や、大規模地震対策特別措置法(大震法)にもとづく地震警戒宣言が発令される場合、当日の授業および学期試験の実施については以下のとおり取り扱います。

### 8-1 鉄道運行停止時の授業・学期試験の取り扱い

- 【対象事由】 (1) 台風・大雨・大雪その他自然災害によるもの  
(2) 鉄道機関のストライキ

#### 八王子国際キャンパスにおける対応

【対象路線】

J R 中央線(新宿～高尾間)・京王線(新宿～高尾間)・J R 横浜線のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとする。

【時間・対応策】

条件	授業	試験
①当日午前6時現在運行停止となっている場合	第1・2時限目休講	第1・2時限目延期
②当日午前10時現在運行停止となっている場合	終日休講	終日延期

【その他】 授業または試験開始後に運行停止となるような場合は、大学からの指示に従う。

※ 上記によらず、前日において翌日の授業・試験の実施に大きな影響があると判断した場合は、「翌日の授業の休講・試験の延期」について、本学公式ホームページおよびTakudaiPortalにて掲載する。

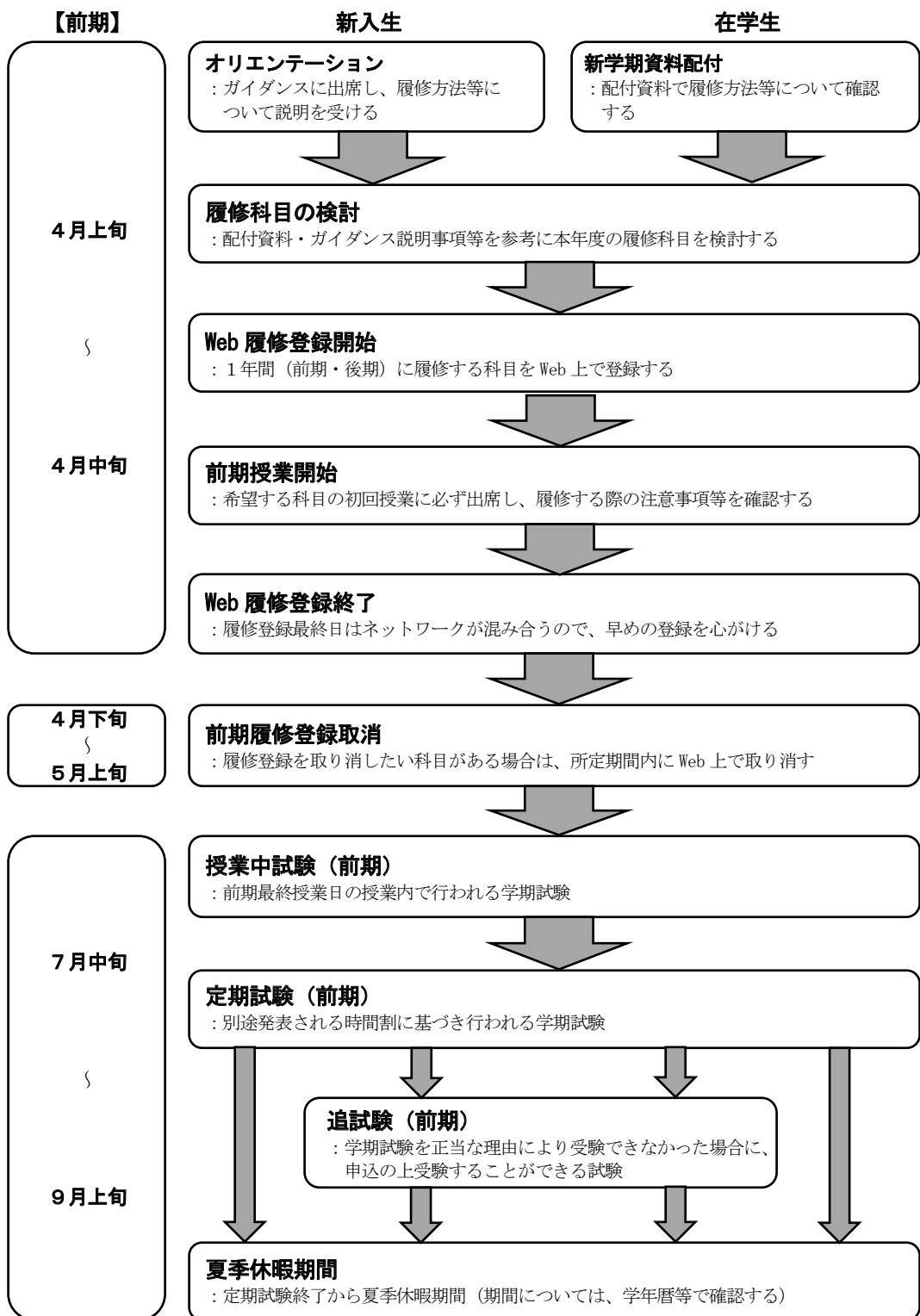
### 8-2 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業・学期試験の対応

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法(大震法)に基づく「警戒宣言」が発せられる場合の授業・学期試験の取り扱いは以下のとおりとする。

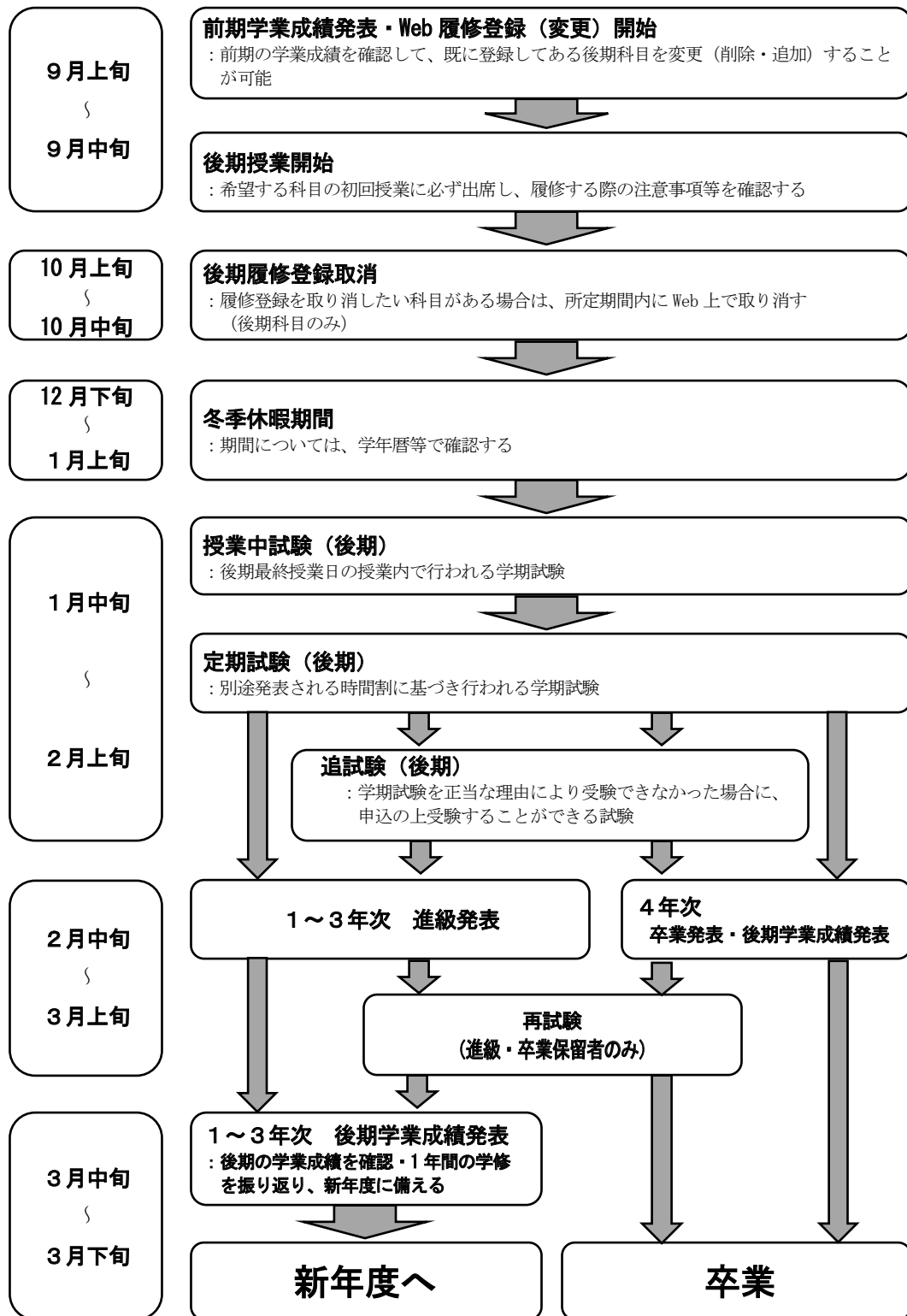
- (1) 「警戒宣言」が発せられるのに先立ち「地震防災対策強化地域判定会」(以下「判定会」という)が招集された場合、ただちに全学休講及び学期試験延期とする。
  - ア. 「判定会」が招集されたことがテレビ等で報道された時点で全学休校(授業休講、学期試験延期等)とする。
  - イ. 通学途中の場合は、ただちに帰宅するなど適切な行動をとる。
  - ウ. 大学にいる場合は、大学からの指示に従う。
- (2) 「警戒宣言」が解除されたときや「判定会」が解散されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準ずる。

以上の事由により休講および試験延期となった場合、その後の措置については、本学公式ホームページおよび、TakudaiPortal等で連絡します。

# 履修 → 授業 → 試験 → 成績発表フロー



**【後期】**



# 工学部における履修について

## 工学部

### 機械・通信・システム学系

機 械 シ ス テ ム 工 学 科

電 子 シ ス テ ム 工 学 科

### 情報・デザイン・メディア学系

情 報 工 学 科

デ ザ イ ン 学 科

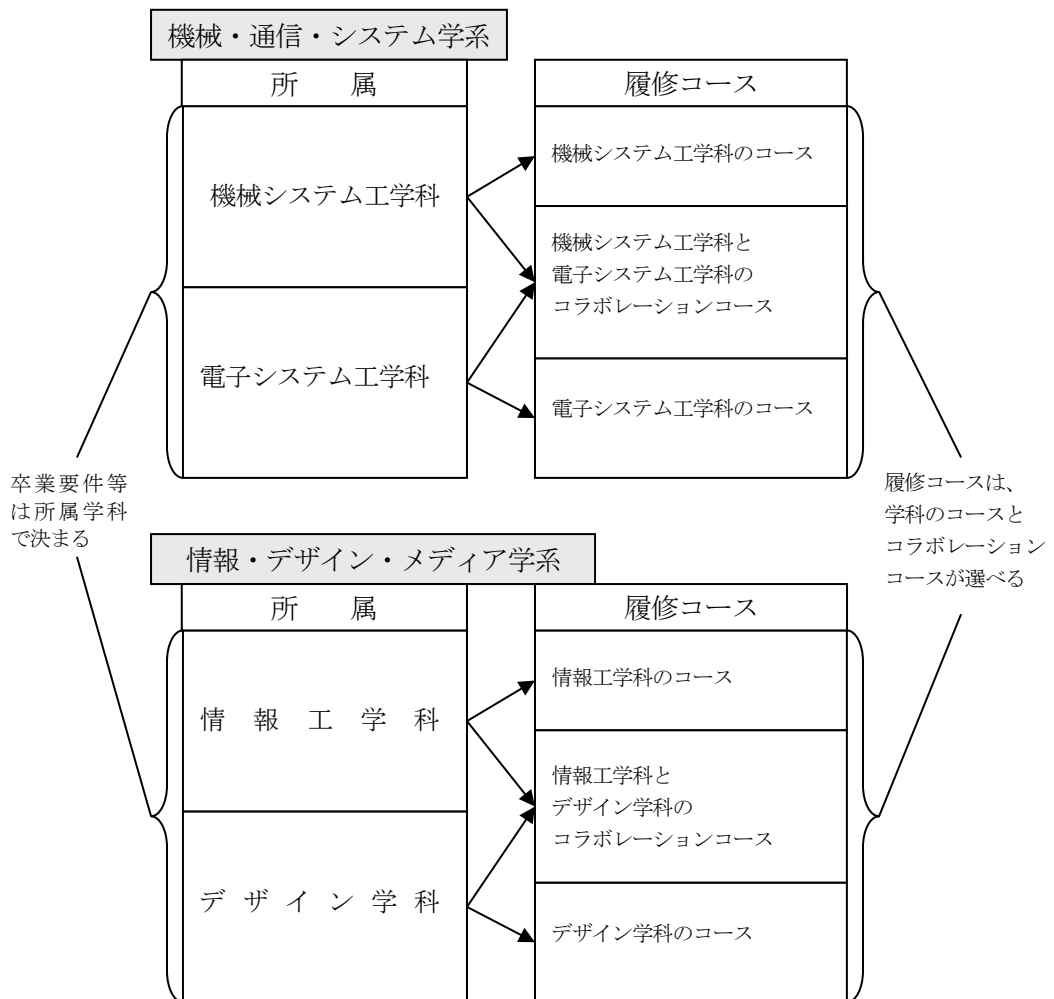


## 9 工学部での履修の仕組み

### 9-1 工学部の構成

工学部は、機械システム工学科、電子システム工学科、情報工学科、デザイン学科の4学科で構成されていますが、より専門的、学際的な学修ができるよう、下図のように「機械・通信・システム学系」と「情報・デザイン・メディア学系」の2つの学系にグループ分けし、各学科にコースを設けています。

本章では、進級や卒業の仕組み、コースの仕組み等を説明します。但し、具体的な進級条件、卒業要件、履修できる科目等はあくまでも所属する学科の規則によります。各学系、学科における進級・卒業要件、および履修科目、コース等については10章（機械・通信・システム学系）あるいは11章（情報・デザイン・メディア学系）を参照してください。



## 9-2 開講科目の種類について

履修できる科目（開講科目）は、各所属する学科で指定されています。開講科目には次のような種類があります。

### (1) 専門科目

各学科で専門知識を学修する科目です。講義科目、演習科目、実験科目などがあります。

詳しくは、10章（機械・通信・システム学系）、11章（情報・デザイン・メディア学系）を参照してください。

### (2) 専門基礎科目

専門科目を学修するための基礎となる、主に工学的知識を学修するための科目です。

数学、物理学、化学、英語があります。詳しくは、12章を参照してください。

### (3) 全学共通教養科目

大学生としての教養を学修するための科目です。他学部の学生と一緒に授業を受けます。

詳しくは、13章を参照してください。

### (4) 自由科目

各学系の進級・卒業要件に「自由科目」という項目があります。「自由科目」とは、

- ・「自由科目」専用が開講されている科目
- ・海外研修（短期留学）への参加・修了により認定する科目
- ・卒業要件を超えて履修した科目
- ・他学科や他学部の開講科目で、上記（1）～（3）としては認められない科目
- ・単位互換協定に基づく単位互換科目（他大学等で履修が許可されている科目）

の全てを含んでいます。

具体的な科目については、14章を参照してください。

### (5) その他：資格等取得による単位の認定

工学部が指定した検定試験の資格またはスコアを取得すると、専門科目または専門基礎科目の単位として認定される場合があります。各学科で認定できる資格の種類や認定する科目は異なりますので、16章を参照してください。

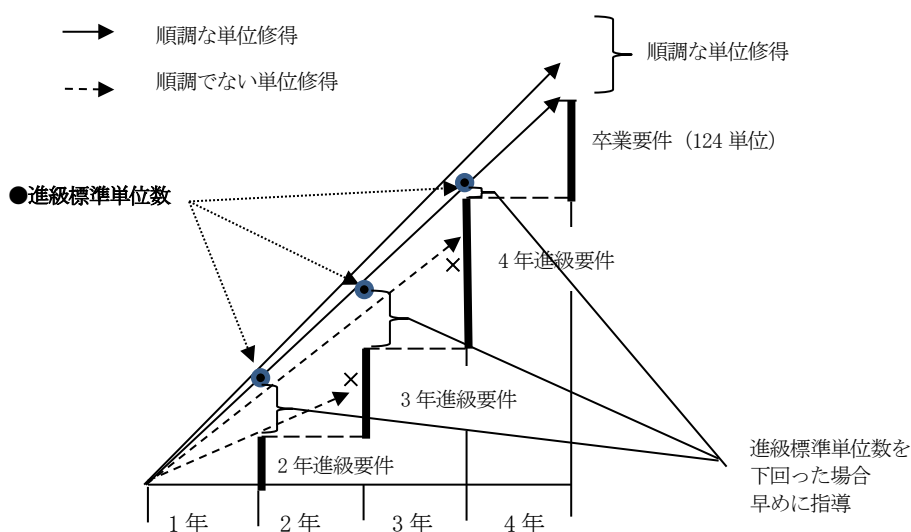
### 9-3 進級要件・卒業要件

工学部の学生は、所属する学系・学科で指定されている科目を履修し、各学系・学科で指定された条件の単位数（進級要件、卒業要件と呼ばれています）を修得することで、進級、卒業することができます。具体的な進級・卒業要件は、10章、11章を参照してください。学則で定められた期間在籍して、卒業要件を満たした場合、卒業が認められ、学士（工学）の学位が授与されます。

### 9-4 進級標準単位数

各学系・学科では進級要件（単位数）を設けていますが、これは進級のために必要な最低限の単位数を表しています。この進級要件は、後から取り返しができるように、比較的低めに設定されています。そのため、この進級要件（単位数）を目安に単位修得をしていると、下図に示すように、高学年になるほど必要な単位数が多くなり、無理な学修をするようになり、少しでもつまずくと進級ができなくなったりする心配があります。

そこで、各学系・学科では進級要件とは別に、進級時に修得しておくべき標準的な単位数を**進級標準単位数**（図中●印）として設定しています。これを上回って単位を修得していれば、基本的に学修が順調に進んでいることがわかります。一方、これを下回ったときは、学修が順調でないと考えられます。この場合、進級はしていても、将来的に問題が生じる恐れがあるため、注意喚起や面接などによる指導、場合によっては保護者との相談等を行い、早期に問題解決を図ることとしています。



進級要件と進級標準単位の関係

## 9-5 履修登録の制限

履修科目に対する学修時間を十分に確保するため、各学年の学期ごとに履修できる授業科目の単位数について、次のとおり制限を設けています。前期・後期共に上限単位数を超えて履修することは認められません。

(2025 年度入学者適用)

1年	2年	3年	4年
年間 48 単位以下 ただし、各学期 27 単位を超えな いこと	年間 48 単位以下 ただし、各学期 27 単位を超えな いこと	年間 48 単位以下 ただし、各学期 27 単位を超えな いこと	年間 6 単位以上 48 単位以下 ただし、各学期 25 単位を超えな いこと

- (1) メディアを利用して行う授業（遠隔授業）により修得できる単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、60 単位が限度となるので注意してください。  
※遠隔授業の詳細は毎年配布される「履修登録資料」を確認してください。
- (2) 海外研修（短期留学）並びに、資格等取得による認定科目は、制限対象から除外します。
- (3) 教職課程科目（各学科専門選択科目の教職科目の「職業指導Ⅰ・Ⅱ」を含む）は制限対象から除外します。
- (4) 各学科の国際コースに所属している学生について、集中講義（専用英語科目）は制限対象から除外します。

### 【単位計算上の注意事項】

履修登録単位制限を計算する場合に限り、通年科目は「半分の単位数」に換算し、半期毎に計算することとします。

(例) 通年 4 単位の科目→前期 2 単位+後期 2 単位で換算、

通年 2 単位の科目→前期 1 単位+後期 1 単位で換算してください。

## 9-6 コースによる履修

### (1) 概要

工学部では、各学科において多くの専門科目を開講しており、進級・卒業要件の範囲内で、自分の希望に合わせて様々な科目を選択することができます。しかし、どの科目を履修すべきか各自で判断する必要があり、これはこれから専門科目を履修しようとする皆さんには簡単なことではありません。そこで各学科の中に含まれ、かつ社会的な要求の高い魅力的な専

門分野をコースとし、そのコースに関連する専門科目を設定してあります。また、複数の学科にまたがる学際的な分野においてもコースを設け、履修しやすくなるようにしています。

皆さんは、自分の興味が一番近いコースを登録し、そのコースに設定してある選択科目を中心に履修することで、自分の興味がある専門分野について効率よく知識を身につけることができます。また、卒業時に、卒業要件を満たした上で、自分の登録したコースの修了要件を満たしていれば、学位授与とともに、コース修了認定を行います。

このように、コースによって効率よく履修をすることができますが、同時に、コースを修了することで自分がどのような分野を中心に学修したかを、外部にアピールしやすくなります。

国際コースについては、国際コースの入学試験を受験して入学した学生のみ登録することが可能です。ただし、審査の上、条件を満たした場合、国際コースへの変更を認める場合があります。

コース修了要件を満たしていなくても、卒業することはできます。しかし、大学において学修したことを明確にアピールするためにも、コース修了を目指して履修計画を立てることを望みます。

## (2) コースによる履修の流れ

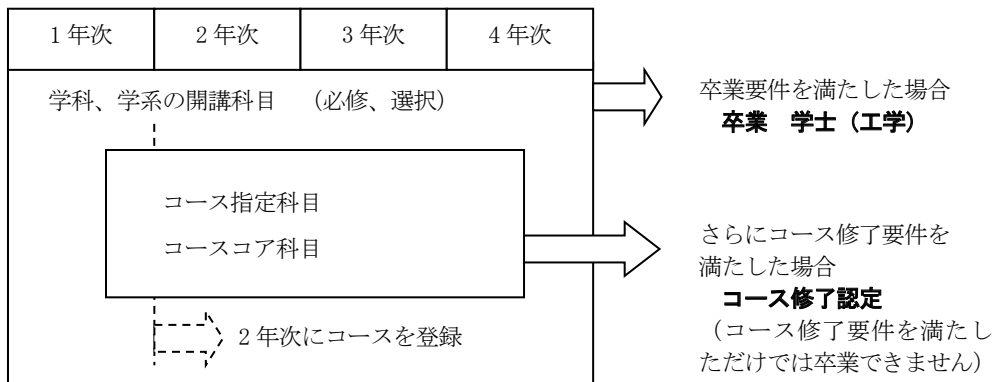
各コースでは、各学科、学系で開講されている科目の中から、次の科目を設定しています。

- ・コース指定科目（コース修了に必要な科目）
- ・コースコア科目（コースが推奨する科目、この中から必要単位数を修得）

皆さんは2年次にコースを1つ登録して、コースで設定されている科目を中心に履修を進めます（ただし、国際コースは1年次からコース専用の科目を履修します）。

各コースの内容は、各学科で開催するコース説明会等で確認してください。

### 【コースの概略図】



### (3) コース登録

工学部の学生（国際コースで入学した学生を除く）は、2年進級時にコースを1つ選択し、登録します。登録できるコースは、

- ①所属学科に含まれるコース
- ②所属学系にあるコラボレーションコース

です。他学科、他学系に含まれるコースを選択したい場合は、学科変更の手続きをすることになりますので、問い合わせてください。

- ・コースには定員はないので、希望するコースを自由に登録することができます。
- ・コース登録は必須です。
- ・選択したコースと卒業研究配属は基本的にリンクしていません。

### (4) コース修了の判定と修了証

登録したコースごとのコース修了要件を満たすように、コース指定科目、コースコア科目を単位修得することによって、コース修了認定をうけることができます。コース修了要件は、10、11章および履修ガイダンスにおける配付資料を、国際コースについては、17章を参照してください。

- ・4年の卒業判定時に、登録しているコースの修了判定を行います。
- ・登録コースを修了している場合、卒業式で卒業証書と別にコース修了証を発行します。このとき、他のコースの要件も満足していれば、修了証に併記します。
- ・登録コースを修了していなければ、コース修了証は発行しません。
- ・コース修了証は再発行しません。

### (5) コース変更

コース登録をしても、そのコースのコース指定科目とコースコア科目だけでは、所属学科の進級基準や卒業基準を満たせないため、登録したコース以外の科目も履修しながら学修を進めていくことになります。しかし、学修を進めていく中で、様々な理由によりコースを変更したい場合が生じることも考えられます。その場合は、所定の期間（基本的には、各学期初めの履修登録期間）にコース変更届を提出することによりコース変更を受け付けます。ただし、次の場合にはコース変更が認められない場合があります。

- ・国際コースへの変更
- ・コース指定科目で実験設備などが登録者数分準備できない場合
- ・その他

コース変更の手続きについては、ポータルサイト（Takudai Portal）や掲示などでお知らせします。

## (6) その他注意事項

コースに沿って履修する際、進級・卒業基準にも注意してください。コース指定科目やコースコア科目は、所属学科の開講科目以外にも、他学科にまたがって指定されているものがあります。他学科の専門科目を履修した場合、所属学科の専門科目として認められる科目や単位数は、所属学科によって制限されていますので、それを間違えると専門科目の進級・卒業所要単位が不足してしまうおそれがあります。

また、実験・実習科目については、特定のコースを登録している学生の履修を優先させるといった履修制限を行う場合があります。これらは、履修ガイダンスなどで説明します。

## 9-7 特別プログラム

### (1) 概要

工学部では、学際的な学びをさらに推進するため、4学科共通で学べる3つの特別プログラムを用意しています。それぞれの学科で学んだ専門的な知見に、他学科の関連科目の学びをプラスし、より多角的な視野を身につけることで、幅広い課題解決能力を持つエンジニアを育成することを目的としています。他学科の科目を研究などに応用することを想定しており、自学科の科目を高いレベルで修得している学生を対象とします。

特別プログラムの名称と履修推奨科目は次ページのとおりです。

### (2) 特別プログラム受講条件と受講の方法

以下の2つの条件を満たした学生について、いずれか1つの特別プログラムの受講を認めます。

- ・2年終了時の累積GPAが3.2以上
- ・2年終了時の修得単位が80単位以上

受講を希望する場合、3年前期の履修登録期間内に学務課に所定の申請書を提出してください。Web履修登録ができない他学科科目については、書類の提出による登録となります。

### (3) 特別プログラム修了要件と修了証

卒業までに以下の2つの条件を満たすことで特別プログラムの修了となります。

- ・学系内推奨科目を3科目以上修得する
- ・学系外推奨科目を2科目以上修得する

修得単位は、所属学科の専門選択科目として認定し、修了者には卒業時に修了証を発行します。

#### (4) その他

詳細については、3年次のガイダンスでお知らせします。

#### 特別プログラム1：「ロボットテクノロジー」

機械・電子・システム学系			情報・デザイン・メディア学系		
科目名	開講学科	年次	科目名	開講学科	年次
制御工学 I	機械	2	センサ工学 (★2)	情報	2
ロボット工学 (★1)	機械	3	ロボット工学 (★1)	情報	3
メカトロニクス	機械	3	情報機器インタフェース	情報	3
コンピュータハードウェア I	電子	2	感性デザイン論	デザイン	2
コンピュータハードウェア II	電子	3	プロダクトデザイン論	デザイン	2
センサ工学 (★2)	電子	3	ユニバーサルデザイン	デザイン	3

#### 特別プログラム2：「都市インフラテクノロジー」

機械・電子・システム学系			情報・デザイン・メディア学系		
科目名	開講学科	年次	科目名	開講学科	年次
航空学基礎	機械	2	コンピュータネットワーク (★3)	情報	2
コンピュータネットワーク (★3)	電子	2	情報セキュリティ	情報	2
通信ネットワーク	電子	3	通信工学	情報	3
発電工学	電子	3	シミュレーションとモデル	情報	3
			ソーシャルデザイン論	デザイン	3
			ユニバーサルデザイン	デザイン	3
			景観デザイン論	デザイン	3

#### 特別プログラム3：「AIテクノロジー」

機械・電子・システム学系			情報・デザイン・メディア学系		
科目名	開講学科	年次	科目名	開講学科	年次
情報処理論	機械	2	センサ工学 (★2)	情報	2
メカトロニクス	機械	3	人工知能	情報	2
知能システム工学	機械	3	自然言語処理	情報	3
生体電子情報工学	電子	3	画像工学 (★4)	情報	3
音響工学	電子	3	パターン認識と機械学習	情報	3
画像工学 (★4)	電子	3	感性デザイン論	デザイン	2
センサ工学 (★2)	電子	3	Webデザイン論	デザイン	2

## 10 機械・通信・システム学系の開講科目と履修上の注意

### 10-1 進級・卒業要件

機械・通信・システム学系（機械システム工学科、電子システム工学科）の学生は、学科で指定されている科目を履修し、下表に示す単位数を修得することで、進級、卒業することができます。学科によって基準が異なりますので、注意してください。

#### ○機械システム工学科

科目区分		2年進級	3年進級	4年進級	卒業		
全学共通教養科目	A系列		14 ★	16 ★	2	+8 **	
	B系列				2		
	C系列				2		
	D系列				2		
	E系列						
専門基礎科目	英語		6	8 *4	10	+4 *6	
	数学・物理学・化学		10	14 *5	14		
専門科目	必修 *1	4	+22 *3	9	13		21
	選択 ☆			22	49		59 *7
自由科目 *2							
合計		26	61	100	124		

\*1 専門科目の必修科目は、47ページで確認してください。

\*2 自由科目については、79ページを参照してください。

\*3 2年進級には、専門科目の必修4単位に加えて、任意の科目区分での単位が合計22単位必要です。

\*4 4年進級には、必修科目（English Basic L&S I・II、English Basic R&W I・II、English Intermediate L&S I・II、English Intermediate R&W I・II）を全て修得しておく必要があります。

\*5 4年進級には、必修科目（解析学Ⅰ、解析学Ⅱ、線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、基礎科学実験）を全て修得しておく必要があります。

\*6 卒業には、各科目区分で指定されている単位数に加えて、任意の科目区分での単位が合計4単位必要です。

\*7 コース修了には別途要件があります。

☆ 学際的な学修を推進するために、コラボレーションコースと特別プログラムで指定した他学科の専門科目を修得した場合は、選択科目として加算します。

★ 卒業には、A～Dの各系列でそれぞれ2単位を修得する必要があります。

★★ 専門基礎科目の選択科目（基礎数学、解析学Ⅰ演習、解析学Ⅱ演習、解析学Ⅲ、化学A・B）の修得単位は、全学共通教養科目として8単位まで充当できます。

## ○電子システム工学科

科目区分		2年進級	3年進級	4年進級	卒業		
専門科目	必修 *1	5	9	13	21		
	選択 ☆	27	24	49	59 *7		
全学共通教養科目	A系列		14 ★	16 ★	2	+8 ★★	
	B系列				2		
	C系列				2		
	D系列				2		
	E系列				2		
専門基礎科目	英語		6	8 *3	10		
	数学・ 物理学・ 化学		必修	10	8 *4	8	
			選択必修		2	2	+4 *5
			選択				
指定選択							
自由科目 *2					+4 *6		
合計		32	63	100	124		

\*1 専門科目の必修科目は、51ページで確認してください。

\*2 自由科目については、79ページを参照してください。

\*3 4年進級には、必修科目（English Basic L&S I・II、English Basic R&W I・II、English Intermediate L&S I・II、English Intermediate R&W I・II）を全て修得しておく必要があります。

\*4 4年進級には、必修科目（解析学Ⅰ、線形代数Ⅰ、物理学Ⅱ、基礎科学実験）を全て修得しておく必要があります。

\*5 4年進級には、選択必修科目（解析学Ⅱ、線形代数Ⅱ、物理学Ⅰ）の2単位以上を含めて計6単位を修得しておく必要があります。

\*6 卒業には、各科目区分で指定されている単位数に加えて、任意の科目区分での単位が合計4単位必要です。

\*7 コース修了には別途要件があります。

☆ 学際的な学修を推進するために、コラボレーションコースと特別プログラムで指定した他学科の専門科目を修得した場合は、選択科目として加算します。

★ 卒業には、A～Dの各系列でそれぞれ2単位を修得する必要があります。

★★ 専門基礎科目の選択科目（解析学Ⅰ演習、解析学Ⅱ演習、解析学Ⅲ、化学A・B）および指定選択科目（基礎数学、基礎数学演習）の修得単位は、全学共通教養科目として8単位まで充当できます。

## 10-2 進級標準単位数

機械・通信・システム学系では、次に示す進級標準単位数を設定しています。スムーズな進級、卒業のため、この進級標準単位数を目安に、履修計画及び単位修得を進めてください。

科目区分	2年進級時	3年進級時	4年進級時
合計（区分なし）	40以上	80以上	116以上

- ・ 進級時に進級標準単位数を下回った場合、状況に応じて注意や面接指導、保護者への連絡等を行います。
- ・ 進級標準単位を上回っても、進級要件を満たさなければ進級できません。

## 10-3 コースの種類とコース修了要件（機械・通信・システム学系）

### (1) コース修了要件（全コース共通）

卒業時に単位修得しているコース指定科目、コースコア科目によってコース修了を認定します。

	科目種別	単位数
専門科目	コース指定科目	34 ※
	コースコア科目	

※ コース指定科目とコースコア科目の内訳は、コースによって異なりますので、10-4～5の表を参照してください。

### (2) 設置コース

所属する学科に含まれるコースを選択することができます。また、コラボレーションに含まれるコースは両学科から選択することができます。

機械・通信・システム学系で設置しているコースは、次ページの表のとおりです。

学 系	学 科	コ ー ス 名
機械・通信・ システム学系	機械システム 工学科	知能システム (M I S)
		メカニカルデザイン (M M D)
		システムデザイン (M S D)
		国際 (M I) ※
	コラボレーション	ロボティクス (R T)
		エコエネルギーシステム (E E)
	電子システム 工学科	次世代通信ネットワークシステム (E N C)
		A Iメディアテクノロジー (E A M)
		I o Tエレクトロニクス (E I E)
		国際 (E I) ※

※国際コースについては、17章で説明します。

#### 10-4 機械システム工学科の専門科目

機械システム工学科の専門科目は、次の折り込みページを参照してください。



10-4

機械システム工学科の専門科目  
およびカリキュラムマップ

コース名と略称  
 MIS : 知能システム  
 MMD : メカニカルデザイン  
 MSD : システムデザイン  
 RT : ロボティクス (コラボコース)  
 EE : エコエネルギーシステム (コラボコース)

必修科目 (◎) : 卒業に必要な科目  
 コース指定科目 (●) : コース修了に必要な科目  
 コースコア科目 (○) : コース修了のために決められた  
 単位数以上を修得する科目

ディプロマ・ポリシー (DP)

DP1 : 教養・基礎学力  
 DP2 : 専門知識・技術 (基本的知識、専門的知識、実践的技術)  
 DP3 : コミュニケーション能力  
 DP4 : 総合課題解決能力

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	コース名 (略称) : ◎ 必修、● コース指定、○ コースコア					科目ナンバー	カリキュラムマップ : ◎ DP1に直結する科目、○ DP1に関連する科目					
						MIS	MMD	MSD	RT	EE		DP1	DP2			DP3	DP4
													基本的知識	専門的知識	実践的技術		
必修科目	機械システム工学基礎 I	1	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-1-301-01		◎	○	○	○	
	機械システム工学基礎 II	1	後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-1-301-02		◎	○	○	○	
	機械システム工学設計製図 I	2	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-2-301-03		○	◎	○		
	機械システム工学設計製図 II	2	後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-2-301-04		○	◎	○		
	機械システム工学実験 I	2	後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-2-301-05		○	◎	○		
	機械システム工学実験 II	3	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-3-301-06		○	◎	○		
	機械システム工学ゼミ	3	後期	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-3-301-07		○	◎	○	○	
	機械システム工学輪講 I	4	前期	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-4-301-08		○	◎	○	○	
	機械システム工学輪講 II	4	後期	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-4-301-09		○	◎	○	○	
	卒業研究 I	4	前期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-4-301-10		○	○	○	○	◎
	卒業研究 II	4	後期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	DMS-4-301-11		○	○	○	○	◎
選択科目	図学	1	後期	2		○	○	○	○	○	DMS-1-311-01		◎				
	工業力学 A	1	後期	2		○	○	○	○	○	DMS-1-311-61		◎				
	電算機言語 I	1	後期	2		○	○	○	○	○	DMS-1-311-03		◎	○			
	材料力学 I	2	前期	2		○	●	○	○	○	DMS-2-311-04		◎	○			
	工業力学 B	2	前期	2		○		○	○		DMS-2-311-62		◎	○			
	工業熱力学 I	2	前期	2		○	○	○		●	DMS-2-311-06		○	◎			
	流れ学基礎	2	前期	2			○	●		○	DMS-2-311-07		◎	○			
	電算機言語 II	2	前期	2		●			○		DMS-2-311-08		○	◎			
	情報処理論 (特3)	2	前期	2		○			○		DMS-2-311-09		◎				
	機械工作法	2	前期	2		○	○		○	○	DMS-2-311-10		○	◎	○		
	材料基礎論	2	前期	2			●	○			DMS-2-311-11		○	◎			
	工業数学 I	2	前期	2		○	○	○	○	○	DMS-2-311-12		◎	○			
	メカニズムの基礎	2	前期	2		○	●				DMS-3-311-68		○	◎	○		
	システム設計基礎	2	後期	2			○				DMS-2-311-51		○	◎	○		
	材料力学 II	2	後期	2			○				DMS-2-311-13		○	◎	○		
	機械力学	2	後期	2		●	○		○		DMS-2-311-14		○	◎			
	工業熱力学 II	2	後期	2				○		●	DMS-2-311-15		○	◎	○		
	流体力学	2	後期	2		○	○	●		○	DMS-2-311-17		○	◎			
	航空学基礎 (特2)	2	後期	2				○			DMS-2-311-18		○	◎			
	コンピュータ言語と演習	2	後期	2				●	○		DMS-2-311-19		○	◎	○		○
	基礎電気回路	2	後期	2		○		○	○	○	DMS-2-311-20		◎				
	工業数学 II	2	後期	2					○	○	DMS-2-311-21		◎	○			
	ロボティクスの基礎	2	後期	2		○		○	○		DMS-2-311-67		○	◎	○		
	制御工学 I (特1)	2	後期	2		○		○	●		DMS-2-311-59		○	◎	○		
	伝熱工学	3	前期	2						●	DMS-3-311-23		○	◎	○		
	輸送工学	3	前期	2				○		○	DMS-3-311-58		○	◎			
	制御工学 II	3	前期	2				○	●	○	DMS-3-311-60		○	◎	○		
	電気学	3	前期	2		○			○	○	DMS-3-311-26		○	◎			
	ロボット工学 (特1)	3	前期	2					●		DMS-3-311-27		○	◎	○		
	メカトロニクス (特1・3)	3	前期	2		●			○	○	DMS-3-311-28		○	◎	○		
	機械設計工学	3	前期	2		○	●				DMS-3-311-29		○	○	◎		
	システム設計 A	3	前期	2			○		○		DMS-3-311-63		○	◎	○		○
	航空流体力学	3	前期	2				○			DMS-3-311-33		○	◎			
統計・信頼性工学	3	前期	2		○	○			○	DMS-3-311-38		○	◎				
エネルギー変換工学	3	後期	2			○			○	DMS-3-311-69		○	◎				
システム設計 B	3	後期	2			○	●			DMS-3-311-64		○	○	◎		○	
知能システム工学 (特3)	3	後期	2		●			○		DMS-3-311-50		○	◎	○		○	
学外実習	3	後期	2							DMS-2-311-52				◎	○	○	
自動設計 (CAD・CAM論)	4	前期	2			○				DMS-4-311-43		○	◎	○			
栽培 I (★)	3	前期	1							DMS-3-311-44		○	◎				
栽培 II (★)	3	前期	1							DMS-3-311-45		○	◎				
木材加工 (★)	3	後期	2							DMS-3-311-46		○	◎				

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	コース名(略称): ◎ 必修、● コース指定、○ コースコア					科目ナンバー	カリキュラムマップ: ◎ DPIに直結する科目、○ DPIに関連する科目						
						MIS	MMD	MSD	RT	EE		DPI	DP2			DP3	DP4	
													基本的知識	専門的知識	実践的技術			
選択科目(学際領域)	コラボコース	マイクロコンピュータ [電子]	3	前期	2					●		DES-3-311-35		○	◎	○		
		電気機器学 [電子]	3	前期	2					○		DES-3-311-32		○	◎	○		
		半導体デバイス [電子]	3	前期	2						○	DES-3-311-26		○	◎	○		
		センサ工学 [電子] (特1・3)	3	後期	2						●	DES-3-311-47		○	◎			
	特別プログラム1	コンピュータハードウェア I [電子]	2	後期	2							DES-2-311-20		○	◎			
		コンピュータハードウェア II [電子]	3	後期	2							DES-3-311-44		○	◎			
		センサ工学 [電子]	3	後期	2							DES-3-311-47		○	◎			
		情報機器インタフェース [情報]	3	後期	2							DCS-3-311-29	※各学科のカリキュラムマップを参照してください。					
		感性デザイン論 [デザイン]	2	後期	2							DDE-2-311-10						
		プロダクトデザイン論 [デザイン]	2	後期	2							DDE-2-311-36						
		ユニバーサルデザイン [デザイン]	3	後期	2							DDE-3-311-41						
	特別プログラム2	コンピュータネットワーク [電子]	2	後期	2							DES-2-311-23		○	◎	○		
		通信ネットワーク [電子]	3	後期	2							DES-3-311-42		○	◎			
		発電工学 [電子]	3	後期	2							DES-3-311-49		○	◎			
		情報セキュリティ [情報]	2	後期	2							DCS-2-311-15	※各学科のカリキュラムマップを参照してください。					
		通信工学 [情報]	3	前期	2							DCS-3-311-32						
		シミュレーションとモデル [情報]	3	前期	2							DCS-3-311-48						
		ソーシャルデザイン論 [デザイン]	3	前期	2							DDE-3-311-23						
		ユニバーサルデザイン [デザイン]	3	後期	2							DDE-3-311-41						
	特別プログラム3	景観デザイン論 [デザイン]	3	後期	2							DDE-3-311-42						
		生体電子情報工学 [電子]	3	前期	2							DES-3-311-46		○	◎			
		音響工学 [電子]	3	後期	2							DES-3-311-25		○	◎			
		画像工学 [電子]	3	後期	2							DES-3-311-43		○	◎			
		センサ工学 [電子]	3	後期	2							DES-3-311-47		○	◎			
		人工知能 [情報]	2	後期	2							DCS-2-311-43	※各学科のカリキュラムマップを参照してください。					
		自然言語処理 [情報]	3	前期	2							DCS-3-311-50						
		パターン認識と機械学習 [情報]	3	後期	2							DCS-3-311-51						
	選択科目(工学部共通)	講座「科学・技術と人間」	1	前期	2							DMS-1-311-71		◎				
A Iと社会		2	前期	2							DMS-2-311-56		○	◎				
ユーザエクスペリエンスデザイン		2	前期	2							DMS-2-311-57		○	◎				
日本語コミュニケーション I		2	後期	2							DMS-2-311-48		○			◎		
日本語コミュニケーション II		3	前期	2							DMS-3-311-49		○			◎		
技術者倫理		3	前期	2							DMS-3-311-47		○	◎				
知的財産権		3	後期	2							DMS-3-311-54		○	○		◎		
テクニカルライティング		3	後期	2							DMS-3-311-55		○	○	○	◎		
事業化デザイン論		3	後期	2							DMS-3-311-70		○	◎				
選択科目(教職科目)		職業指導 I (◆)	3	前期	2							DMS-3-321-01						
	職業指導 II (◆)	3	後期	2							DMS-3-321-02							

特1～3: 特別プログラム1～3の対象科目。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

★: 教職課程(中学校教諭一種免許「技術」)用の必修科目です。なお、栽培I・IIを履修する場合は、別途、実習費がかかる場合があります。

☆: 学際的な学修を推進するために、他学科の専門科目のうち、ここに記載した科目(学際領域科目)を履修した場合、その単位は選択科目の単位とすることができます。ただし、特別プログラム1～3の科目は、3年次に特別プログラムの受講条件を満たしていないと履修できません(センサ工学[電子]をコラボコース科目の科目として履修することには受講条件はありません)。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

◆: 進級・卒業単位には含まれません。また、教職課程を登録していないと履修できません(教職課程については、18章参照)。

その他留意事項: ①実験、実習および製図は受講人数が制限されているため、決められた学年・学期に必ず履修し、単位を修得するように注意してください。

②国際コース専用専門科目の「英語関連科目」は、国際コース以外の学生も4単位まで履修可能です。

国際コース英語科目担当教員と工学部教務委員会の許可を得たうえで受講してください(17章の「17-3 開講科目」参照)。

2年進級に必要な単位数の下限	必修(◎)	4
	必修(◎)	9
3年進級に必要な単位数の下限	選択	22
	合計	31
4年進級に必要な単位数の下限	必修(◎)	13
	選択	49
	合計	62
卒業に必要な単位数の下限	必修(◎)	21
	選択	59
	合計	80

		コース名(略称)				
		MIS	MMD	MSD	RT	EE
コース修了認定に必要な単位数	コース指定(●)	8	8	8	8	8
	コースコア(○)	26	26	26	26	26
	合計	34				

## 10-5 電子システム工学科の専門科目

電子システム工学科の専門科目は、次の折り込みページを参照してください。



10-5

電子システム工学科の専門科目  
およびカリキュラムマップ

コース名と略称  
 ENC: 次世代通信ネットワークシステム  
 EAM: AIメディアテクノロジー  
 EIE: IoTエレクトロニクス  
 RT: ロボティクス (コラボコース)  
 EE: エコエネルギーシステム (コラボコース)

必修科目 (◎): 卒業に必要な科目  
 コース指定科目 (●): コース修了に必要な科目  
 コースコア科目 (○): コース修了のために決められた  
 単位数以上を修得する科目

ディプロマ・ポリシー (DP)

DP1: 教養・基礎学力  
 DP2: 専門知識・技術 (基本的知識、専門的知識、実践的技術)  
 DP3: コミュニケーション能力  
 DP4: 総合課題解決能力

科目区分 必修・選択	授業科目名	配当 年次	開講期別	単位数	主要 授業 科目	コース名 (略称) : ◎ 必修、● コース指定、○ コースコア					科目ナンバー	カリキュラムマップ : ◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目						
						ENC	EAM	EIE	RT	EE		DP1	DP2			DP3	DP4	
													基本的知識	専門的知識	実践的技術			
専門科目 (必修科目)	システムエンジニア養成講座 I	1	前期	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-1-301-01	◎	○			○		
	基礎電子工学実習	1	前・後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-1-301-02	○	○	◎				
	コンピュータ基礎実習	1	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-1-301-03	○	○	◎				
	電子システム工学実験 I	2	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-2-301-04	○	○	◎				○
	電子システム工学実験 II	2	後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-2-301-05	○	○	◎				○
	電子システム工学実験 III	3	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-3-301-06	○	○	◎				○
	電子システム工学実験 IV	3	後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-3-301-07	○	○	◎				○
	電子システム工学実験 V	4	前期	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-4-301-08	○	◎	○	○			○
	電子システム工学実験 VI	4	後期	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-4-301-09	○	◎	○	○			○
	卒業研究 I	4	前期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-4-301-10	○	○	○	○			◎
	卒業研究 II	4	後期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	DES-4-301-11	○	○	○	○			◎
専門基礎科目 (★)	解析学 I	1	前・後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	FEN 1-201-01	◎	○					○
	解析学 II	1・2	後・前期	2	○	○	●	●	○	●	FEN 1-201-08	◎	○					
	解析学 III	2	前期	2							FEN 2-201-13	◎	○					
	線形代数 I	1	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	FEN 1-201-07	◎	○					○
	線形代数 II	1	後期	2	○	○	○	○	○	○	FEN 1-201-12	◎	○					
	物理学 I	1	前期	2	○	○	○	●	●	●	FEN 1-202-01	◎	○					
	物理学 II	1	後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	FEN 1-202-02	◎	○					○
	基礎科学実験	1	前・後期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	FEN 1-205-01	◎	○					○
専門科目 (選択科目)	基礎電気回路	1	前期	2		○	○	○	○	○	DES-1-311-01		◎	○				
	電気回路 I	1	後期	2		○	○	○	○	●	DES-1-311-02		◎	○				
	電気回路 I 演習	1	後期	1		○	○	○	○	○	DES-1-311-03		◎	○				
	コンピュータ基礎	1	後期	2		○	○	○	○	○	DES-1-311-04		◎	○				
	基礎電気数学	1	後期	2		○	○	○	○	○	DES-1-311-05		◎	○				
	プログラミング基礎及び演習 I	1	後期	2		○	●	○	●	○	DES-1-311-06		○	○	◎			○
	基礎電磁気学	2	前期	2		●	○		○	○	DES-2-311-07		○	◎				
	電気回路 II	2	前期	2		○	○	○		○	DES-2-311-09		○	◎				
	電気回路 II 演習	2	前期	1			○				DES-2-311-10		○	◎				
	デジタル回路	2	前期	2		○	○	○	○		DES-2-311-11		○	◎	○			
	デジタル回路演習	2	前期	1			○				DES-2-311-12		○	◎	○			
	プログラミング基礎及び演習 II	2	前期	2		○	●	●		○	DES-2-311-13		○	○	◎			○
	電気・電子製図	2	前期	2							DES-2-311-14		○	○	◎			
	応用電磁気学	2	後期	2		○	○			○	DES-2-311-15		○	◎				
	電気磁気測定	2	後期	2		○				○	DES-2-311-16		○	◎				
	電子回路 I	2	後期	2		○	○	○	○	○	DES-2-311-17		○	◎	○			
	回路設計 I	2	後期	2		○	○	○		○	DES-2-311-18		○	◎	○			
	応用フーリエ解析	2	後期	2		○	○	○			DES-2-311-19		○	◎				
	コンピュータハードウェア I (特1)	2	後期	2				●	○		DES-2-311-20		○	◎				
	プログラミング論 A	2	後期	2				●	○		DES-2-311-63		○	◎				
	電気法規及び施設管理	2	後期	2							DES-2-311-22		○	◎				
	コンピュータネットワーク (特2)	2	後期	2		○		○	○		DES-2-311-23		○	◎	○			
	高周波・測定	3	前期	2		○				○	DES-3-311-24		○	◎				
	半導体デバイス	3	前期	2						○	DES-3-311-26		○	◎				
	電子回路 II	3	前期	2		○	○	○	○	○	DES-3-311-27		○	◎	○			
	回路設計 II	3	前期	2		○	○			○	DES-3-311-28		○	◎	○			
	通信方式	3	前期	2		●	○				DES-3-311-29		○	◎				
	プログラミング論 B	3	前期	2					○		DES-3-311-64		○	◎				
	応用確率論	3	前期	2							DES-3-311-31		○	◎				
	電気機器学	3	前期	2					○	●	DES-3-311-32		○	◎				
	生体電子情報工学 (特3)	3	前期	2					●		DES-3-311-46		○	◎				
	マイクロコンピュータ	3	前期	2				○	●		DES-3-311-35		○	◎				
	デジタル信号処理	3	前期	2		○	○	●	○		DES-3-311-36		○	◎	○			
	電子材料・物性	3	前期	2						○	DES-3-311-37		○	◎				
	エレクトロニクス応用実験	3	前・後期	2		●	○	●	○	○	DES-3-311-38		○	○	◎			○
音響工学 (特3)	3	後期	2			●				DES-3-311-25		○	◎					
生体計測工学	3	後期	2							DES-3-311-33		○	◎					
自動制御	3	後期	2					●		DES-3-311-39		○	◎					
パルス回路	3	後期	2					○		DES-3-311-41		○	◎					
通信ネットワーク (特2)	3	後期	2		●					DES-3-311-42		○	◎					
画像工学 (特3)	3	後期	2			●				DES-3-311-43		○	◎					
コンピュータハードウェア II (特1)	3	後期	2					○		DES-3-311-44		○	◎					
応用プログラミング	3	後期	2					○		DES-3-311-45		○	◎	○				

科目区分 必修・選択	授業科目名	配当 年次	開講期別	単位数	主要 授業 科目	コース名(略称) : ◎ 必修、● コース指定、○ コースコア					科目ナンバー	カリキュラムマップ : ◎ D P1に直結する科目、○ D P1に関連する科目					
						ENC	EAM	EIE	RT	EE		D P1	D P2			D P3	D P4
													基本的知識	専門的知識	実践的技術		
専門科目 (選択科目)	センサ工学(特1・3)	3	後期	2				●	○	○	DES-3-311-47		○	◎	○		
	発電工学(特2)	3	後期	2						●	DES-3-311-49		○	◎			
	電波法規	3	後期	2			○				DES-3-311-50		○	◎			
	システムエンジニア養成講座Ⅱ	3	後期	1							DES-3-311-52		○	◎		○	
	学外実習	3	後期	1							DES-3-311-53		○	○	◎	○	○
	パワーエレクトロニクス概論	3	後期	2						●		DES-3-311-57		○	◎		
専門科目 (選択科目・学際領域☆)	コラボ コース	伝熱工学[機械]	3	前期	2					○	DMS-3-311-23		○	◎	○		
		ロボット工学[機械](特1)	3	前期	2			●			DMS-3-311-27		○	◎	○		
		メカトロニクス[機械](特1・3)	3	前期	2			○			DMS-3-311-28		○	◎	○		
		工業熱力学Ⅰ[機械]	2	前期	2					○	DMS-2-311-06		○	◎			
	特別 プログラ ム1	制御工学Ⅰ[機械]	2	後期	2						DMS-2-311-59		○	◎	○		
		ロボット工学[機械]	3	前期	2						DMS-3-311-27		○	◎	○		
		メカトロニクス[機械]	3	前期	2						DMS-3-311-28		○	◎	○		
		情報機器インタフェース[情報]	3	後期	2						DCS-3-311-29		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		感性デザイン論[デザイン]	2	後期	2						DDE-2-311-10		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		プロダクトデザイン論[デザイン]	2	後期	2						DDE-2-311-36		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		ユニバーサルデザイン[デザイン]	3	後期	2						DDE-3-311-41		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
	特別 プログラ ム2	航空学基礎[機械]	2	後期	2						DMS-2-311-18		○	◎			
		情報セキュリティ[情報]	2	後期	2						DCS-2-311-15		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		通信工学[情報]	3	前期	2						DCS-3-311-32		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		シミュレーションとモデル[情報]	3	前期	2						DCS-3-311-48		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		ソーシャルデザイン論[デザイン]	3	前期	2						DDE-3-311-23		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		ユニバーサルデザイン[デザイン]	3	後期	2						DDE-3-311-41		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
	特別 プログラ ム3	景観デザイン論[デザイン]	3	後期	2						DDE-3-311-42		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		情報処理論[機械]	2	前期	2						DMS-2-311-09		◎				
		メカトロニクス[機械]	3	前期	2						DMS-3-311-28		○	◎	○		
		知能システム工学[機械]	3	後期	2						DMS-3-311-50		○	◎	○		○
		人工知能[情報]	2	後期	2						DCS-2-311-43		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		自然言語処理[情報]	3	前期	2						DCS-3-311-50		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
		パターン認識と機械学習[情報]	3	後期	2						DCS-3-311-51		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。				
感性デザイン論[デザイン]		2	後期	2						DDE-2-311-10		※各学科のカリキュラムマップを参照してください。					
専門科目 (選択科目: 工学部共通)	講座「科学・技術と人間」	1	前期	2						DES-1-311-68	◎						
	A Iと社会	2	前期	2						DES-2-311-58	○	◎					
	ユーザエクスペリエンスデザイン	2	前期	2						DES-2-311-59	○	◎					
	日本語コミュニケーションⅠ	2	後期	2						DES-2-311-55		○				◎	
	日本語コミュニケーションⅡ	3	前期	2						DES-3-311-56		○				◎	
	技術者倫理	3	前期	2						DES-3-311-54		○	○			◎	
	知的財産権	3	後期	2						DES-3-311-61		○	○			◎	
	テクニカルライティング	3	後期	2						DES-3-311-62		○	○	○		◎	
	事業化デザイン論	3	後期	2						DES-3-311-67		○	◎				
	選択科目 (教職科目)	職業指導Ⅰ(◆)	3	前期	2						DES-3-321-01						
職業指導Ⅱ(◆)		3	後期	2						DES-3-321-02							

特1～3 : 特別プログラム1～3の対象科目。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

★ : 専門基礎科目の必修・選択の区分は、12章を参照してください。

☆ : 学際的な学修を推進するために、他学科の専門科目のうち、ここに記載した科目(学際領域科目)を履修した場合、その単位は選択科目の単位とすることができます。ただし、特別プログラム1～3の科目は、3年次に特別プログラムの受講条件を満たしていないと履修できません(ロボット工学[機械]、メカトロニクス[機械]、工業熱力学Ⅰ[機械]をコラボコース科目の科目として履修することには受講条件はありません)。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

◆ : 進級・卒業単位には含まれません。また、教職課程を登録していないと履修できません(教職課程については、18章参照)。

その他留意事項 : 国際コース専用専門科目の「英語関連科目」は、国際コース以外の学生も4単位まで履修可能です。

国際コース英語科目担当教員と工学部教務委員会の許可を得たうえで受講してください(17章の「17-3 開講科目」参照)。

2年進級に必要な単位数の下限	必修(◎)	5
3年進級に必要な単位数の下限	必修(◎)	9
	選択	24
	合計	33
4年進級に必要な単位数の下限	必修(◎)	13
	選択	49
	合計	62
卒業に必要な単位数の下限	必修(◎)	21
	選択	59
	合計	80

	コース名(略称)	コース名(略称)				
		ENC	EAM	EIE	RT	EE
コース修了認定に必要な単位数	コース指定(●)	8	10	14	12	12
	コースコア(○)	26	24	20	20	22
	合計	34				

電子システム工学科： 年次別の授業計画

(学科全体)

分野	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
実験・実習 輪講 卒業研究	システムエンジニア養成講座Ⅰ 基礎電子工学実習		電子システム工学実験Ⅰ	電子システム工学実験Ⅱ	電子システム工学実験Ⅲ エレクトロニクス応用実験	電子システム工学実験Ⅳ システムエンジニア養成講座Ⅱ 学外実習 エレクトロニクス応用実験	電子システム工学輪講Ⅰ 卒業研究Ⅰ	電子システム工学輪講Ⅱ 卒業研究Ⅱ
電気・電子回路	基礎電気回路	基礎電気数学 電気回路Ⅰ 電気回路Ⅰ演習	電気回路Ⅱ 電気回路Ⅱ演習 電気・電子製図	電子回路Ⅰ 回路設計Ⅰ 電気法規及び施設管理	電子回路Ⅱ 回路設計Ⅱ	パルス回路		
物性・デバイス					電子材料・物性 半導体デバイス 電気機器学	パワーエレクトロニクス概論 発電工学 センサ工学		
計測・制御			基礎電磁気学	応用電磁気学 電気磁気測定	高周波・測定 生体電子情報工学	自動制御 生体計測工学		
通信・情報				応用フーリエ解析	通信方式 デジタル信号処理 応用確率論	通信ネットワーク 画像工学 音響工学 電波法規		
コンピュータ	コンピュータ基礎実習	コンピュータ基礎 プログラミング基礎及び演習Ⅰ	デジタル回路 デジタル回路演習 プログラミング基礎及び演習Ⅱ	コンピュータハードウェアⅠ プログラミング論A コンピュータネットワーク	マイクロコンピュータ プログラミング論B	コンピュータハードウェアⅡ 応用プログラミング		
学際領域			(工業熱力学Ⅰ)		(ロボット工学) (メカトロニクス) (伝熱工学)			

注) 年度によっては休講となる科目もあります。また、開講学年や期別を変更する場合があります。( )は機械システム工学科科目。



## 1 1 情報・デザイン・メディア学系の開講科目と履修上の注意

### 1 1-1 進級・卒業要件

情報・デザイン・メディア学系（情報工学科、デザイン学科）の学生は、学科で指定されている科目を履修し、下表に示す単位数を修得することで、進級、卒業することができます。

#### ○情報・デザイン・メディア学系

科目区分		2年進級	3年進級	4年進級		卒業		
全学共通 教養科目	A系列	26	62	16	+16 *4	2	+8 **	
	B系列					2		
	C系列					2		
	D系列					2		
	E系列							
専門基礎科目	数学・物理学・ 化学	26	62	8	+16 *4	14 *	+4 *5	
	英語					必修 *1		8
						選択必修		2
専門科目	必修 *2	26	62	60	+16 *4	12	+4 *5	
	選択 ☆					68 *6		
自由科目 *3								
合計		26	62	100		124		

\*1 専門基礎科目の英語の必修科目は、75ページで確認してください。

\*2 専門科目の必修科目は、情報工学科は61ページ、デザイン学科は65ページで確認してください。

\*3 自由科目については、79ページを参照してください。

\*4 4年進級には、各科目区分で指定されている単位数に加えて、任意の科目区分での単位が合計16単位必要です。

\*5 卒業には、各科目区分で指定されている単位数に加えて、任意の科目区分での単位が合計4単位必要です。

\*6 コース修了には別途要件があります。

☆ 学際的な学修を推進するために、以下の①と②の科目の単位を修得した場合、その単位は選択科目の単位とすることができます。ただし、その単位数は、①と②を合わせて30単位を上限とします。

①学系内他学科（情報工学科かデザイン学科）の専門科目

②特別プログラムで指定した機械システム工学科と電子システム工学科の専門科目

★ 卒業には、A～Dの各系列でそれぞれ2単位を修得する必要があります。

★★ 全学共通教養科目と専門基礎科目の「数学・物理学・化学」は、相互に8単位まで充当できます。

## 11-2 進級標準単位数

情報・デザイン・メディア学系では、次に示す進級標準単位数を設定しています。スムーズな進級、卒業のため、この進級標準単位数を目安に、履修計画及び単位修得を進めてください。

科目区分	2年進級時	3年進級時	4年進級時
合計（区分なし）	36以上	72以上	108以上

- ・ 進級時に進級標準単位数を下回った場合、状況に応じて注意や面接指導、保護者への連絡等を行います。
- ・ 進級標準単位数を上回っても、進級要件を満たさなければ進級できません。

## 11-3 コースの種類とコース修了要件（情報・デザイン・メディア学系）

### (1) コース修了要件（全コース共通）

卒業時に単位修得しているコース指定科目、コースコア科目によってコース修了を認定します。

	科目種別	単位数
専門科目	コース指定科目	18
	コースコア科目	16

### (2) 設置コース

所属する学科に含まれるコースを選択することができます。また、コラボレーションに含まれるコースは両学科から選択することができます。

情報・デザイン・メディア学系で設置しているコースは、次ページの表のとおりです。

学 系	学 科	コ ー ス 名
情報・デザイン・ メディア学系	情報工学科	システムエンジニアリング (CSE)
		インターネット&セキュリティ (CIS)
		知能情報 (CAI)
		国際 (CI) ※
	コラボレーション	ビジュアルコンピューティング (VC)
		Webデザイン (WD)
	デザイン学科	感性デザイン (DKD)
		生活デザイン (DLD)
		プロダクトイノベーション (DPI)
		メディアクリエイティブ (DMC)
		ソーシャルデザイン (DSD)
		国際 (DI) ※

※国際コースについては、17章で説明します。



#### 1 1 - 4 情報工学科の専門科目

情報工学科の専門科目は、次の折り込みページを参照してください。



11-4

情報工学科の専門科目  
およびカリキュラムマップ

コース名と略称  
CSE: システムエンジニアリング  
CIS: インターネット&セキュリティ  
CAI: 知能情報  
VC: ビジュアルコンピューティング (コラボコース)  
WD: Webデザイン (コラボコース)

必修科目 (◎): 卒業に必要な科目  
コース指定科目 (●): コース修了に必要な科目  
コースコア科目 (○): コース修了のために決められた  
単位数以上を修得する科目

ディプロマ・ポリシー (DP)

DP1: 教養・基礎学力  
DP2: 専門知識・技術  
(基礎知識、応用知識、実践知識、問題解決技術)  
DP3: コミュニケーション能力  
DP4: 総合課題解決能力

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	コース名 (略称) : ◎ 必修、● コース指定、○ コースコア					科目ナンバ	カリキュラムマップ: ◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目						
						CSE	CIS	CAI	VC	WD		DP1	DP2				DP3	DP4
						基礎知識	応用知識	実践知識	問題解決									
必修科目	基礎ゼミ	1	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DCS-1-301-01	○	◎				○	
	コンピュータリテラシー	1	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DCS-1-301-02	○	◎				○	
	情報工学論	4	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	DCS-4-301-05		◎	○			○	○
	卒業研究 I	3	後期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	DCS-4-301-03	○	○	○	○	○	○	◎
	卒業研究 II	4	前・後期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	DCS-4-301-04	○	○	○	○	○	○	◎
選択科目	情報工学基礎	情報工学概論	1	前期	2		○	○	○	○	○	DCS-1-311-03	○	◎				
		データリテラシー	2	前期	2		○	○	○	○	○	DCS-2-311-55	○	◎				
		確率統計	2	前期	2					●		DCS-2-311-17	◎	○				
		信号処理	2	後期	2							DCS-2-311-08		◎				
		データサイエンス	3	後期	2					○		DCS-3-311-63		○	◎			
	プログラミング・演習	プログラミング I	1	前・後期	2		●	●	●	●	●	DCS-1-311-01		○		○	◎	
		プログラミング II	1	前・後期	2		●	●	●	●	●	DCS-1-311-02		○		○	◎	
		プログラミング基礎 I	1	後期	2		○	○	○	○	○	DCS-1-311-12		○			◎	
		プログラミング基礎 II	2	前期	2		○	○	○	○	○	DCS-2-311-13		○			◎	
		情報メディア実験	2	前期	2		●	○	○	○	●	DCS-2-311-04		○		◎	○	○
		データ構造とアルゴリズム演習	2	後期	2		●	○	○	○	○	DCS-2-311-64		◎		○	○	○
		応用プログラミング	2	後期	2		○				○	DCS-2-311-20		○		◎	○	
		サイバーセキュリティ演習	2	後期	2			●				DCS-2-311-56		○	○	○	◎	
		スマートシステム演習	3	前期	2				○			DCS-3-311-45		○	○	◎	○	○
		ソフトウェア工学演習	3	前期	2		●					DCS-3-311-65			○	○	◎	
	ソフトウェア	知的データ処理演習	3	後期	2				●			DCS-3-311-66		○	○	◎	○	○
		Webアプリケーション&サービス演習	3	後期	2			●				DCS-3-311-44		○	○	◎	○	○
		ビジュアルコンピューティング演習	3	後期	2					●		DCS-3-311-49		○	○		◎	○
		データ構造とアルゴリズム	2	後期	2		●	○	○	○		DCS-2-311-67		◎		○	○	
		アセンブリ言語	2	後期	2							DCS-2-311-18		◎			○	
	ハードウェア	ソフトウェア工学	3	前期	2		●	○	○			DCS-3-311-68		○		◎		
		プログラミング言語	3	前期	2		○					DCS-3-311-40		○		○	◎	
		オープンソースソフトウェア	3	後期	2		○	○	○			DCS-3-311-22		○		◎	○	
		計算機工学	1	後期	2		○	○	○			DCS-1-311-05	○	◎				
		電子回路	2	前期	2							DCS-2-311-09		◎				
論理回路		2	前期	2		○					DCS-2-311-11		◎	○				
センサ工学 (特1・3)		2	前期	2							DCS-2-311-06		◎					
コンピュータアーキテクチャ		2	後期	2		○	○				DCS-2-311-69		◎		○			
通信工学 (特2)		3	前期	2				○			DCS-3-311-32		◎					
情報システムの構成		3	前期	2							DCS-3-311-70		◎		○			
コンピュータ	ロボット工学 (特1)	3	前期	2				○			DCS-3-311-38		○	◎				
	情報機器インタフェース (特1)	3	後期	2							DCS-3-311-29		○		◎			
	コンピュータネットワーク (特2)	2	前期	2		○	●				DCS-2-311-25		◎		○			
	データベース	2	前期	2		○	○	○			DCS-2-311-27		◎	○	○			
	情報セキュリティ (特2)	2	後期	2		○	●			○	DCS-2-311-15		○	◎	○			
	オペレーティングシステム	3	前期	2		○	○				DCS-3-311-23		◎		○			
	情報リスクマネジメント	3	前期	2		○	○				DCS-3-311-57				○	◎		
	コンパイラ	3	後期	2		○	○				DCS-3-311-35		◎		○			
メディアとインタフェース	Webアプリケーション&サービス	3	後期	2		○	●			○	DCS-3-311-47		○		◎	○		
	音と音声	2	後期	2				○			DCS-2-311-21		○	◎				
	人工知能 (特3)	2	後期	2				●	○		DCS-2-311-43		○	◎				
	グラフィックスの理論	3	前期	2					○		DCS-3-311-33		○	◎				
	シミュレーションとモデル (特2)	3	前期	2				○	●		DCS-3-311-48		○	◎				
	自然言語処理 (特3)	3	前期	2				○			DCS-3-311-50		○	◎				
	ヒューマンインタフェース	3	後期	2					○		DCS-3-311-28		○		◎			
	コンピュータグラフィックス	3	後期	2					●		DCS-3-311-37		○	◎		○		
エンジニア教育	画像工学 (特3)	3	後期	2					○		DCS-3-311-39		○	◎				
	パターン認識と機械学習 (特3)	3	後期	2				●	○		DCS-3-311-51		○	◎				
	情報コミュニケーション技術	2	後期	2		○	○	○	○	○	DCS-2-311-19		○		○		◎	
	情報工学特講 A	2	後期	2		●	●	●	●		DCS-2-311-31	○	◎	○				
	情報工学と職業	3	前期	2							DCS-3-311-41	◎	○					
	情報とモノづくり	3	後期	2							DCS-3-311-30		○		○	◎		
	情報技術者演習	3	後期	2							DCS-3-311-34	○	◎					
	情報工学特講 B	3	後期	2		●	●	●	●		DCS-3-311-42	○	◎					
工学部共通選択	学外実習	3	後期	2							DCS-3-311-46		◎				○	
	特別卒業研究	4	後期	2							DCS-4-311-61						○	
	講座「科学・技術と人間」	1	前期	2							DCS-1-311-72	◎						
	A I と社会	2	前期	2				○			DCS-2-311-60	○	◎					
	ユーザエクスペリエンスデザイン	2	前期	2							DCS-2-311-62		○		◎			
	日本語コミュニケーション I	2	後期	2							DCS-2-311-53	○					◎	
	日本語コミュニケーション II	3	前期	2							DCS-3-311-54	○					◎	
	技術者倫理	3	前期	2		○	○	○			DCS-3-311-52	◎	○					
	知的財産権	3	後期	2		○	○	○	○		DCS-3-311-58	◎	○					
	テクニカルライティング	3	後期	2							DCS-3-311-59	○					◎	
教職	事業化デザイン論	3	後期	2							DCS-3-311-71		○	◎				
	職業指導 I (◆)	3	前期	2							DCS-3-321-01							
	職業指導 II (◆)	3	後期	2							DCS-3-321-02							

特1~3: 特別プログラム1~3の対象科目。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

◆: 進級・卒業単位には含まれません。また、教職課程を登録していないと履修できません(教職課程については、18章参照)。

学際的な学修を推進するために、①デザイン学科の専門科目と②特別プログラムで指定する機械システム工学科と電子システム工学科の専門科目を履修した場合、その単位は選択科目の単位（①と②を合わせて30単位を上限とします）とすることができます。

①デザイン学科の専門科目

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	コース名(略称)：◎ 必修、● コース指定、○ コースコア					科目ナンバ	カリキュラムマップ：◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目				
						CSE	CIS	CAI	VC	WD		DP1	DP2		DP3	DP4
													基本的知識・スキル	専門的知識・スキル		
選択科目 (デザイン基礎)	デザイン基礎A・演習	1	前期	3					●	DDE-1-311-05		◎		○		
	デザイン基礎B・演習	1	前期	3					○	DDE-1-311-06		◎		○		
	アカデミックリテラシー	1	後期	2					○	DDE-1-311-07		◎		○		
	デザイン表現法・演習	1	後期	3				●	○	DDE-1-311-08		◎		○		
	デザイン史	2	前期	2					○	DDE-2-311-03		◎		○		
	デザインプロジェクト・演習	3	後期	3					●	DDE-3-311-04				○	◎	
選択科目 (感性デザイン)	感性デザイン論(特1・3)	2	後期	2					○	DDE-2-311-10		○		◎		
	感性デザイン・演習	3	前期	3					○	DDE-3-311-11				◎	○	
	エンバシーデザイン・演習	3	後期	3					○	DDE-3-311-12				◎	○	
選択科目 (生活デザイン)	生活デザインI	2	前期	2						DDE-2-311-13		○		◎	○	
	生活デザインII・演習	3	前期	3						DDE-3-311-14				◎	○	
	生活デザインIII・演習	3	後期	3						DDE-3-311-15				◎	○	
選択科目 (プロダクトイノベーション)	プロダクトデザインI・演習	2	前期	3						DDE-2-311-16		○		◎	○	
	プロダクトデザインII・演習	2	後期	3						DDE-2-311-17		○		◎	○	
	プロダクトデザインIII・演習	3	前期	3						DDE-3-311-18		○		◎	○	
選択科目 (メディアクリエイティブ)	メディアデザイン・演習	2	前期	3					○	DDE-2-311-19		○		◎	○	
	視覚デザイン・演習	2	後期	3				○	○	DDE-2-311-20		○		◎	○	
	コミュニケーションデザイン・演習	3	前期	3						DDE-3-311-21				◎	○	
選択科目 (ソーシャルデザイン)	ソーシャルデザイン・演習	2	後期	3						DDE-2-311-22		○		◎	○	
	ソーシャルデザイン論(特2)	3	前期	2						DDE-3-311-23		○		◎		
	エンバシーデザイン・演習	3	後期	3						DDE-3-311-12				◎	○	
選択科目 (コラボレーション)	コンテンツデザイン演習	2	後期	2					●	DDE-2-311-24		○		◎	○	
	Webデザイン演習	3	前期	2					●	DDE-3-311-25		○		◎		
	コンテンツマーケティング	3	後期	2					●	DDE-3-311-26		○		◎		
選択科目 (デザイン共通)	デジタルデザイン基礎実習	1	後期	2				○	○	DDE-1-311-27		◎			○	
	CAD実習	1	後期	2				○		DDE-1-311-28		◎			○	
	デザイン材料学	2	前期	2						DDE-2-311-29		◎		○		
	広告コミュニケーション表現	2	前期	2					○	DDE-2-311-30		○		◎	○	
	デジタルデザイン応用実習	2	前期	2				●	○	DDE-2-311-31		◎		○	○	
	図学・デザイン製図	2	前期	3						DDE-2-311-32		◎		○	○	
	色彩計画	2	前期	2				○	○	DDE-2-311-33		◎		○		
	CG表現・演習	2	後期	3						DDE-2-311-35		○		◎	○	
	プロダクトデザイン論(特1)	2	後期	2						DDE-2-311-36		○		◎		
	Webデザイン論(特3)	2	後期	2				○	●	DDE-2-311-37				◎		
	用品設計・演習	2	後期	3						DDE-2-311-38		○		◎	○	
	室内設計・演習	2	後期	3						DDE-2-311-39		○		◎	○	
	視覚デザイン論	3	前期	2				○		DDE-3-311-40		○		◎		
	ユニバーサルデザイン(特1・2)	3	後期	2						DDE-3-311-41		○		◎		
	景観デザイン論(特2)	3	後期	2						DDE-3-311-42		○		◎		
プレゼンテーション実習	3	後期	2					○	DDE-3-311-43				○	◎		

特1～3：特別プログラム1～3の対象科目。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

②特別プログラムで指定する機械システム工学科と電子システム工学科の専門科目

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	CSE	CIS	CAI	VC	WD	科目ナンバ	DP1	DP2			DP3	DP4
													基本的知識	専門的知識	実践的技術		
選択科目 (機械・電子)	グ特別プログラム1	制御工学I [機械]	2	後期	2						DMS-2-311-59		○	◎	○		
		メカトロニクス [機械]	3	前期	2						DMS-3-311-28		○	◎	○		
		コンピュータハードウェアI [電子]	2	後期	2						DES-2-311-20		○	◎			
		コンピュータハードウェアII [電子]	3	後期	2						DES-3-311-44		○	◎			
	グ特別プログラム2	航空学基礎 [機械]	2	後期	2						DMS-2-311-18		○	◎			
		通信ネットワーク [電子]	3	後期	2						DES-3-311-42		○	◎			
		発電工学 [電子]	3	後期	2						DES-3-311-49		○	◎			
	グ特別プログラム3	情報処理論 [機械]	2	前期	2						DMS-2-311-09		◎				
		メカトロニクス [機械]	3	前期	2						DMS-3-311-28		○	◎	○		
		知能システム工学 [機械]	3	後期	2						DMS-3-311-50		○	◎	○		○
		生体電子情報工学 [電子]	3	前期	2						DES-3-311-46		○	◎			
		音響工学 [電子]	3	後期	2						DES-3-311-25		○	◎			

②の科目は、3年次に特別プログラムの受講条件を満たしていないと履修できません。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

その他留意事項：国際コース専用専門科目の「英語関連科目」は、国際コース以外の学生も4単位まで履修可能です。国際コース英語科目担当教員と工学部教務委員会の許可を得たうえで受講してください（17章の「17-3 開講科目」参照）。

4年進級に必要な単位数の下限		60
卒業に必要な単位数の下限	必修(◎)	12
	選択	68
	合計	80
コース認定に必要な単位数の下限	コース指定(●)	18
	コースコア(○)	16

## 11-5 デザイン学科の専門科目

デザイン学科の専門科目は、次の折り込みページを参照してください。



11-5

デザイン学科の専門科目  
およびカリキュラムマップ

コース名と略称  
DKD: 感性デザイン  
DLD: 生活デザイン  
DPI: プロダクトイノベーション  
DMC: メディアクリエイティブ  
DSD: ソーシャルデザイン  
VC: ビジュアルコンピューティング (コラボコース)  
WD: Webデザイン (コラボコース)

必修科目 (◎): 卒業に必要な科目  
コース指定科目 (●): コース修了に必要な科目  
コースコア科目 (○): コース修了のために決められた  
単位数以上を修得する科目

ディプロマ・ポリシー (DP)

DP1: 教養・基礎学力  
DP2: 専門知識・技術  
(基本的知識・スキル、専門的知識・スキル)  
DP3: コミュニケーション能力  
DP4: 総合課題解決能力

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	コース名 (略称): ◎ 必修、● コース指定、○ コースコア							科目ナンバー	カリキュラムマップ: ◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目				
						DKD	DLD	DPI	DMC	DSD	VC	WD		DP1	DP2		DP3	DP4
						基本的知識・スキル		専門的知識・スキル										
必修科目	基礎ゼミ	1	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	DDE-1-301-01	◎	○	○		
	コンピュータリテラシー	1	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	DDE-1-301-02	◎	○	○		
	デザイン学論	4	前期	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	DDE-4-301-05		○	◎		
	卒業研究 I	4	前期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	DDE-4-301-03		○	○	◎	
	卒業研究 II	4	後期	3	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	DDE-4-301-04		○	○	◎	
選択科目 (デザイン基礎)	デザイン基礎A・演習	1	前期	3		●	●	●	●	●	●	●	DDE-1-311-05	◎		○		
	デザイン基礎B・演習	1	前期	3		●	●	●	●	●	○	○	DDE-1-311-06	◎		○		
	アカデミックリテラシー	1	後期	2		○	○	○	○	○	○	○	DDE-1-311-07	◎		○		
	デザイン表現法・演習	1	後期	3		○	○	○	○	○	●	○	DDE-1-311-08	◎		○		
	デザイン史	2	前期	2		○	○	○	○	○	●	○	DDE-2-311-03	◎		○		
	デザインプロジェクト・演習	3	後期	3		●	●	●	●	●	●	●	DDE-3-311-04		○	◎		
選択科目 (感性デザイン)	感性デザイン論 (特1・3)	2	後期	2		●					○	○	DDE-2-311-10	○	◎			
	感性デザイン・演習	3	前期	3		●		○				○	DDE-3-311-11		◎	○		
	エンバシーデザイン・演習	3	後期	3		●							DDE-3-311-12		◎	○		
選択科目 (生活デザイン)	生活デザイン I	2	前期	2			●	○					DDE-2-311-13	○	◎	○		
	生活デザイン II・演習	3	前期	3			●						DDE-3-311-14		◎	○		
	生活デザイン III・演習	3	後期	3			●						DDE-3-311-15		◎	○		
選択科目 (プロダクトイノベーション)	プロダクトデザイン I・演習	2	前期	3			○	●					DDE-2-311-16	○	◎	○		
	プロダクトデザイン II・演習	2	後期	3			○	●	○				DDE-2-311-17	○	◎	○		
	プロダクトデザイン III・演習	3	前期	3				●	○				DDE-3-311-18	○	◎	○		
選択科目 (メディアクリエイティブ)	メディアデザイン・演習	2	前期	3		○		●			○	○	DDE-2-311-19	○	◎	○		
	視覚デザイン・演習	2	後期	3				●		○	○		DDE-2-311-20	○	◎	○		
	コミュニケーションデザイン・演習	3	前期	3				●					DDE-3-311-21		◎	○		
選択科目 (ソーシャルデザイン)	ソーシャルデザイン・演習	2	後期	3					●				DDE-2-311-22	○	◎	○		
	ソーシャルデザイン論 (特2)	3	前期	2		○			●				DDE-3-311-23	○	◎			
	エンバシーデザイン・演習	3	後期	3					●				DDE-3-311-12		◎	○		
選択科目 (コラボレーション)	コンテンツデザイン演習	2	後期	2				○	○		●	○	DDE-2-311-24	○	◎	○		
	Webデザイン演習	3	前期	2		○		○			●	○	DDE-3-311-25	○	◎			
	コンテンツマーケティング	3	後期	2				○	○		●	○	DDE-3-311-26	○	◎			
選択科目 (デザイン共通)	デジタルデザイン基礎実習	1	後期	2		○	○	○	○	○	○	○	DDE-1-311-27	◎		○		
	CAD実習	1	後期	2			○	○		○	○		DDE-1-311-28	◎		○		
	デザイン材料学	2	前期	2			○	○					DDE-2-311-29	◎	○			
	広告コミュニケーション表現	2	前期	2		○	○		○	○		○	DDE-2-311-30	○	◎	○		
	デジタルデザイン応用実習	2	前期	2		○	○	○	○		●	○	DDE-2-311-31	◎	○	○		
	図学・デザイン製図	2	前期	3			○	○		○			DDE-2-311-32	◎	○	○		
	色彩計画	2	前期	2		○	○	○	○		○	○	DDE-2-311-33	◎	○			
	ユーザエクスペリエンスデザイン	2	前期	2		●	○	○		○			DDE-2-311-34	○	◎			
	CG表現・演習	2	後期	3				○					DDE-2-311-35	○	◎	○		
	プロダクトデザイン論 (特1)	2	後期	2		○		○					DDE-2-311-36	○	◎			
	Webデザイン論 (特3)	2	後期	2		○		○		○	●		DDE-2-311-37	○	◎			
	用品設計・演習	2	後期	3				○	○				DDE-2-311-38	○	◎	○		
	室内設計・演習	2	後期	3				○	○				DDE-2-311-39	○	◎	○		
	視覚デザイン論	3	前期	2		○		○		○			DDE-3-311-40	○	◎			
	ユニバーサルデザイン (特1・2)	3	後期	2		○	○	○	○				DDE-3-311-41	○	◎			
	景観デザイン論 (特2)	3	後期	2				○		○			DDE-3-311-42	○	◎			
プレゼンテーション実習	3	後期	2		○	○	○	○	○		○	DDE-3-311-43		○	◎			
事業化デザイン論	3	後期	2				○		○			DDE-3-311-50	○	◎				
選択科目 (工学部共通)	講座「科学・技術と人間」	1	前期	2									DDE-1-311-51	◎				
	AIと社会	2	前期	2		○		○					DDE-2-311-44	○	◎			
	日本語コミュニケーション I	2	後期	2									DDE-2-311-45	○		◎		
	日本語コミュニケーション II	3	前期	2									DDE-3-311-46	○		◎		
	技術者倫理	3	前期	2									DDE-3-311-47	○	◎			
	知的財産権	3	後期	2		○	○	○	○	○			DDE-3-311-48	○	◎			
選択科目 (教職科目)	テクニカルライティング	3	後期	2									DDE-3-311-49	○	○	○	◎	
	職業指導 I (◆)	3	前期	2									DDE-3-321-01					
	職業指導 II (◆)	3	後期	2									DDE-3-321-02					

特1~3: 特別プログラム1~3の対象科目。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

◆: 進級・卒業単位には含まれません。また、教職課程を登録していないと履修できません(教職課程の登録については、18章参照)。

4年進級に必要な単位数の下限		60
卒業に必要な単位数の下限	必修(◎)	12
	選択	68
	合計	80
コース認定に必要な単位数の下限	コース指定(●)	18
	コースコア(○)	16

※選択科目には他学科の科目の単位も含めることができますが、詳細は次ページを参照してください。

※コラボコースの場合、情報工学科の科目も必要です。詳細は次ページを参照してください。

学際的な学修を推進するために、①情報工学科の専門科目と②特別プログラムで指定する機械システム工学科と電子システム工学科の専門科目を履修した場合、その単位は選択科目の単位（①と②を合わせて30単位を上限とします）とすることができます。

①情報工学科の専門科目

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	コース名(略称) : ◎ 必修、● コース指定、○ コースコア							科目ナンバ	カリキュラムマップ : ◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目											
						DKD	DLD	DP I	DMC	DSD	VC	WD		DP1	DP 2				DP 3	DP 4					
															基礎知識	応用知識	実践知識	問題解決							
選択科目	情報工学基礎	情報工学概論	1	前期	2							○	○	DCS-1-311-03	○	◎									
		データリテラシー	2	前期	2							○	○	DCS-2-311-55	○	◎									
		確率統計	2	前期	2										DCS-2-311-17	◎	○								
		信号処理	2	後期	2										DCS-2-311-08		◎								
		データサイエンス	3	後期	2										DCS-3-311-63	○	◎								
	プログラミング・演習	プログラミングⅠ	1	前・後期	2							●	●	DCS-1-311-01		○		○	◎						
		プログラミングⅡ	1	前・後期	2							●		DCS-1-311-02		○		○	◎						
		プログラミング基礎Ⅰ	1	後期	2							○	○	DCS-1-311-12		○			◎						
		プログラミング基礎Ⅱ	2	前期	2							○		DCS-2-311-13		○			◎						
		情報メディア実験	2	前期	2							○	●	DCS-2-311-04		○		◎		○					
		データ構造とアルゴリズム演習	2	後期	2										DCS-2-311-64	◎		◎	○	○					
		応用プログラミング	2	後期	2										DCS-2-311-20	○		◎	○	○				○	
		サイバーセキュリティ演習	2	後期	2										DCS-2-311-56	○	○	○	◎						○
		スマートシステム演習	3	前期	2										DCS-3-311-45	○	○	◎	○	○				○	○
		ソフトウェア工学演習	3	前期	2										DCS-3-311-65		○	○	◎						
		知的データ処理演習	3	後期	2										DCS-3-311-66	○	○	◎	○	○				○	○
	Webアプリケーション&サービス演習	3	後期	2										DCS-3-311-44	○	○	◎	○	○				○	○	
	ビジュアルコンピューティング演習	3	後期	2								●		DCS-3-311-49	○	○	◎	◎					○	○	
	ソフトウェア	データ構造とアルゴリズム	2	後期	2							○		DCS-2-311-67	◎		○	○							
		アセンブリ言語	2	後期	2									DCS-2-311-18	◎			○							
		ソフトウェア工学	3	前期	2									DCS-3-311-68	○		◎								
		プログラミング言語	3	前期	2									DCS-3-311-40	○		○	◎							
		オープンソースソフトウェア	3	後期	2									DCS-3-311-22	○		◎	○							
	ハードウェア	計算機工学	1	後期	2									DCS-1-311-05	○	◎									
		電子回路	2	前期	2									DCS-2-311-09		◎									
		論理回路	2	前期	2									DCS-2-311-11		◎	○								
		センサ工学(特1・3)	2	前期	2									DCS-2-311-06		◎									
		コンピュータアーキテクチャ	2	後期	2									DCS-2-311-69		◎		○							
		通信工学(特2)	3	前期	2									DCS-3-311-32		◎									
		情報システムの構成	3	前期	2									DCS-3-311-70		◎		○							
		ロボット工学(特1)	3	前期	2									DCS-3-311-38		○	◎								
		情報機器インタフェース(特1)	3	後期	2									DCS-3-311-29		○		◎							
	コンピュータシステム	コンピュータネットワーク(特2)	2	前期	2									DCS-2-311-25		◎		○							
		データベース	2	前期	2									DCS-2-311-27		◎	○	○							
		情報セキュリティ(特2)	2	後期	2								○	DCS-2-311-15		○	◎	○							
		オペレーティングシステム	3	前期	2									DCS-3-311-23		◎		○							
		情報リスクマネジメント	3	前期	2									DCS-3-311-57			○		◎						
		コンパイラ	3	後期	2									DCS-3-311-35		◎		○							
		Webアプリケーション&サービス	3	後期	2								○	DCS-3-311-47		○		◎	○						
	メディアとインタフェース	音と音声	2	後期	2									DCS-2-311-21		○	◎								
		人工知能(特3)	2	後期	2							○		DCS-2-311-43		○	◎								
		グラフィックスの理論	3	前期	2							○		DCS-3-311-33		○	◎								
		シミュレーションとモデル(特2)	3	前期	2							●		DCS-3-311-48		○	◎								
		自然言語処理(特3)	3	前期	2									DCS-3-311-50		○	◎								
		ヒューマンインタフェース	3	後期	2							○		DCS-3-311-28		○		◎							
		コンピュータグラフィックス	3	後期	2							●		DCS-3-311-37		○	◎		○						
画像工学(特3)		3	後期	2							○		DCS-3-311-39		○	◎									
パターン認識と機械学習(特3)		3	後期	2							○		DCS-3-311-51		○	◎									
エンギニア教育・学外実習	情報コミュニケーション技術	2	後期	2							○	○	DCS-2-311-19		○	◎		○					◎		
	情報工学特講A	2	後期	2							●		DCS-2-311-31	○	◎	○									
	情報工学と職業	3	前期	2									DCS-3-311-41	◎	○										
	情報とモノづくり	3	後期	2									DCS-3-311-30		○		○	◎							
	情報技術者演習	3	後期	2									DCS-3-311-34	○	◎										
	情報工学特講B	3	後期	2							●		DCS-3-311-42	○	◎										
学外実習	3	後期	2									DCS-3-311-46		◎									○		

特1～3：特別プログラム1～3の対象科目。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

②特別プログラムで指定する機械システム工学科と電子システム工学科の専門科目

必修・選択	授業科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	DKD	DLD	DP I	DMC	DSD	VC	WD	科目ナンバ	DP1	DP 2			DP 3	DP 4				
															基本的知識	専門的知識	実践的技術						
選択科目(機械・電子)	グ特別ム1ロ	制御工学Ⅰ [機械]	2	後期	2								DMS-2-311-59		○	◎	○						
		メカトロニクス [機械]	3	前期	2									DMS-3-311-28		○	◎	○					
		コンピュータハードウェアⅠ [電子]	2	後期	2									DES-2-311-20		○	◎						
		コンピュータハードウェアⅡ [電子]	3	後期	2									DES-3-311-44		○	◎						
	グ特別ム2ロ	航空学基礎 [機械]	2	後期	2									DMS-2-311-18		○	◎						
		通信ネットワーク [電子]	3	後期	2									DES-3-311-42		○	◎						
		発電工学 [電子]	3	後期	2									DES-3-311-49		○	◎						
	グ特別ム3ロ	情報処理論 [機械]	2	前期	2									DMS-2-311-09		◎							
		メカトロニクス [機械]	3	前期	2									DMS-3-311-28		○	◎	○					
		知能システム工学 [機械]	3	後期	2									DMS-3-311-50		○	◎	○					○
		生体電子情報工学 [電子]	3	前期	2									DES-3-311-46		○	◎						
		音響工学 [電子]	3	後期	2									DES-3-311-25		○	◎						

②の科目は、3年次に特別プログラムの受講条件を満たしていないと履修できません。特別プログラムについては、9章の「9-7 特別プログラム」を参照してください。

その他留意事項：国際コース専用専門科目の「英語関連科目」は、国際コース以外の学生も4単位まで履修可能です。国際コース英語科目担当教員と工学部教務委員会の許可を得たうえで受講してください(17章の「17-3 開講科目」参照)。

デザイン学科 専門科目 年次別の授業

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修科目		基礎ゼミ (1-2) コンピュータリテラシー (2-2)						卒業研究Ⅰ (2-3) デザイン学輪講 (1-2)	卒業研究Ⅱ (2-3)
選択科目	基盤	デザイン基礎A・演習 (2-3) デザイン基礎B・演習 (2-3)	アカデミックリテラシー (1-2) デザイン表現法・演習 (2-3)	デザイン史 (1-2)			デザインプロジェクト・演習 (2-3) キャリア形成論 (1-2)		
	共通		デジタルデザイン基礎実習 (2-2) CAD実習 (2-2)	デザイン材料学 (1-2) 広告コミュニケーション表現 (1-2) デジタルデザイン応用実習 (2-2) 図学・デザイン製図 (2-3) 色彩計画 (1-2) ユーザエクスペリエンスデザイン (1-2)	CG表現・演習 (2-3) プロダクトデザイン論 (1-2) Webデザイン論 (1-2) 用品設計・演習 (2-3) 室内設計・演習 (2-3)	視覚デザイン論 (1-2)	ユニバーサルデザイン (1-2) 景観デザイン論 (1-2) プレゼンテーション実習 (2-2) 事業化デザイン論 (1-2)		
	感性デザイン系				感性デザイン論 (1-2)	感性デザイン・演習 (2-3)	エンバシーデザイン・演習 (2-3)		
	生活デザイン系			生活デザインⅠ (1-2)			生活デザインⅡ・演習 (2-3)	生活デザインⅢ・演習 (2-3)	
	プロダクトイノベーション系			プロダクトデザインⅠ・演習 (2-3)	プロダクトデザインⅡ・演習 (2-3)	プロダクトデザインⅢ・演習 (2-3)			
	メディアクリエイティブ系			メディアデザイン・演習 (2-3)	視覚デザイン・演習 (2-3)	コミュニケーションデザイン・演習 (2-3)			
	ソーシャルデザイン系				ソーシャルデザイン・演習 (2-3)	ソーシャルデザイン論 (1-2)	エンバシーデザイン・演習 (2-3)		
コラボレーション		プログラミングⅠ (2-2) ※	プログラミングⅡ (2-2) ※ 情報メディア実験 (2-2) ※	情報工学特講A (1-2) ※	シミュレーションとモデル (1-2) ※	コンテンツデザイン演習 (2-2) Webデザイン演習 (2-2)	コンテンツマーケティング (1-2) コンピュータグラフィックス (1-2) ※ 情報工学特講B (1-2) ※ ビジュアルコンピューティング演習 (2-2) ※		
工学部共通科目		講座「科学・技術と人間」 (1-2)		AⅠと社会 (1-2)	日本語コミュニケーションⅠ (1-2)	日本語コミュニケーションⅡ (1-2) 技術者倫理 (1-2)	知的財産権 (1-2) テクニカルライティング (1-2)		

【注1】 科目名称に続く数字は（コマ数－単位数）です。

【注2】 ※は情報工学科の開講科目です。

【注3】 それぞれのコースが定めた要件を満たすことで、コース修了が認定されます。

【注4】 年度によっては休講となる科目もあります。科目名称、開講年次・開講期等は変更になることがあります。



## 1 2 専門基礎科目と履修上の注意

工学部では、専門基礎科目として、「数学、物理学、化学、英語」を開講しています。

所属する学科の進級・卒業要件を参照し、履修してください。

### 1 2 - 1 「数学・物理学・化学」の履修方法

#### (1) 授業科目および単位数

#### 【機械システム工学科】

ディプロマ・ポリシー (DP)

DP1 : 教養・基礎学力

DP2 : 専門知識・技術 (基本的知識、専門的知識、実践的技術)

DP3 : コミュニケーション能力

DP4 : 総合課題解決能力

○ : 主要授業科目 (学部が教育課程上主要と認める授業科目)

カリキュラムマップ : ◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目

科目名	配当年次	開講期別	必修/選択と単位数		主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ						
			必修	選択			DP1	DP2			DP3	DP4	
								基本的知識	専門的知識	実践的技術			
基礎数学	1	前期		2		FEN-1-201-01	◎						
解析学 I	1	前期	2		○	FEN-1-201-07	◎	○					○
解析学 I 演習	1	前期		1		FEN-1-201-08	◎	○					
解析学 II	1	後期	2		○	FEN-1-201-09	◎	○					○
解析学 II 演習	1	後期		1		FEN-1-201-10	◎	○					
解析学 III	2	前期		2		FEN-2-201-01	◎	○					○
線形代数 I	1	前期	2		○	FEN-1-201-11	◎	○					
線形代数 II	1	後期	2		○	FEN-1-201-12	◎	○					○
物理学 I	1	前期	2		○	FEN-1-202-01	◎	○					○
物理学 II	1	後期	2		○	FEN-1-202-02	◎	○					○
基礎科学実験	1	前/後期	2		○	FEN-1-205-01	◎	○					○
化学 A	1	前期		2		FEN-1-203-03	◎	○					
化学 B	1	後期		2		FEN-1-203-04	◎	○					
3年進級に必要な単位数の下限			10										
4年進級に必要な単位数の下限			14	0									
卒業に必要な単位数の下限			14										

※ 機械システム工学科では、選択科目 (基礎数学、解析学 I 演習、解析学 II 演習、解析学 III、化学 A・B) のうち 8 単位まで、全学共通教養科目の単位として充当することができます。

## 【電子システム工学科】

ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1：教養・基礎学力

DP2：専門知識・技術（基本的知識、専門的知識、実践的技術）

DP3：コミュニケーション能力

DP4：総合課題解決能力

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）							カリキュラムマップ：◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目							
科目名	配当年次	開講期別	必修／選択と単位数				主要授業科目	科目ナンバー	DP1	DP2			DP3	DP4
			必修	選択必修	選択	指定選択				基本的知識	専門的知識	実践的技術		
基礎数学 *1	1	前期				2		FEN-1-201-01	◎					
基礎数学演習 *1	1	前期				1		FEN-1-201-02	◎					
解析学Ⅰ *1	1	前期	2				○	FEN-1-201-07	◎	○				○
解析学Ⅰ演習 *1	1	前期			1			FEN-1-201-08	◎	○				
解析学Ⅱ *1	1	後期		2			○	FEN-1-201-09	◎	○				
解析学Ⅱ演習 *1	1	後期			1			FEN-1-201-10	◎	○				
解析学Ⅲ	2	前期			2			FEN-2-201-01	◎	○				
線形代数Ⅰ	1	前期	2				○	FEN-1-201-11	◎	○				○
線形代数Ⅱ	1	後期		2			○	FEN-1-201-12	◎	○				
物理学Ⅰ	1	前期		2			○	FEN-1-202-01	◎	○				
物理学Ⅱ	1	後期	2				○	FEN-1-202-02	◎	○				○
基礎科学実験	1	前／後期	2				○	FEN-1-205-01	◎	○				○
化学A	1	前期			2			FEN-1-203-03	◎	○				
化学B	1	後期			2			FEN-1-203-04	◎	○				
3年進級に必要な単位数の下限			10											
4年進級に必要な単位の下限			8	2										
			14 *2											
卒業に必要な単位数の下限			14											

\*1 入学時に実施する数学のクラス分けテストの結果に基づき、指定された学生は、基礎数学と基礎数学演習を必ず履修しなければなりません。基礎数学と基礎数学演習を履修する学生は、解析学Ⅰと解析学Ⅰ演習を1年後期に履修し、解析学Ⅱと解析学Ⅱ演習を2年前期に履修します。

\*2 電子システム工学科では、必修科目8単位、選択必修科目2単位以上を含み計14単位修得しなければ4年に進級できません。

なお、この14単位の中、指定選択科目の基礎数学と基礎数学演習の単位は含まれません。

※ 電子システム工学科では、基礎数学、基礎数学演習、解析学Ⅰ演習、解析学Ⅱ演習、解析学Ⅲ、化学A・B、のうち8単位まで、全学共通教養科目の単位として充当することができます。

※ 電子システム工学科では、コース履修とも関係していますので、51ページの10-5の専門科目の表をよく読んで履修してください。

## 【情報工学科】

※情報工学科では、全て選択科目です。

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）						ディプロマ・ポリシー（DP）							
科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目							
						DP1	DP2				DP3	DP4	
							基礎知識	応用知識	実践知識	問題解決			
基礎解析Ⅰ	1	前期	2		FEN-1-201-05	◎	○						
基礎解析Ⅱ	1	後期	2		FEN-1-201-06	◎	○						
解析学Ⅰ *1	1	前期	2	○	FEN-1-201-07	◎	○						
解析学Ⅰ 演習 *1	1	前期	1		FEN-1-201-08	◎	○						
解析学Ⅱ *1	1	後期	2	○	FEN-1-201-09	◎	○						
解析学Ⅱ 演習 *1	1	後期	1		FEN-1-201-10	◎	○						
解析学Ⅲ	2	前期	2		FEN-2-201-01	◎	○						
線形代数Ⅰ	1	前期	2	○	FEN-1-201-11	◎	○						
線形代数Ⅱ	1	後期	2	○	FEN-1-201-12	◎	○						
物理学Ⅰ	1	前期	2	○	FEN-1-202-01	◎							
物理学Ⅱ	1	後期	2	○	FEN-1-202-02	◎							
基礎科学実験	1	前／後期	2	○	FEN-1-205-01	◎							
化学A	1	前期	2		FEN-1-203-03	◎							
化学B	1	後期	2		FEN-1-203-04	◎							
4年進級に必要な単位の下限			※										
卒業に必要な単位数の下限 *2			14										

\*1 情報工学科には、解析学Ⅰ、解析学Ⅰ 演習、解析学Ⅱ、解析学Ⅱ 演習については学科単位のクラス設定はありません。履修を希望する場合は、履修指導に従い、進級要件を考慮し、卒業までに指定されたシステム学系（機械システム工学科と電子システム工学科）用のクラスを履修してください。

\*2 情報工学科では、全学共通教養科目の単位と8単位まで相互に充当することができます。

※ 11章の進級・卒業要件の表を参照してください。

## 【デザイン学科】

※デザイン学科では、全て選択科目です。

ディプロマ・ポリシー（DP）  DP1：教養・基礎学力  DP2：専門知識・技術（基本的知識・スキル、専門的知識・スキル）  DP3：コミュニケーション能力  DP4：総合課題解決能力
--

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）

科目名	配当年次	開講期別	単位数	主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目					
						DP1	DP2		DP3	DP4	
							基本的知識・スキル	専門的知識・スキル			
基礎解析Ⅰ	1	前期	2		FEN-1-201-05	◎	○				
基礎解析Ⅱ	1	後期	2		FEN-1-201-06	◎	○				
解析学Ⅰ *1	1	前期	2	○	FEN-1-201-07	◎	○				
解析学Ⅰ 演習 *1	1	前期	1		FEN-1-201-08	◎	○				
解析学Ⅱ *1	1	後期	2	○	FEN-1-201-09	◎	○				
解析学Ⅱ 演習 *1	1	後期	1		FEN-1-201-10	◎	○				
解析学Ⅲ	2	前期	2		FEN-2-201-01	◎	○				
線形代数Ⅰ	1	前期	2	○	FEN-1-201-11	◎	○				
線形代数Ⅱ	1	後期	2	○	FEN-1-201-12	◎	○				
物理学入門	1	前期	2		FEN-1-202-03	◎	○				
物理学Ⅰ *2	1	前期	2	○	FEN-1-202-01	◎	○				
物理学Ⅱ *2	1	後期	2	○	FEN-1-202-02	◎	○				
基礎科学実験 *2	1	前／後期	2	○	FEN-1-205-01	◎	○				
化学A	1	前期	2		FEN-1-203-03	◎	○				
化学B	1	後期	2		FEN-1-203-04	◎	○				
4年進級に必要な単位の下限			※								
卒業に必要な単位数の下限 *3			14								

\*1 デザイン学科には、解析学Ⅰ、解析学Ⅰ 演習、解析学Ⅱ、解析学Ⅱ 演習については学科単位のクラス設定はありません。履修を希望する場合は、履修指導に従い、進級要件を考慮し、卒業までに指定されたシステム学系（機械システム工学科と電子システム工学科）用のクラスを履修して下さい。

\*2 デザイン学科には、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、基礎科学実験については学科単位のクラス設定はありません。

\*3 デザイン学科では、全学共通教養科目の単位と8単位まで相互に充当することができます。

※ 11章の進級・卒業要件の表を参照してください。

## (2) 数学科目（解析学・線形代数・基礎解析・基礎数学）の履修上の注意

- ① 数学科目にはクラス指定された科目がありますので、その場合は指定されたクラスで受講してください。
- ② 機械システム工学科と電子システム工学科の学生は、解析学Ⅰおよび解析学Ⅰ演習は、両方セットで履修してください。解析学Ⅱと解析学Ⅱ演習についても同様です。  
情報工学科とデザイン学科の学生は、各学科の専門基礎科目一覧表の脚注を参照して履修してください。
- ③ 高校での数学の学習が十分でない学生のために、機械システム工学科と電子システム工学科の前期に基礎数学が開講されています。基礎数学の履修方法については、年度初めのガイダンスまたは掲示で周知します。電子システム工学科の基礎数学演習の履修方法についても同様です。
- ④ 基礎解析Ⅰ・Ⅱは、情報工学科とデザイン学科専用の科目です。基礎解析Ⅰ・Ⅱに代えて解析学Ⅰ・解析学Ⅰ演習を履修しても構いません。ただし、基礎解析Ⅰ・Ⅱと解析学Ⅰ・解析学Ⅰ演習を重複して履修することはできません。また、基礎解析Ⅰ・Ⅱ、あるいは解析学Ⅰ・解析学Ⅰ演習を既に履修した学生は、続きとして解析学Ⅱ・解析学Ⅱ演習を履修できます。

## (3) 化学科目の履修上の注意

化学Aと化学Bはいずれも、1年次から4年次までのどの学年でも履修することができます。化学Bは化学Aの知識をベースに進めますので、化学Aを履修済みのほうが望ましいですが、必須ではありません。

## 12-2 「英語」の履修方法

工学部では、第1外国語として工学部用の英語を必修としています。

### (1) 授業科目および単位数

各学系の英語の科目と単位数は、以下の表のとおりです。

進級・卒業に必要な単位数は、学系によって異なりますので注意してください。

#### 【機械・通信・システム学系】

機械システム工学科

電子システム工学科

ディプロマ・ポリシー (DP)

DP1: 教養・基礎学力

DP2: 専門知識・技術

DP3: コミュニケーション能力

DP4: 総合課題解決能力

○: 主要授業科目 (学部が教育課程上主要と認める授業科目)

科目名	配当年次	開講期別	必修/選択と単位数			主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ: ◎ DP1に直結する科目、○ DP1に関連する科目			
			必修	選択必修	選択			DP1	DP2	DP3	DP4
English Basic L&S I	1	前期	1			○	FEN-1-211-01	◎		○	○
English Basic L&S II	1	後期	1			○	FEN-1-211-02	◎		○	○
English Basic R&W I	1	前期	1			○	FEN-1-211-03	◎		○	○
English Basic R&W II	1	後期	1			○	FEN-1-211-04	◎		○	○
English Intermediate L&S I	2	前期	1			○	FEN-2-211-01	○		◎	○
English Intermediate L&S II *1	2	後期	1			○	FEN-2-211-02	○		◎	○
English Intermediate R&W I	2	前期	1			○	FEN-2-211-03	○		◎	○
English Intermediate R&W II *1	2	後期	1			○	FEN-2-211-04	○		◎	○
ESP-A (工学英語A) *2	3	前期		2		○	FEN-3-211-03	○		◎	○
ESP-B (工学英語B) *2	3	後期		2		○	FEN-3-211-04	○		◎	○
English Workshop A *3	1	前期			1		FEN-1-401-27			◎	
English Workshop B *3	1	後期			1		FEN-1-401-28			◎	
3年進級に必要な単位数の下限			6	-							
4年進級に必要な単位数の下限			8	0							
卒業に必要な単位数			8	2							

\*1 国際コースについては、2年次前期開講になります。

\*2 ESP-AまたはESP-Bのいずれか1科目を履修します。指定されたクラスを履修登録し、受講してください。万一、3年次に単位を修得できなかった場合は、次年度に再履修してください。再履修の際も指定されたクラスを履修登録し、受講してください。なお、ESPは、English for Specific Purposesの略です。

\*3 資格取得支援の科目です。単位を修得すると、自由科目の単位になります。

※ これ以外に国際コース専用の英語科目も履修可能です。国際コース英語科目担当教員と工学部教務委員会の許可を得たうえで履修してください(17章の「17-3 開講科目」参照)。

## 【情報・デザイン・メディア学系】

情報工学科

デザイン学科

ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1：教養・基礎学力

DP2：専門知識・技術

DP3：コミュニケーション能力

DP4：総合課題解決能力

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）

科目名	配当年次	開講期別	必修／選択と単位数			主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目			
			必修	選択必修	選択			DP1	DP2	DP3	DP4
English Basic L&S I	1	前期	1			○	FEN-1-211-01	◎		○	
English Basic L&S II	1	後期	1			○	FEN-1-211-02	◎		○	
English Basic R&W I	1	前期	1			○	FEN-1-211-03	◎		○	
English Basic R&W II	1	後期	1			○	FEN-1-211-04	◎		○	
English Intermediate L&S I	2	前期	1			○	FEN-2-211-01	○		◎	
English Intermediate L&S II *1	2	後期	1			○	FEN-2-211-02	○		◎	
English Intermediate R&W I	2	前期	1			○	FEN-2-211-03	○		◎	
English Intermediate R&W II *1	2	後期	1			○	FEN-2-211-04	○		◎	
ESP-A（工学英語A）*2	3	前期		2		○	FEN-3-211-03	○		◎	
ESP-B（工学英語B）*2	3	後期		2		○	FEN-3-211-04	○		◎	
English Workshop A *3	1	前期			1		FEN-1-401-27			◎	
English Workshop B *3	1	後期			1		FEN-1-401-28			◎	
4年進級に必要な単位数の下限			8								
卒業に必要な単位数			8	2							

\*1 国際コースについては、2年次前期開講になります。

\*2 ESP-AまたはESP-Bのいずれか1科目を履修します。指定されたクラスを履修登録し、受講してください。万一、3年次に単位を修得できなかった場合は、次年度に再履修してください。再履修の際も指定されたクラスを履修登録し、受講してください。なお、ESPは、English for Specific Purposesの略です。

\*3 資格取得支援の科目です。単位を修得すると、自由科目の単位になります。

※ これ以外に国際コース専用の英語科目も履修可能です。国際コース英語科目担当教員と工学部教務委員会の許可を得たうえで履修してください（17章の「17-3 開講科目」参照）。

## （2）「英語」の履修上の注意（全学科共通）

英語の必修と選択必修科目の授業については、大学がクラスを指定します。

必ず指定されたクラスで受講してください。

# 1 3 全学共通教養科目と履修上の注意

## (1) 開講科目

工学部では以下の科目を全学共通教養科目として開講しています。各学科の履修単位数を参照し、履修してください。全学共通教養科目は全て選択科目ですが、教職課程では、「日本国憲法」、「スポーツ演習」、「トレーニング演習」（科目名の後ろに★印がついている科目）が必修科目になります。

なお、全学共通教養科目は、全て半期科目ですが、開講期別は年度によって変わりますので、各年度の時間割を参照してください。

ディプロマ・ポリシー（DP）  DP1：教養・基礎学力 DP2：専門知識・技術 DP3：コミュニケーション能力 DP4：総合課題解決能力
---

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）

区分	科目名	配当年次	単位	主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ DP1に直結する科目、○ DP1に関連する科目			
						DP1	DP2	DP3	DP4
A系列 国際性を高める	SDGs基礎	1	2		UGE-1-100-01	◎		○	○
	日本史	1	2		UGE-1-100-02	◎		○	
	東洋史	1	2		UGE-1-100-03	◎		○	
	イスラム社会の歴史と文化	1	2		UGE-1-100-04	◎		○	
	西洋史	1	2		UGE-1-100-05	◎		○	
	西洋文化史	1	2		UGE-1-100-06	◎		○	
	宗教学	1	2		UGE-1-100-07	◎		○	
	人文地理学	1	2		UGE-1-100-08	◎		○	
	安全と危機管理	1	2		UGE-1-100-09	◎		○	
	現代の国際関係	1	2		UGE-1-100-10	◎		○	
	防災と安全	1	2		UGE-1-100-11	◎		○	
	文化人類学	1	2		UGE-1-100-12	◎		○	
	生態学	1	2		UGE-1-100-13	◎	○		
	環境科学	1	2		UGE-1-100-14	◎	○		
	講座「拓く力」（世界の中の日本）	1	2		UGE-1-100-15	◎		○	○

区分	科目名	配当年次	単位	主要授業科目	科目ナンバ	カリキュラムマップ：◎ DPIに直結する科目、○ DPIに関連する科目			
						DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
B系列 専門性の幅を広げる	日本国憲法 (★)	1	2		UGE-1-110-01	◎		○	
	政治学	1	2		UGE-1-110-02	◎		○	
	社会学	1	2		UGE-1-110-03	◎		○	
	経済学	1	2		UGE-1-110-04	◎		○	
	経営学	1	2		UGE-1-110-05	◎		○	
	流通論	1	2		UGE-1-110-06	◎		○	
	近代社会の思想史	1	2		UGE-1-110-07	◎		○	
	コミュニティ論	1	2		UGE-1-110-08	◎		○	
	福祉学	1	2		UGE-1-110-09	◎		○	
	ジェンダー論	1	2		UGE-1-110-10	◎		○	
	地球科学	1	2		UGE-1-110-11	◎	○		
	物理学	1	2		UGE-1-110-12	◎	○		
	化学	1	2		UGE-1-110-13	◎	○		
	生物学	1	2		UGE-1-110-14	◎	○		
	健康科学	1	2		UGE-1-110-15	◎	○		
	天文学	1	2		UGE-1-110-16	◎	○		
	自然認識の歴史	1	2		UGE-1-110-17	◎	○		
	技術史・技術論	1	2		UGE-1-110-18	◎	○		
C系列 人間性を高める	哲学	1	2		UGE-1-120-01	◎		○	○
	倫理学	1	2		UGE-1-120-02	◎		○	○
	論理学	1	2		UGE-1-120-03	◎		○	○
	心理学	1	2		UGE-1-120-04	◎		○	
	日本文学	1	2		UGE-1-120-05	◎		○	
	外国文学	1	2		UGE-1-120-06	◎		○	
	美術	1	2		UGE-1-120-07	◎		○	
	音楽	1	2		UGE-1-120-08	◎		○	
	映像文化論	1	2		UGE-1-120-09	◎		○	
	伝統芸能	1	2		UGE-1-120-10	◎		○	
	武道論	1	2		UGE-1-120-11	◎		○	
	考古学	1	2		UGE-1-120-12	◎		○	
	トレーニング理論	1	2		UGE-1-120-13	◎		○	
	スポーツの心理学	1	2		UGE-1-120-14	◎		○	
	スポーツの歴史と社会	1	2		UGE-1-120-15	◎		○	
	講座「スポーツと人間」	1	2		UGE-1-120-16	◎		○	○
	スポーツ演習 (★)	1	1		UGE-1-120-17	◎		○	
	トレーニング演習 (★)	1	1		UGE-1-120-18	◎		○	

区分	科目名	配当年次	単位	主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ D P Iに直結する科目、○ D P Iに関連する科目			
						D P 1	D P 2	D P 3	D P 4
D系列 キャリア形成を行う	職業と人生	1	2		UGE-1-130-01	◎		○	○
	文章表現の基礎	1	2		UGE-1-130-02	○		◎	
	レポートの書き方	1	2		UGE-1-130-03	○		◎	
	ビジネス文の書き方	1	2		UGE-1-130-04	○		◎	
	プレゼンテーションと交渉	1	2		UGE-1-130-05	○		◎	
	口頭表現の技法	1	2		UGE-1-130-06	○		◎	
	ボランティア論	1	2		UGE-1-130-07	◎		○	○
	歴史の中の拓殖大学	1	2		UGE-1-130-08	◎		○	○
E系列 力を養う データ活用能	A I・データサイエンス基礎	1	2		UGE-1-140-01	◎	○		
	I Tパスポート	1	2		UGE-1-140-02	◎	○		
	情報リテラシー	1	2		UGE-1-140-03	◎	○		
	数学	1	2		UGE-1-140-04	◎	○		
	統計学	1	2		UGE-1-140-05	◎	○		
機械・通信・システム学系	3年進級に必要な単位数の下限		14	機械システム工学科では、専門基礎科目の選択科目（基礎数学、解析学Ⅰ演習、解析学Ⅱ演習、解析学Ⅲ、化学A・B）のうち8単位まで、全学共通教養科目の単位として充当することができます。					
	4年進級に必要な単位数の下限		16	電子システム工学科では、専門基礎科目の選択科目（解析学Ⅰ演習、解析学Ⅱ演習、解析学Ⅲ、化学A・B）及び指定選択科目（基礎数学、基礎数学演習）のうち8単位まで、全学共通教養科目の単位として充当することができます。					
	卒業に必要な単位数の下限		16	卒業には、A～Dの各系列でそれぞれ2単位を修得する必要があります。					
情報・デザイン・メディア学系	4年進級に必要な単位数の下限		16	4年進級には、全学共通教養科目と専門基礎科目の「数学・物理学・化学」と合わせて16単位必要です。					
	卒業に必要な単位数の下限		16	卒業には、16単位必要です。ただし、専門基礎科目の「数学・物理学・化学」と相互に8単位まで充当できます。卒業には、A～Dの各系列でそれぞれ2単位を修得する必要があります。					

## (2) 履修上の注意

C系列の体育実技科目（科目名の後に★印がついている科目）の履修については、年度初めに配付する履修登録に関する資料に基づいて履修登録してください。

## 14 自由科目と履修上の注意

### (1) 自由科目の種類と科目

自由科目には、

- ①自由科目として専用に開講している講義科目
- ②海外研修（短期留学）への参加・修了により認定するもの

があります。また、

- ③卒業要件を超えて修得した単位
- ④所属学科の開講科目でない科目の単位
- ⑤単位互換協定に基づく単位互換科目

（他大学等で履修が許可されている科目）

なども自由科目の代替科目として認められます。

ディプロマ・ポリシー（DP）
DP1：教養・基礎学力
DP2：専門知識・技術
DP3：コミュニケーション能力
DP4：総合課題解決能力

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）

種類	科目名	配当年次	開講期別	単位	主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ DPに直結する科目、○ DPに関連する科目				
							DP1	DP2	DP3	DP4	
講義科目	English Workshop A	1	前期	1		FEN-1-401-27			◎		
	English Workshop B	1	後期	1		FEN-1-401-28			◎		
	ドイツ語 I	1	前期	1		FEN-1-401-29			◎		
	ドイツ語 II	1	後期	1		FEN-1-401-30			◎		
	職業能力基礎(SPI)非言語	1	前期	2		FEN-1-401-07	◎				
	職業能力基礎(SPI)言語	1	後期	2		FEN-1-401-08	◎		○		
	留学生対象科目（☆）	工学日本語 I - A	1	半期	1		FEN-1-401-31	○		◎	
		工学日本語 I - B	1	半期	1		FEN-1-401-32	○		◎	
		総合日本語 I - A	1	半期	1		FEN-1-401-33	○		◎	
		総合日本語 I - B	1	半期	1		FEN-1-401-34	○		◎	
		工学日本語 II - A	2	半期	1		FEN-2-401-35	○		◎	
		工学日本語 II - B	2	半期	1		FEN-2-401-36	○		◎	
		総合日本語 II - A	2	半期	1		FEN-2-401-37	○		◎	
総合日本語 II - B	2	半期	1		FEN-2-401-38	○		◎			
認定科目	海外研修（短期留学）			2		FEN-1-401-09			◎	○	
代替科目	工学部の他学科の科目	科目によって異なります。		☆ 留学生対象科目については、15章の「外国人留学生の履修に関する特別措置」も参照してください。							
	他学部の科目										
	自学科の必修科目以外の科目										
	単位互換協定に基づく単位互換科目 (他大学等で履修が許可されている科目) ※10単位を上限とします。										
卒業に必要な単位数の下限				4							

### (2) 海外研修（短期留学）について

- ① 工学部国際交流委員会が企画する工学部海外研修プログラムに参加し、所定の課程を修了した場合に認定します。
- ② 研修内容等の詳細は、募集説明会を開催して説明します。

### (3) 単位互換協定に基づく単位互換科目(他大学等で履修が許可されている科目)

拓殖大学と単位互換制度の協定を結んでいる他大学等の提供科目です。

10単位を上限として自由科目として認定します。

現時点では大学コンソーシアム八王子単位互換制度において、他大学等から提供されている科目に限られます (<https://gakuen-hachioji.jp/main-business/credit/>)。

詳細は八王子学務課に問い合わせ確認してください。

## 1.5 外国人留学生の履修に関する特別措置

工学部では、原則として「外国人留学生試験」区分で入学した外国人留学生を対象に、授業や研究に必要な日本語能力の向上を目的とし、外国人留学生を対象とした日本語関連科目を自由科目のなかに開講しています。

### (1) 留学生対象科目 [自由科目]

科目名	単位数	開講年次	期別
工学日本語Ⅰ-A	1	1	半期
工学日本語Ⅰ-B	1	1	半期
総合日本語Ⅰ-A	1	1	半期
総合日本語Ⅰ-B	1	1	半期
工学日本語Ⅱ-A	1	2	半期
工学日本語Ⅱ-B	1	2	半期
総合日本語Ⅱ-A	1	2	半期
総合日本語Ⅱ-B	1	2	半期

・クラスの指定がありますので、指定されたクラスで受講してください。

### (2) 留学生対象科目の全学共通教養科目への単位振り替え

全学科、留学生対象科目の修得単位を、8単位まで全学共通教養科目の単位に振り替えることができます。

## 16 資格等取得による単位の認定

学生の皆さんが検定試験等に挑戦することは、学修のきっかけになるとともに、明確な目的を持った学修努力を促すものです。また、検定試験等による資格（もしくはスコア）の取得は一定の学力到達を客観的に評価されたものです。資格等の取得がこのような意義を持つことから、本学部では、次の資格等の取得に対して、開設科目への振替単位認定を行います。

取得試験資格名	振替科目名	区分	単位	評価 ※4	開講 年次	開講 学科	認定			
							機械	電子	情報	デザイン
TOEIC および TOEIC IP …… 500点～599点 TOEFL PBT および TOEFL ITP …… 450点～499点 TOEFL iBT …… 45点～60点 実用英語技能検定 …… 2級	Test Preparation I-A	専門基礎 (英語)	1	S	1	全学科	○	○	○	○
TOEIC および TOEIC IP …… 600点以上 TOEFL PBT および TOEFL ITP …… 500点以上 TOEFL iBT …… 61点以上 実用英語技能検定 …… 準1級以上	Test Preparation I-B ※1	選択必修	1	S	1	全学科	○	○	○	○
電気通信工事担任者 AI第一種	通信ネットワーク ※2	専門(選択)	2	S	3	電子		○		
電気通信工事担任者 DD第一種	通信ネットワーク ※2		2	S	3	電子		○		
電気通信工事担任者 AI・DD総合種	通信ネットワーク ※2		2	S	3	電子		○		
基本情報技術者試験	プログラミング論B		2	S	3	電子		○		
	情報技術者演習 ※3		2	S	3	情報			○	○
応用情報技術者試験	応用プログラミング		2	S	3	電子		○		
	情報技術者演習 ※3		2	S	3	情報			○	○
色彩検定(2級以上)	色彩計画	2	S	2	デザイン			○	○	

※1 「Test Preparation I-A」の単位を取得していない者が「Test Preparation I-B」の基準得点に達した場合は、

「Test Preparation I-A」と「Test Preparation I-B」両方の単位を認定する。

※2 電子システム工学科において、「電気通信工事担任者 AI第一種/DD第一種/AI・DD総合種」の3つの資格に関する認定は、「通信ネットワーク」の1科目2単位のみ。

※3 情報工学科、デザイン学科において、「基本情報技術者試験」「応用情報技術者試験」の2つの資格に関する認定は、「情報技術者演習」の1科目2単位のみ。

※4 評価は、100点(S)とする。

### <注意事項>

1) 単位認定は、振替科目の開講年次に行う。

○3年次の配当科目に認定する試験を1～2年次に取得した場合は、3年生に進級してから単位認定を申請する(4年生になってから申請しても可)。

○1年次の配当科目に認定する試験を2年次以降に取得した場合は、認定科目が未修得であれば、取得した年次に単位認定申請を行う。

2) 入学前に取得した資格の認定については、下記のとおりとする。

○英語については、入学2年前までのものまで申請可能。

○その他の資格は、入学前に取得したのものも申請可能とし、期限は定めない。

## 17 国際コースの履修について

### 17-1 履修の概要

国際コースは、工学の分野において国際的に活躍できる人材を養成することを目的とし、1年間（最長2年間）の海外留学を目指すコースです。留学期間中に留学先の専門科目（本学で指定したもの）を履修し、修得した単位を本学の単位として認定します。

国際コースは、他のコースとは異なり、入学した時点で国際コースに登録されます。

各学科において国際コースで履修を行う場合は、下表の様な流れで学修するようにカリキュラムが組まれています。また、国際コース専用の開講科目には、特例措置などがありますので、この項目をよく理解して履修を行ってください。

#### ・学修の流れ

学 年	履 修 場 所	履 修 内 容	
1年	前期	国内での履修	
	後期	国内での履修	
2年	前期	国内での履修	
	後期	留学先での履修	
3年	前期	(1年 ~ 2年)	・英語スコア等の条件をクリアすると留学が許可されます ・留学先で修得した単位のうち、所属学科の開講科目に対応する科目の単位を、国内で認定（60単位まで）
	後期		
4年	前期	国内での履修	・卒業研究等 ・卒業に不足する単位の修得
	後期		

### 17-2 進級、卒業単位

国際コースの進級、卒業単位は、所属する学科の進級、卒業単位と同じです。

○機械・通信・システム学系 10章参照

○情報・デザイン・メディア学系 11章参照

ただし、科目の履修を円滑に行うために、各種の特別措置を講ずる場合がありますので、「17-4 特別措置」を参照してください。

留学先で修得した単位が本学の科目の単位として認定された場合、卒業時に学士（工学）の学位と国際コース修了証を授与します。

### 17-3 開講科目

国際コースでは、各学科で開講されている科目に加えて、留学に必要な英語力をつけるために専門基礎科目（英語）と専門科目のなかに国際コース専用科目を開講しています。

これらの国際コース専用科目は選択科目ですが、国際コースの学生は、原則として、全ての国際コース専用科目を履修してください。

なお、国際コース専用専門基礎科目（英語）および国際コース専用専門科目の英語関連科目は、担当教員と教務委員会の許可を得れば他コースの学生も受講が可能ですが、国際エンジニア基礎ゼミⅠ～Ⅲは、原則として国際コース以外の学生は履修することができません。他コースの学生が履修できる国際コース専用専門科目の英語関連科目は、4単位までとします。ただし、正規の国際コース学生が受講しない場合、これらの国際コース専用科目は開講されないことがあります。

† 留学に必要な英語のスコアを取得している場合は、柔軟に対応します。

#### (1) 国際コース専用専門基礎科目（英語）および単位数

国際コースでは、以下の表の科目を英語の専門基礎科目として開講しています。

修得した単位は、英語の専門基礎科目の選択必修科目として単位認定しますが、特別措置により全学共通教養科目へ単位を振り替えることもできます（「17-4 特別措置」参照）。

また、これら以外に、学科の必修の英語科目も履修する必要があります。

#### 【機械・通信・システム学系】

#### 【情報・デザイン・メディア学系】

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）					ディプロマ・ポリシー（DP）				
科目名	開講年次	開講期別	単位	主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ DP1に直結する科目、○ DP1に関連する科目			
						DP1	DP2	DP3	DP4
Test Preparation I-A	1	前期	1		FEN-1-212-01	◎		○	
Test Preparation I-B	1	前期	1		FEN-1-212-02	◎		○	
Test Preparation II-A	1	後期	1		FEN-1-212-04	◎		○	
Test Preparation II-B	1	後期	1		FEN-1-212-05	◎		○	
Academic Skills A	1・2	前期	1		FEN-1-212-08	○		◎	
Academic Skills B	1・2	前期	1		FEN-1-212-09	○		◎	
Academic Skills C	1	後期	1		FEN-1-212-10	○		◎	

## (2) 国際コース専用専門科目および単位数

国際コースでは、以下の表の科目を専門科目として開講しています。

修得した単位は、各学科の専門科目（選択）として単位認定しますが、特別措置により全学共通教養科目へ単位を振り替えることもできます（「17-4 特別措置」参照）。

### 【機械・通信・システム学系】

### 【情報・デザイン・メディア学系】

ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1：教養・基礎学力

DP2：専門知識・技術

DP3：コミュニケーション能力

DP4：総合課題解決能力

○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）

科目名	開講年次	開講期別	単位	主要授業科目	科目ナンバー	カリキュラムマップ：◎ DP1に直結する科目、○ DP1に関連する科目			
						DP1	DP2	DP3	DP4
英語関連科目	Computer Literacy in English A	1・2	前期	2	FEN-1-318-21		◎	○	
	Mathematics in English A	1・2	前期	2	FEN-1-318-22	◎		○	
	Physics in English A	1・2	前期	2	FEN-1-318-23	◎		○	
	Special Topics in Engineering A	1・2	前期	2	FEN-1-318-24	○		◎	
	Computer Literacy in English B	1・2	前期	2	FEN-1-318-25		◎	○	
	Mathematics in English B	1・2	前期	2	FEN-1-318-26	◎		○	
	Physics in English B	1・2	前期	2	FEN-1-318-27	◎		○	
	Special Topics in Engineering B	1・2	前期	2	FEN-1-318-28	○		◎	
	Science and Technology in English A	1・2	前期	2	FEN-1-318-29	○		◎	
	Science and Technology in English B	1・2	前期	2	FEN-1-318-30	○		◎	
	English for Scientific Purposes	1	後期	2	FEN-1-318-11	○		◎	
	Special Topics in Engineering C	1	後期	2	FEN-1-318-31	○		◎	
	Basic Electric Circuits in English	1	後期	2	FEN-1-318-13		◎	○	
	Design Basics in English	1	後期	2	FEN-1-318-32		◎	○	
Science and Technology in English C	1	後期	2	FEN-1-318-33	○		◎		
基礎ゼミ	国際エンジニア基礎ゼミⅠ	1	前期	1	FEN-1-318-18	◎	○	○	
	国際エンジニア基礎ゼミⅡ	1	後期	1	FEN-1-318-19	◎	○	○	
	国際エンジニア基礎ゼミⅢ	2	前期	1	FEN-2-318-20	◎	○	○	

## 17-4 特別措置

専門基礎（英語）科目及び専門科目（英語）の単位の全学共通教養科目への振り替え

国際コース専用が開講される英語科目のうち、15単位を全学共通教養科目の単位として振り替えることができます。なお、15単位の内訳は以下のとおりです。

- ・専門基礎科目（選択）として開講される英語科目から5単位
- ・専門科目（選択）として開講される英語科目から10単位

また、他コースの学生が修得した単位もこの措置を適用します。

## 17-5 履修の要件

国際コースの学生はいずれかの学科に所属しており、各学科の卒業要件（必修科目の単位修得や必要単位数の修得）を満たす必要がありますが、留学に際しては、下記の要件も同時に満たす必要があります。

### ①留学するための要件

留学にあたっては、別に定める留学条件を満たさなければ、留学が許可されません（留学前の修得単位数およびGPA、TOEFLのスコア等）。留学条件は別途、お知らせします。留学できない場合は、原則として、所属学科の他のコースに移り国内での学修を続け、卒業を目指すことになります。

### ②留学後の要件

留学しても専門科目を修得する語学力が不足していると判断された場合や留学を続けるために必要とされる学力基準を満たしていないなどの評価を受けた場合には、留学を取り消されることがあります。また、このときに所属している学科の進級要件を満たすだけの科目、単位数を修得していなかった場合は、原級に留まる可能性がありますので、十分注意してください。

そのため、留学をスムーズに行えるように、次ページのことに留意して、担当教員と十分に相談して、履修計画を立ててください。

### ○必修科目

所属学科で指定されている2年前期までの必修科目の単位をすべて修得する必要があります。留学前に履修できる必修科目は、なるべく修得できるようにサポートしますが、確実に修得するよう努めてください。また、留学期間中に設定されている必修科目については、留学先単位の読み換えが必要となりますので、留学先では指定する科目を履修する必要があります。

### ○専門科目

留学先で上位の専門科目を履修するためには、留学前の1、2年次の専門科目を履修しておくことが望ましいと考えられます。

### ○留学のための科目

留学をスムーズに行うためには、多くの英語科目を履修しますが、まずは留学に必要な英語能力試験のスコアを満たすことが必要です。さらに、留学先において円滑にコミュニケーションがとれ、授業などにも対応できるような英語力を身につけることを目指してください。みなさんも、目標を高く持ち、楽しい留学生活が送れるように頑張りましょう。

### ○留学先での履修科目

留学先での取得単位は、帰国後に読み替えます。読み替えが認められる単位数は最大60単位までです。しかし、所属学科と関連性のない科目は読み替えができない場合もあります(語学研修所での修得単位など)。国際コース担当教員や所属学科の教員とよく相談して履修科目を選んでください。

### ○卒業研究と輪講

卒業研究や輪講は4年次前期から始まります。2年間留学の場合、留学先の学期が終了次第、直ちに帰国してください。

これらの事項をすべて満たすことは難しいため、優先順位を考えながら、また適宜便宜を図りながら、適切なカリキュラムを用意します。国際コースの学生は、国際コース担当教員や所属学科の担当教員とよく相談の上、自分に合った履修計画を立ててください。

# 教職課程履修要項



## 1 8 教職課程の履修について

日本の国公立、私立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員となるためには、教員の免許状を持っていなければなりません。そして、この免許状は教育職員免許法という法律にしたがって設けられた教職課程を履修し、定められた単位を修得した者に与えられます。

### 1 8 - 1 拓殖大学における教員養成の理念と目標

拓殖大学は「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為の人材の育成」という建学の理念を掲げて、教育目標である、国際性、専門性、人間性を備えた人材の育成に努めてきました。現在、これを具現化して、「学生一人ひとりが国際的な視野を持ち、国内外の人々と協働して積極的に問題の発見と解決にチャレンジしていくタフな人間力を身につけたグローバル人材（『拓殖人材』）」の育成に取り組んでいます。

本学の教職課程における教員養成の理念は、建学の理念と軌を一にしており、国際社会に生きる一人の国民として主体的に行動し、持続可能な社会の創り手として貢献することができる人材の育成にあります。そのうえで、専門的な知識を身に付け、多様な人々と協働して課題の発見と解決ができ、生徒・保護者・地域社会から信頼され尊敬される教員を養成することこそが、本学の教員養成の目標であり、使命であると考えます。

そこで、目標を次の3つに柱立てして、全学的な協力・指導体制の下、次代を担う生徒たちのため、学校教育が求める教員の養成に全力にあたります。

#### (1) 世界を視野に入れ、多様な他者と協働して問題発見・解決ができる教員の育成

本学の第2代学監で「太平洋の橋とならん」の言で知られる新渡戸稲造が、国際理解と世界平和に尽力してきたことはよく知られています。グローバル化、高度情報化など社会の急速な進展のなかで、本学の教員養成においても国際社会に貢献しうる人材を育成します。地域社会、自国を含めた世界の多様な他者と主体的に関わり、協働して問題に取り組むことのできる教員の養成を目指します。

#### (2) 教育に熱意と使命感を抱き、心豊かな人間性をそなえた教員の養成

生徒の人格形成を目指す学校教育では、生徒に対する深い愛情や責任感を持ち、教員としての高い倫理観と社会常識を身に付け、温かい心で思いやる包容力を持つ教員が求められます。本学では、これらに加えて、豊かな教養や、「チーム学校」の一員として他者と連携・協働できるコミュニケーション能力をもつ心豊かな教員の養成を目指します。

#### (3) 高い専門性と実践的な指導力に支えられた、学び続ける教員の養成

生徒のよさや潜在能力を引き出し伸ばしながら、持続可能な社会を切り拓く資質・能力を育成するためには、学習指導、生活指導や学級指導などの場面で具体的かつ効果的な高い指導力が求められます。本学では、そのために必要な専門的知識・技能やそれらを活用した問題発見・解決能力、情報活用能力、「主体的・対話的で深い学び」を実践できる指導力を育成し、「理論と実践の往還」を通して学び続ける教員の養成を目指します。

## 18-2 取得することが出来る免許状の種類

工学部生が取得できる免許状の種類及び教科は、次のとおりです。

(2025年度入学者適用)

学 科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
機械システム工学科	「技術」	「工業」
電子システム工学科	—	「工業」
情 報 工 学 科	—	「工業」・「情報」
デ ザ イ ン 学 科	—	「工業」

※ 一種免許状とは学士の学位を有する者（大学卒業生）に与えられる免許状です。

※ 小学校教諭二種免許状の取得について

小学校教諭二種免許状の取得も可能です。取得希望者は、1年次に行われる説明会に必ず出席をして、別途行われる選考（出願条件等があります）を通過した場合のみ2年次に受講を開始出来ます。

なお、説明会の詳細については、Takudai Portal でお知らせします。

## 18-3 工学部が目指す教師像

工学部では、「拓殖大学の教職課程における教員養成の理念と目的」（前掲）に重点を置きながら、学部独自の教育理念に基づき、次のような教師の養成を目指します。

### (1) 教育に熱意と使命感を抱き、世界を視野に入れた多様な視点と心豊かな人間性をそなえた教師

工学部では、生徒に対する深い愛情や責任感を持ち、高い倫理観と社会常識を身に付け、温かい心で思いやる包容力を持つとともに、グローバル化、高度情報化に対応し、世界を視野に入れた多様な視点とコミュニケーション能力をもつ心豊かな教師の養成を目指します。

### (2) 知識基盤社会に対応し、創造性と問題発見・解決能力を育成できる専門性の高い教師

工学部では、知識基盤社会において必要とされる創造性や問題発見・解決能力、情報活用能力を育成できるよう、技術革新に対応した実践的・体験的な知識・技術、エネルギー・環境問題に対応した感性、技術者に必要な倫理観等を身に付けた高い専門性をもつ教師の養成を目指します。

### (3) 科学・技術やものづくりへの関心を高め、わかる授業、意欲が湧く授業を実践できる教師

工学部では、科学・技術を広く学び、ものづくりや情報技術への関心を高め、わかる授業、意欲が湧く授業を実践できるよう、創意工夫を凝らした教材作成力、主体的・対話的で深い学びを実践できる能力、教育機器の適切な活用技術等を身に付けた指導力のある教師の養成を目指します。

## 18-4 登録

教職課程に登録し、科目を履修する場合には、4月にWeb履修登録の『資格申請』で「教職課程」を申請し、八王子学務課で教職課程登録料を納付してください。なお、登録手続は初年度のみで、登録料は10,000円です。

## 18-5 教職課程科目の分類

教職課程の科目は、「基礎資格科目」「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「大学が独自に設定する科目」に分類されます。

## 18-6 免許状の取得に必要な科目及び単位数

免許状を得るためには、免許状の種類及び教科別に定める各科目の必要単位を4年間にわたり計画的に修得しなければなりません。

(2025年度入学者適用)

区 分	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	
	技術 (機械)	工業 (全学科)	情報 (情報)
基礎資格科目	8以上	8以上	8以上
教科及び教科の指導法に関する科目	28以上	24以上	24以上
教育の基礎的理解に関する科目等	34以上	30以上	30以上
大学が独自に設定する科目	2	5以上	5以上
合 計	72以上	67以上	67以上

## 18-7 基礎資格科目

免許状を取得するための基礎資格として、教育職員免許法施行規則第66条の6で定める、「**日本国憲法・体育・外国語コミュニケーション・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作**」の各区分に属する次の開設科目の中から所定の単位を修得しなければなりません。

(2025年度入学者適用)

免許法の科目区分	学部・学科	開設科目名	年次	単 位	必要単位	
日本国憲法	全学部 共 通	日本国憲法	1年	2	2単位	
体 育		スポーツ演習	1年	1	2単位	
		トレーニング演習	1年	1		
外国語コミュニケーション	工学部	English Intermediate L&S I English Intermediate L&S II	2年 2年	1 1	2単位	
数理、データ活用 及び人工知能に関 する科目又は情報 機器の操作	工 学 部	機 械	電算機言語 I	1年	2	2単位 以上
			電算機言語 II	2年	2	
		電 子	コンピュータ基礎実習	1年	2	
			コンピュータ基礎	1年	2	
		情 報	プログラミング I	1年	2	
			プログラミング II	1年	2	
		デザイン	コンピュータリテラシー	1年	2	
			デジタルデザイン基礎実習	1年	2	
基礎資格科目の合計					8単位 以上	

## 18-8 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目は、免許状の種類により、修得しなければならない科目・単位数が異なります。各免許法の科目区分ごとに必修科目および選択必修科目を修得し、必要単位数を充足した上で、合計単位以上を修得してください。

なお、次の各学科の表で、○が付いた科目は必修科目、△が付いた科目は選択必修科目です。

## (1) 機械システム工学科：中学校教諭一種免許状（技術）

科目区分	各教科に含めることが必要な事項	本学の開設科目名	単位	必要単位
教科に関する専門的事項	材料加工 (実習を含む。)	機械システム工学設計製図Ⅰ	2	6単位以上
		図学	2	
		システム設計B	2	
		○木材加工	2	
		機械システム工学設計製図Ⅱ	2	
		機械システム工学基礎Ⅱ	2	
	機械・電気 (実習を含む。)	○機械システム工学実験Ⅰ	2	4単位以上
		機械システム工学基礎Ⅰ	2	
		工業力学A	2	
		工業力学B	2	
機械力学		2		
材料力学Ⅰ		2		
材料力学Ⅱ		2		
統計・信頼性工学		2		
制御工学Ⅰ		2		
制御工学Ⅱ		2		
ロボット工学		2		
流体力学		2		
工業熱力学Ⅰ		2		
工業熱力学Ⅱ		2		
伝熱工学	2			
エネルギー変換工学	2			
システム設計A	2			
自動設計 (CAD・CAM論)	2			
機械システム工学実験Ⅱ	2			
基礎電気回路	2			
メカトロニクス	2			
電気学	2			
栽培	○栽培Ⅰ (※1)	1	2単位	
	○栽培Ⅱ (※1)	1		
情報とコンピュータ	○コンピュータ言語と演習	2	4単位以上	
	○情報処理論	2		
	工業数学Ⅰ	2		
	工業数学Ⅱ	2		
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	○技術科教育法Ⅰ	2	8単位	
	○技術科教育法Ⅱ	2		
	○技術科教育法Ⅲ	2		
	○技術科教育法Ⅳ	2		
教科及び教科の指導法に関する科目の合計			28単位以上 (※2)	

前期又は後期のみの半期科目が多いので、注意してください。

※1 栽培Ⅰ、栽培Ⅱを履修する場合は、別途、実習・教材費等の納付が必要です。

※2 各区分の必要単位数の他に、中学校教諭一種免許状（技術）の開設科目の中から4単位以上履修しなければ28単位以上になりませんので、注意してください。

(2) 機械システム工学科：高等学校教諭一種免許状（工業）

科目区分	各教科に含めることが必要な事項	本学の開設科目名	単位	必要単位
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	○機械システム工学設計製図Ⅰ	2	16単位以上
		機械システム工学設計製図Ⅱ	2	
		自動設計（CAD・CAM論）	2	
		機械設計工学	2	
		機械システム工学実験Ⅰ	2	
		機械システム工学実験Ⅱ	2	
		機械システム工学基礎Ⅰ	2	
		機械システム工学基礎Ⅱ	2	
		図学	2	
		工業力学A	2	
		工業力学B	2	
		材料基礎論	2	
		材料力学Ⅰ	2	
		材料力学Ⅱ	2	
		機械工作法	2	
		機械力学	2	
		工業数学Ⅰ	2	
		工業数学Ⅱ	2	
		工業熱力学Ⅰ	2	
		工業熱力学Ⅱ	2	
		伝熱工学	2	
		エネルギー変換工学	2	
		流体力学	2	
		制御工学Ⅰ	2	
		ロボット工学	2	
		○コンピュータ言語と演習	2	
		情報処理論	2	
		統計・信頼性工学	2	
		○基礎電気回路	2	
		電気学	2	
		電気機器学（※1）	2	
		半導体デバイス（※1）	2	
		センサ工学（※1）	2	
		制御工学Ⅱ	2	
		○メカトロニクス	2	
		システム設計A	2	
		システム設計B	2	
		△化学A（※2）	2	
		△化学B（※2）	2	
		○講座「科学・技術と人間」	2	
	職業指導	○職業指導Ⅰ	2	
		○職業指導Ⅱ	2	
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		○工業科教育法	4	4単位
教科及び教科の指導法に関する科目の合計			24単位以上	

※1 電子システム工学科の科目です。

※2 専門基礎科目です。化学Aか化学Bのどちらかを必ず修得してください。

(3) 電子システム工学科：高等学校教諭一種免許状（工業）

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学の開設科目名	単位	必要単位
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	基礎電気回路	2	16単位以上
		基礎電子工学実習	2	
		基礎電気数学	2	
		電子システム工学実験Ⅰ	2	
		電子システム工学実験Ⅱ	2	
		電子システム工学実験Ⅲ	2	
		電子システム工学実験Ⅳ	2	
		○電気回路Ⅰ	2	
		電気回路Ⅰ演習	1	
		○電気回路Ⅱ	2	
		電気回路Ⅱ演習	1	
		基礎電磁気学	2	
		応用電磁気学	2	
		デジタル回路	2	
		デジタル回路演習	1	
		○電子回路Ⅰ	2	
		電子回路Ⅱ	2	
		○回路設計Ⅰ	2	
		回路設計Ⅱ	2	
		パルス回路	2	
		電気磁気測定	2	
		半導体デバイス	2	
		応用フーリエ解析	2	
		高周波・測定	2	
		音響工学	2	
		電気機器学	2	
		自動制御	2	
		電気法規及び施設管理	2	
		エレクトロニクス応用実験	2	
		センサ工学	2	
ロボット工学（※1）	2			
メカトロニクス（※1）	2			
伝熱工学（※1）	2			
△化学A（※2）	2			
△化学B（※2）	2			
○講座「科学・技術と人間」	2			
職業指導	○職業指導Ⅰ ○職業指導Ⅱ	2 2	4単位	
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	○工業科教育法	4	4単位	
教科及び教科の指導法に関する科目の合計			24単位以上	

※1 機械システム工学科の科目です。

※2 専門基礎科目です。化学Aか化学Bのどちらかを必ず修得してください。

(4) 情報工学科：高等学校教諭一種免許状（工業）

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学の開設科目	単位	必要単位
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	アセンブリ言語	2	16単位以上
		データ構造とアルゴリズム演習	2	
		電子回路	2	
		論理回路	2	
		信号処理	2	
		センサ工学	2	
		情報機器インタフェース	2	
		データサイエンス	2	
		確率統計	2	
		プログラミング言語	2	
		人工知能	2	
		オペレーティングシステム	2	
		コンピュータアーキテクチャ	2	
		ロボット工学	2	
		コンパイラ	2	
		○情報工学概論	2	
		○計算機工学	2	
		プログラミング基礎Ⅱ	2	
		シミュレーションとモデル	2	
		自然言語処理	2	
パターン認識と機械学習	2			
デザイン表現法・演習（※1）	3			
デザイン史（※1）	2			
△化学A（※2）	2			
△化学B（※2）	2			
○講座「科学・技術と人間」	2			
職業指導	職業指導	○職業指導Ⅰ	2	4単位
		○職業指導Ⅱ	2	
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		○工業科教育法	4	4単位
教科及び教科の指導法に関する科目の合計			24単位以上	

※1 デザイン学科の科目です。

※2 専門基礎科目です。化学Aか化学Bのどちらかを必ず修得してください。

(5) 情報工学科：高等学校教諭一種免許状（情報）

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学の開設科目	単位	必要単位
教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理	○技術者倫理	2	<b>6単位以上</b>
		情報コミュニケーション技術	2	
		○知的財産権	2	
		○情報工学と職業	2	
	コンピュータ・情報処理	ソフトウェア工学演習	2	<b>2単位以上</b>
		○コンピュータリテラシー	2	
情報メディア実験		2		
プログラミング基礎 I		2		
情報システム	○Web アプリケーション&サービス	2	<b>4単位以上</b>	
	○データベース	2		
	ソフトウェア工学	2		
	データ構造とアルゴリズム	2		
情報通信ネットワーク	通信工学	2	<b>2単位以上</b>	
	○コンピュータネットワーク	2		
マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	○画像工学	2	<b>4単位以上</b>	
	音と音声	2		
	○コンピュータグラフィックス	2		
	ヒューマンインタフェース	2		
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		○情報科教育法	4	<b>4単位</b>
教科及び教科の指導法に関する科目の合計			<b>24単位以上（※）</b>	

前期又は後期のみの半期科目が多いので、注意してください。

※ 各区分の必要単位数の他に、高等学校教諭一種免許状（情報）の開設科目の中から2単位以上履修しなければ24単位以上になりませんので、注意してください。



(7) 「各教科の指導法」の配当年次

(2025年度入学者適用)

科目名及び単位数		対象免許状の種類	配当年次				備考
			1	2	3	4	
技術科教育法Ⅰ	2	技 術		◎			
技術科教育法Ⅱ	2				◎		
技術科教育法Ⅲ	2				◎		
技術科教育法Ⅳ	2					◎	
工業科教育法	4	工 業			◎		
情報科教育法	4	情 報			◎		

18-9 教育の基礎的理解に関する科目等

教育の基礎的理解に関する科目等は、次に定められた必要単位数を修得してください。

なお、次の各学科の表で、○印が付いた科目は必修科目、●印が付いた科目は中学校教諭一種免許状の必修科目です。

(2025年度入学者適用)

免許法の科目区分	本学の開設科目名 (単位数)		必要単位数	配当年次				備考
				1	2	3	4	
教育の基礎的理解に関する科目	○教育原理	2	12単位以上	◎				
	○教育史	2		◎				
	○教職論	2		◎				
	○教育社会学	2		◎				
	○生涯学習概論	2		◎				
	○教育・発達心理学	2		◎				
	○特別支援教育論	2		◎				
○教育課程論	2	◎						
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	●道徳教育指導論	2	中学校 15単位 高等学校 13単位 以上		◎			
	○総合的な学習の時間指導論	1		◎				
	○特別活動論	2		◎				
	○教育方法	2		◎				
	○教育とICT活用	2		◎				
	○生徒指導論	2		◎				
	○教育相談 (カウンセリングを含む)	2		◎				
○進路指導論	2	◎						
教育実践に関する科目	○教育実習 (事前・事後指導)	1	中学校 7単位 高等学校 5単位 以上			◎	◎	※「18-12. 教育実習について」参照 後期配当
	○教育実習Ⅰ	2					◎	
	●教育実習Ⅱ	2					◎	
	○教職実践演習(中・高)	2					◎	

## 【履修上の注意】

- ① 中学校教諭一種免許状の取得希望者は、必ず「道德教育指導論」（2単位）と「教育実習Ⅱ」（2単位）の単位を修得してください（必修）。
- ② 3年次より教職課程の履修を始める場合には、必ず八王子学務課まで相談に来てください。

## 18-10 大学が独自に設定する科目

(2025年度入学者適用)

科目の区分	科目名	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	
		技術	工業	情報
大学が独自に設定する科目	介護等体験	2単位(必修)	5単位以上	5単位以上
	教科及び教科の指導法に関する科目の必要単位数超過分単位	—		
	教育の基礎的理解に関する科目等の必要単位数超過分単位			
	合計	2単位	5単位以上	5単位以上

※ 「道德教育指導論」は、「教育の基礎的理解に関する科目等」の必要単位数超過分単位として認定されません。

※ 中学校教諭一種免許状取得希望者は必ず「介護等体験」（2年次配当）の単位を修得してください（必修）。

また、高等学校教諭一種免許状取得希望者が「介護等体験」の単位を取得した場合は、「大学が独自に設定する科目」（5単位以上）に充当されます。

## 18-11 履修カルテについて

教職課程履修者の学修状況をきめ細かく把握し、指導助言に活用するために「履修カルテ」を使用します。詳細については、教職課程ガイダンスにおいて説明しますが、「教育実習」、「教職実践演習」を履修するうえで必要となりますので、教職課程ガイダンスには必ず出席してください。

## 18-12 教育実習について

- ① 「教育実習Ⅰ・Ⅱ」を実施するためには、以下のことが必要になります。
  - ・「教職論」を修得していること。
  - ・「(教育実習を実施する教科の)教科教育法」を修得していること。  
(中学校技術科で教育実習を実施する者は、「技術科教育法Ⅰ」、「技術科教育法Ⅱ」、「技術科教育法Ⅲ」を修得していること。)
  - ・「総合的な学習の時間指導論」、「道德教育指導論」、「特別活動論」のうち1科目以上を修得していること。  
(高等学校教諭免許状のみを取得希望する者は、「総合的な学習の時間指導論」・「特別活動論」のうち1科目以上を修得していること。)
  - ・「教育実習(事前・事後指導)」を3年生で履修し、担当教員が教育実習への派遣を許可していること。

これらすべての要件を満たさない場合は、実習が中止となりますので、注意してください。

- ② 教育実習期間は、概ね**中学校教諭一種免許状（技術）取得希望者は3～4週間、高等学校教諭一種免許状（工業・情報）取得希望者は2週間**の実習が必要となります。ただし、受入校により若干異なる場合があります。また、教育実習に係わる諸費用として、4年次初めに教育実習費5,000円を指定期日までに八王子学務課に納入してください。ただし、実習校によっては、別途謝礼金が必要になる場合があります。
- ③ 実習校はなるべく出身校又は出身地の中学か高校に本学教職担当教員と相談の上、**教育実習を実施する前年度の4・5月**に内諾依頼書を持参して、**訪問し内諾を得てください**。なお、万が一内諾を得ることができなかった場合には八王子学務課に申し出てください。
- ④ 出身校が**都立高校・都内公立中学校及び拓殖大学第一高等学校**の場合には、事前打合せ・実習期間等が予め指定されますので、教職課程ガイダンス時等の指示に従ってください。
- ⑤ 教育実習の評価及び単位認定は、大学での「**教育実習**」の**事前・事後指導の成果**、実習生が作成する「**教育実習記録簿**」の内容及び実習校における教育実習状況を総合的に評価し、後期成績表で評価を公表します。
- ⑥ 教育実習の実習日数により、認定される科目及び認定単位数が次のとおり異なります。
- ・ 2週間の実施 : 「教育実習Ⅰ」（2単位）を認定
  - ・ 3週間以上の実施 : 「教育実習Ⅰ」（2単位）と「教育実習Ⅱ」（2単位）を認定

### 18-13 中学校教諭一種免許状取得のための「介護等体験」について

中学校教諭一種免許状を取得するためには、**介護等の体験が7日間**（福祉施設：5日間、特別支援学校：2日間）必要となります。

- ① 介護等体験を行うためには、「**介護等体験（講義）**」（2年次配当）を履修登録し、**事前指導を受けることが必要条件**です。
- ② 介護等体験施設については、希望する学生を大学で取りまとめ、教育委員会・施設・学校等に依頼後決定しますので、指定された期間内に「**介護等体験申込書**」を八王子学務課に提出してください。
- ③ **介護等体験実習費として5,000円**、施設への**謝礼金として11,000円**（2024年度実績）をそれぞれ、指定期日までに八王子学務課に納入してください。
- なお、介護等体験の実習に際し、「**学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険**」（保険料**210円** 2024年度実績）への**加入**が必要となります。
- ※ 金額は変更になる場合があります。
- ④ 介護等体験実習の評価及び単位認定は、大学で行う「**介護等体験（講義）**」での成果、施設・学校が発行する「**介護等体験証明書**」及び体験者が作成する「**介護等体験記録簿**」等の評価を総合的に評価し、履修年度の**後期成績発表時に認定**します。

## 18-14 免許状の申請手続

### (1) 卒業時に免許状を取得する場合（大学一括申請）

- ① 4年次に配布する「教員免許状申請書」を指定期日までに八王子学務課へ提出してください。
- ② 申請書提出者に対して「免許状申請説明会」を11月下旬から12月上旬に開催します。説明会にて、免許状記載事項の確認、宣誓書への署名捺印及び申請料金の納付（1教科：3,300円 2024年度実績）等の手続を行います。
- ③ 以上の手続を完了し、免許状取得に必要な単位を修得し卒業が確定した者について、大学で取りまとめて東京都教育委員会へ申請手続を行い、卒業式当日に免許状を授与します（印鑑持参）。

### (2) 卒業後に免許状を取得しようとする場合（個人申請）

卒業後、各自が居住の都道府県教育委員会に学力に関する証明書及びその他の必要書類を揃えて申請することにより免許状が取得できます。単位が有効となる卒業後の4月以降であれば申請できます（詳細は居住する都道府県教育委員会に確認してください）。

## 18-15 高等学校教諭一種免許状「工業」の特例措置について

高等学校教諭一種免許「工業」に対してのみ、以下の特例が認められます。

教科及び教科の指導法に関する科目（「職業指導Ⅰ／Ⅱ」及び「工業科教育法」を含む）の必要単位超過修得点は、教育の基礎的理解に関する科目等に27単位まで修得単位が充当され、教育実習（事前・事後指導）（1単位）、教育実習Ⅰ（2単位）教職実践演習（2単位）計3単位の修得で良いものとします。ただし合計67単位は変わらないので注意してください。

なお、教育の基礎的理解に関する科目等の内「教育の基礎的理解に関する科目」の区分については出来るだけ修得するものとします。

(2025年度入学者適用)

区 分	高等学校教諭一種免許状（正規）	高等学校教諭一種免許状（特例措置）
	工 業	工 業
基礎資格科目	8単位	8単位
教科及び教科の指導法に関する科目	24単位 →	※ 25単位～51単位
教育の基礎的理解に関する科目等	30単位 →	※ 3単位～29単位
大学が独自に設定する科目	5単位	5単位
合 計	67単位	67単位

※この特例措置は高等学校教諭一種免許状「工業」のみに適用され、高等学校教諭一種免許状「情報」・中学校教諭一種免許状「技術」には適用されません。

18-16 教職課程科目の科目ナンバー

区 分		○：主要授業科目（学部が教育課程上主要と認める授業科目）			科目ナンバー	単位数
		授業科目名	配当年次	主要授業科目		
教科指導法及び教科に関する科目	各教科の指導法	情報科教育法	3		UTL-3-201-04	4
		工業科教育法	3		UTL-3-201-11	4
		技術科教育法Ⅰ	2		UTL-2-201-12	2
		技術科教育法Ⅱ	3		UTL-3-201-13	2
		技術科教育法Ⅲ	3		UTL-3-201-14	2
		技術科教育法Ⅳ	4		UTL-4-201-15	2
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	1		UTL-1-301-01	2
		教育史	1		UTL-1-301-02	2
		教職論	1		UTL-1-301-03	2
		教育社会学	1		UTL-1-301-04	2
		生涯学習概論	1		UTL-1-301-05	2
		教育・発達心理学	1		UTL-1-301-06	2
		特別支援教育論	1		UTL-1-301-07	2
		教育課程論	1		UTL-1-301-08	2
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育指導論	2		UTL-2-311-01	2
		総合的な学習の時間指導論	1		UTL-1-311-02	1
		特別活動論	2		UTL-2-311-03	2
		教育方法	2		UTL-2-311-04	2
		教育とICT活用	2		UTL-2-311-05	2
		生徒指導論	2		UTL-2-311-06	2
		教育相談（カウンセリングを含む）	2		UTL-2-311-07	2
		進路指導論	2		UTL-2-311-08	2
	教育実践に関する科目	教育実習（事前・事後指導）	3		UTL-3-321-01	1
		教育実習Ⅰ	4		UTL-4-321-02	2
		教育実習Ⅱ	4		UTL-4-321-03	2
		教職実践演習（中・高）	4		UTL-4-321-04	2
	大学が独自に設定する科目		介護等体験	2		UTL-2-401-01

# 拓殖大学学則（抄）



# 19 拓殖大学学則 (抜粋)

## 目 次

第 1 章	総則 (第 1 条～第 3 条)
第 2 章	組織 (第 4 条～第 10 条)
第 3 章	職員組織 (第 11 条～第 16 条)
第 4 章	教授会 (第 17 条・第 18 条)
第 5 章	学年・学期及び休業日 (第 19 条～第 22 条)
第 6 章	修業年限及び在学年限 (第 23 条・第 24 条)
第 7 章	入学 (第 25 条～第 32 条)
第 8 章	教育課程及び履修方法 (第 33 条～第 37 条)
第 9 章	試験・成績及び進級 (第 38 条～第 41 条)
第 10 章	休学・転学・転部・転科・留学・退学及び除籍 (第 42 条～第 50 条)
第 11 章	卒業及び学位 (第 51 条・第 52 条)
第 12 章	賞罰 (第 53 条・第 54 条)
第 13 章	科目等履修生・委託生・受託留学生及び研究生 (第 55 条～第 59 条)
第 14 章	学費等 (第 60 条～第 62 条)
第 15 章	奨学生 (第 63 条)
第 16 章	公開講座 (第 64 条)
第 17 章	寄宿舍 (第 65 条)
第 18 章	雑則 (第 66 条)

附則

## 第1章 総 則

(目的)

**第1条** 拓殖大学(以下「本学」という。)は、海外に赴き、地域の開発協力や福利の向上など、公私の事業に貢献できる有為の人材を育成するという建学の初志をふまえ、教育基本法  
の精神を体し、学校教育法に定める大学の役割を果たすべく、広く知識を授け、深く専門の  
学芸を教授研究して、人格を陶冶し社会の発展に貢献できる有為の人材を育成することを目  
的とする。

2 第4条に定める学部、学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、  
別表第1に定める。

(使命)

**第2条** 本学は、積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた  
有為の人材の育成を建学の理念としている。この国際友愛と人間尊重の理念に基づき、日本  
及び世界の平和と文化の進展に寄与していくことを使命とする。

(自己点検・評価)

**第3条** 本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営  
並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検及び評価に関する必要な事項は、別に定める。

## 第2章 組 織

(学部及び学科の設置)

**第4条** 本学に、商学部、政経学部、外国語学部、工学部及び国際学部を置く。

- (1) 商学部に、経営学科、国際ビジネス学科及び会計学科を置く。
- (2) 政経学部に、法律政治学科、経済学科及び社会安全学科を置く。
- (3) 外国語学部に、英米語学科、中国語学科、スペイン語学科及び国際日本語学科を置く。
- (4) 工学部に、機械システム工学科、電子システム工学科、情報工学科及びデザイン学科を置く。
- (5) 国際学部に、国際学科を置く。

(入学定員及び収容定員)

**第5条** 前条に規定する各学科の入学定員及び収容定員は、次の通りとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
商 学 部	経 営 学 科	416 名 (※外国人留学生 特別枠 36 名を 含む)	1,664 名 (※外国人留学生 特別枠 144 名を 含む)
	国 際 ビ ジ ネ ス 学 科	159 名 (※外国人留学生 特別枠 9 名を 含む)	636 名 (※外国人留学生 特別枠 36 名を 含む)
	会 計 学 科	70 名	280 名
政 経 学 部	法 律 政 治 学 科	230 名	920 名
	経 済 学 科	473 名 (※外国人留学生 特別枠 23 名を 含む)	1,892 名 (※外国人留学生 特別枠 92 名を 含む)
	社 会 安 全 学 科	150 名	600 名
外 国 語 学 部	英 米 語 学 科	130 名	520 名
	中 国 語 学 科	50 名	200 名
	ス ペ イ ン 語 学 科	50 名	200 名
工 学 部	国 際 日 本 語 学 科	50 名	200 名
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	80 名	320 名
	電 子 シ ス テ ム 工 学 科	80 名	320 名
	情 報 工 学 科	105 名	420 名
国 際 学 部	デ ザ イ ン 学 科	80 名	320 名
	国 際 学 科	350 名	1,400 名

(大学院)

**第6条** 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関する規則は、別に定める。

(別科)

**第7条** 本学に、別科を置く。

2 別科に関する規則は、別に定める。

(附置研究所)

**第8条** 本学に、附置研究所として、経営経理研究所、政治経済研究所、言語文化研究所、理工学総合研究所、人文科学研究所、海外事情研究所、国際日本文化研究所、国際開発研究所、日本語教育研究所、イスラーム研究所、地方政治行政研究所、産学連携研究センター及び地域連携センター（以下「研究所」という。）を置く。

2 研究所に関する規則は、別に定める。

(図書館)

**第9条** 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関する規則は、別に定める。

(事務組織等)

**第10条** 本学に、事務局、学生支援センター、入学支援センター、総合情報センター、就職キャリアセンター及び国際交流留学生センターを置く。

2 本学の事務組織、学生支援センター、入学支援センター、総合情報センター、就職キャリアセンター及び国際交流留学生センターに関する規則は別に定める。

### 第3章 職員組織

(職員)

**第11条** 本学に、学長、副学長、教授、准教授、助教、講師、助手、学生主事、学生主事補、事務職員及びその他必要な職員を置く。

(学長)

**第12条** 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

(副学長)

**第13条** 副学長は、学長を補佐し、命を受けて、校務を統括する。

(学部長)

**第14条** 各学部に、学部長を置く。

2 学部長は、その学部の教授のうちからこれをあてる。

3 学部長は、学長を補佐し、当該学部の校務を統括する。

(研究所長等)

**第15条** 研究所に、研究所長又はセンター長を置く。

(図書館長)

**第16条** 図書館に、図書館長を置く。

### 第4章 教授会

(学部教授会)

**第17条** 本学の各学部に、教授会を置く。

2 学部教授会は、当該学部の専任の教授、准教授及び助教をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。

3 学部教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教授会の運営に関する事項
- (2) 教育課程の編成、変更、実施及び講義担当に関する事項
- (3) 学部長の選挙に関する事項
- (4) 教員人事に関する事項
- (5) 各種委員会に関する事項
- (6) 名誉教授の推薦に関する事項
- (7) 学則に関する事項
- (8) 学生の入学、退学、休学、進級、復学、転部、転科、留学、除籍、卒業及び課程の修了、学位の授与に関する事項
- (9) 学生の試験に関する事項
- (10) 奨学生の選考に関する事項
- (11) 学生の賞罰に関する事項
- (12) 学生団体、学生活動、その他学生生活に関する事項
- (13) 教授会規程の改廃に関する事項
- (14) その他当該学部の運営上重要な事項

4 前項第4号の審議及び議決には、准教授及び助教は参加することができない。

5 前3項に掲げる審議事項のうち、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与について

は、学長が決定を行うにあたり、必ず意見を述べなければならない。

6 学部教授会において審議、議決された事項は、学部長から学長に報告し、学長が決定する。

7 学部教授会に関するその他必要な事項は、別に定める。

(連合教授会)

**第18条** 本学に、連合教授会を置く。

2 連合教授会は、各学部の専任の教授をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。

3 連合教授会は、学長が次に掲げる事項を決定するにあたり意見を述べるものとする。

(1) 学部教授会から附託された事項

(2) その他各学部に共通する事項

4 連合教授会に関するその他必要な事項は、別に定める。

## 第5章 学年・学期及び休業日

(学年)

**第19条** 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

**第20条** 学年は、次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

(授業期間)

**第21条** 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(休業日)

**第22条** 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(2) 本学の創立記念日(11月3日)

(3) 春季休業日3月24日から3月31日まで

(4) 夏季休業日7月11日から9月10日まで

(5) 冬季休業日12月25日から翌年1月7日まで

2 学長は、教授会の議を経て前項に規定する休業日を変更することができる。

3 第1項に規定するもののほか、学長は、教授会の議を経て臨時的休業日を定めることができる。

## 第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

**第23条** 学部の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

**第24条** 学生は、6年をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、8年以内の期間、在学することができる。

2 第30条第1項の規定により入学した学生は、同条第2項により定められた在学年数の1.5倍の年数(端数が生じた場合は切上げた数)をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、その2倍に相当する年数以内の期間、在学することができる。

## 第7章 入学

(入学の時期)

**第25条** 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

**第26条** 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年1月31日文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度試験に合格した者
- (7) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

**第27条** 本学へ入学を志願する者は、入学志願書に別表第2-1に定める入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

2 入学検定料は、受験の如何にかかわらずこれを返還しない。

(入学者の選考)

**第28条** 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

**第29条** 選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書・同意書その他所定の書類を提出するとともに、別表第2-2に定める学費及び所定の諸会費(以下「学費等」という。)を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学及び転入学)

**第30条** 次の各号の一に該当する者で、本学へ入学を志願するときは、学長は、欠員のある場合に限り、教授会の議を経て、相当学年に入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
- (3) 他の大学を退学した者
- (4) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校の課程を修了し、又は卒業した者
- (5) 大学入学資格を有し、専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
- (6) 大学入学資格を有し、高等学校等の専攻科のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

2 前項及び第31条の規定により入学を許可された者のすでに履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、学長が教授会の議を経て決定する。

(再入学)

**第31条** 学長は、本学の退学者及び除籍者が再入学を願い出たときは、次の各号に該当する者を除き、欠員がある場合に限り、教授会の議を経て相当学年に入学を許可することができる。

- (1) 第54条第2項により放校退学された者
- (2) 第54条第2項による諭旨退学者で退学決定日より1年以上経過していないとき。
- (3) 第50条第2号により除籍された者

(保護者等)

**第32条** 入学の許可を得た者は、保護者等を届け出なければならない。

- 2 保護者等は、父母若しくはこれに準ずる者とする。
- 3 保護者等は、学生が学修研究活動等を円滑に遂行していくうえで、大学と連携し、学生を指導・支援しなければならない。

## 第8章 教育課程及び履修方法

(授業科目)

**第33条** 授業科目は、全学共通教養科目、外国語科目、初期教育科目、専門科目、ゼミナール科目、自由科目、教職課程科目及び拓殖大学日本語教員養成講座科目等とする。

(メディアを利用して行う授業)

**第34条** 学長は、本学が教育上有益と認めるときは、前条の授業科目を、教授会の議を経て、多様なメディアを高度に利用して、教室以外の場所で履修させることができる。

- 2 前項の授業の方法により履修できる単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち60単位を限度とする。

(履修方法)

**第35条** 授業科目の履修方法及び修得すべき単位数は、別表第3のとおりとする。

(※履修要項参照)

(単位の計算方法)

**第36条** 授業科目の単位計算方法は、1単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて45時間を標準とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、ゼミナール論文、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められた場合は、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 3 授業科目の単位数は、教授会の議を経て学長が定める。

(教育職員免許状の授与)

**第37条** 教育職員の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める単位を修得しなければならない。

- 2 本学の学部及び学科において取得できる教育職員免許状の種類は、別表第4の通りである。

## 第9章 試験・成績及び進級

(履修届の提出)

**第38条** 学生は、毎年度所定の期日までに、履修すべき授業科目を記載した履修届を提出しなければならない。

(単位の授与及び試験等)

**第39条** 履修した授業科目は、試験その他の適切な方法等（以下「試験等」という。）により学修の成果を評価し、合格した者に単位を与える。

- 2 学費等を納付していない者、休学又は停学の期間中の者等には、単位を与えることができない。
- 3 試験等の実施については、別に定める。

(成績等)

**第40条** 学生に対して、授業の方法及び内容並びに授業の計画をあらかじめ明示する。

- 2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行う。
- 3 授業科目の成績評価は、S、A、B、C及びFをもって表わし、S、A、B及びCを合格とする。

(進級)

**第41条** 上級の学年に進級する基準は、別に定める。

## 第10章 休学・転学・転部・転科・留学・退学及び除籍

(休学)

**第42条** 疾病その他の事由により3カ月以上修学することができない者は、学長の許可を受けて休学することができる。

2 学長は、疾病のため修学することが適当でないと認められた者に対し休学を命ずることができる。

(休学期間)

**第43条** 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年をこえることはできない。

3 休学期間は、第24条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

**第44条** 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を受けて復学することができる。

(転入学)

**第45条** 他の大学へ入学又は転入学を志願しようとする者は、学長に届け出なければならない。

(転部及び転科)

**第46条** 学長は、他の学部へ転部又は他の学科へ転科することを志願する者に対し、欠員がある場合に限り、教授会の議を経て、許可することができる。

(単位認定等)

**第47条** 学長は、本学が教育上有益と認めるときは、次の各号の一に該当する単位等は、教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

(1) 本学が定める他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

(2) 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位

(3) 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(いずれも外国の大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位及びその他文部科学大臣が別に定める学修を本学に入学した後の本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位

2 前項により認定することのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、60単位を限度とする。

(留学)

**第48条** 本学の学生で、外国の大学で学修することを志願する者は、学長の許可を受けて留学することができる。

2 前項の許可を受けて留学した期間は、第24条に定める在学期間に含めることができる。

3 前項の規定より履修し、修得した授業科目及び単位は、教授会の議を経て、商学部、政経学部、外国語学部、国際学部においては30単位を限度として、工学部においては60単位を限度として、卒業の要件となる単位として認めることができる。

(退学)

**第49条** 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

**第50条** 学長は、次の各号の一に該当する者を、教授会の議を経て、除籍することができる。

(1) 学費等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 第24条に定める在学年限をこえた者

(3) 第43条第2項に定める休学期間をこえて修学できない者

- (4) 履修届の提出等在籍に要する手続きを履行しない者

## 第11章 卒業及び学位

(卒業)

**第51条** 学長は、本学に4年(第30条第1項及び第31条の規定により入学した者については、第30条第2項により定められた在学すべき年数)以上在学し、別に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、卒業を認定する。

(学位の授与)

**第52条** 卒業した者には、次の区分に従い、学位を授与する。

商 学 部	経 営 学 科 国 際 ビ ジ ネ ス 学 科 会 計 学 科	学士 (商学)
政 経 学 部	法 律 政 治 学 科 経 済 学 科 社 会 安 全 学 科	学士 (法律政治学) 学士 (経済学) 学士 (法律政治学)
外 国 語 学 部	英 米 語 学 科 中 国 語 学 科 ス ペ イ ン 語 学 科 国 際 日 本 語 学 科	学士 (英米語) 学士 (中国語) 学士 (スペイン語) 学士 (日本語)
工 学 部	機 械 シ ス テ ム 工 学 科 電 子 シ ス テ ム 工 学 科 情 報 工 学 科 デ ザ イ ン 学 科	学士 (工学)
国 際 学 部	国 際 学 科	学士 (国際開発)

- 2 学位の授与に関し、その他必要な事項は拓殖大学学位規程の定めるところによる。

## 第12章 賞罰

(表彰)

**第53条** 学長は、学生として表彰に価する行為があった者を教授会の議を経て表彰する。

(懲戒)

**第54条** 学長は、本学の規則に違反し、次の各号の一に該当する者に対し、教授会の議を経て、懲戒する。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 正当な理由がなく出席が常でない者
- (3) 本学の秩序を乱した者
- (4) 学生としての本分に反した者

- 2 前項の懲戒の種類は、放校退学、諭旨退学、停学、謹慎、譴責及び訓戒とする。

## 第13章 科目等履修生・委託生・受託留学生及び研究生

(科目等履修生)

**第55条** 学長は、本学において一又は複数の授業科目について履修を志願する者があるときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 科目等履修生は、学期ごとに入学を許可する。
- 3 科目等履修生は、履修した授業科目の試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を認定する。

4 科目等履修生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(委託生)

**第56条** 学長は、本学に対して官公庁、外国政府又は内外の企業・機関等から委託があったときは、各学部教育に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、委託生として入学を許可することができる。

2 委託生は、学期ごとに入学を許可する。

3 委託生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(受託留学生)

**第57条** 学長は、外国の大学との協定に基づき、当該大学からの委託によって一定の期間本学に留学する者は、教授会の議を経て、受託留学生として入学を許可する。

2 受託留学生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(研究生)

**第58条** 学長は、指導教員の指導のもとに特定事項に関する研究をしようとする者がいるときは、各学部教育研究に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生は、学期ごとに入学を許可する。

3 研究生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(学則の準用)

**第59条** 科目等履修生、委託生、受託留学生及び研究生には、本章に規定するほか、本学則の各章の規定を準用する。

## 第14章 学費等

(学費の額)

**第60条** 学費等の額は、別表第2-2及び別表第2-3に定めるとおりとする。

2 第30条第1項及び第31条の規定により入学を許可された者が納付すべき学費の額は、在学することとなる年次の学生に適用する学則に定める額とする。

3 卒業できない者及び上級の学年に進級できない者の学費は、別表第2-2に定める学費の額にかかわらず、滞留することとなる年次の学生に適用する学則に定める額とする。

4 学費の減免及び免除等の特例については、別に定める。

(学費等の納付)

**第61条** 学費及び所定の諸会費は、当該学年度分を別に定める期日までに納付しなければならない。

2 1学期を通じて休学する者に対しては、休学中の授業料及び施設設備資金を免除する。ただし、休学中は1学期につき50,000円の在籍料を納入しなければならない。

3 第48条に定める留学中の学費等は、全額納付しなければならない。

(学費等の返還)

**第62条** 納付した学費等は、事由の如何にかかわらず返還しない。ただし、入学手続時において別に定めるところにより入学を辞退する場合は、この限りでない。

## 第15章 奨学生

(奨学生)

**第63条** 学長は、学力優秀、品行方正な学生を、教授会の議を経て、奨学生とすることができる。

2 奨学生に関する規程は、別に定める。

## 第16章 公開講座

(公開講座)

**第64条** 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する規程は別に定める。

## 第17章 寄宿舍

(寄宿舍)

**第65条** 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関する規程は、別に定める。

## 第18章 雑則

(学則の変更)

**第66条** この学則は、教授会の議を経て、学長の提案に基づき、理事会の議決により変更することができる。

附 則

1 この学則は、令和7年4月1日から施行する。ただし、令和6年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

## 別表第1 学部、学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

### 1 商学部

会計・経営・情報・流通・国際ビジネス等の商学の諸分野における実学を身につけ、グローバル化の進むビジネス社会で活躍できる人材を育成する。

#### (1) 経営学科

企業、組織、流通及び市場の仕組みやその活動を理解する能力と、経営を実践する能力を修得し、ビジネスの世界で活躍できる人材を育成する。

#### (2) 国際ビジネス学科

貿易、サービス・ビジネス、コミュニケーション、ビジネス英語の各領域における実学を総合的に修得し、国際ビジネスの舞台で活躍できる人材を育成する。

#### (3) 会計学科

ビジネス世界における会計情報の役割及び企業法制度の仕組みを修得し、職業的会計人（会計のプロフェッショナル）として活躍できる人材を育成する。

### 2 政経学部

法律・政治・経済の3分野における基礎及び専門知識を身につけ、国際的視野に立ち公共と民間の多様な領域で社会に貢献できる人材を育成する。

#### (1) 法律政治学科

法律学・政治学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成する。

#### (2) 経済学科

経済学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成する。

#### (3) 社会安全学科

法律学・政治学分野における社会安全上の理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の社会安全上の諸問題を的確に見極め、解決できる能力と意欲を持った人材を育成する。

### 3 外国語学部

言語の仕組みや働きについての専門的知識を持ち、単に読み・書き・話し・聞くことができるだけでなく、言語に関わる幅広い分野において、知的コミュニケーションができる当該言語運用能力を修得させ、優れた語学の力と国際感覚を持ち、自国の言語、文化、社会をしっかりと理解した上で、他国の文化を尊重し、相互理解に導く力を持った人を育てる。

#### (1) 英米語学科

世界で広く用いられている英語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

#### (2) 中国語学科

世界で広く用いられている中国語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

#### (3) スペイン語学科

世界で広く用いられているスペイン語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得

し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

(4) 国際日本語学科

日本語についての知見をもとにした言語を通しての相互理解と発信する力、日本文化への洞察をもとにした社会的人間関係を構築し、発展させる力、そして、問題を発見し、思考するとともにコミュニケーションを通して解決する力を身につける。

日本の言語、文化、社会への深い理解のうえに、優れた発信型の語学力と異文化コミュニケーション能力を有し、また、グローバルな視野と教養、実践力を身につけた、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育てる。

4 工学部

工学に関する基礎から応用に至る「ものづくり」を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。

(1) 機械システム工学科

国際感覚と教養を身につけるとともに、機械システム工学に関する均整のとれた知識を修得し、社会と工学の発展に貢献できる人材を育成する。

(2) 電子システム工学科

現代社会を支える多様化した電子システムを開発・運用するために必要な知識と技術能力を修得し、国内外の発展に貢献できる人材を育成する。

(3) 情報工学科

情報社会及び多彩な産業分野におけるコンピュータ活用技術を身につけ、情報システムの構築ならびに情報サービスの発展に貢献できる人材を育成する。

(4) デザイン学科

工学における「ものづくり」を基盤に、デザイン提案に必要な知識と技術能力を身につけ、生活文化の発展に貢献できる人材を育成する。

5 国際学部 国際学科

諸外国の言語、文化、民族、政治経済システムを理解し、国際協力、国際経済、国際政治、国際文化、国際観光、農業総合、国際スポーツの7つの分野におけるグローバル化した社会の諸課題に取り組み、その解決に貢献できる人材を育成する。

別表第4

学部	学科	免許状の種類
工学部	機械システム工学科	中学校教諭一種免許状（技術）
		高等学校教諭一種免許状（工業）
	電子システム工学科	高等学校教諭一種免許状（工業）
		高等学校教諭一種免許状（工業）
	情報工学科	高等学校教諭一種免許状（工業）
高等学校教諭一種免許状（情報）		
デザイン学科	高等学校教諭一種免許状（工業）	

# 拓殖大学研究倫理ガイドライン



## 20 拓殖大学研究倫理ガイドライン

### 1. 目的

拓殖大学研究倫理ガイドライン（以下「本ガイドライン」という。）は、拓殖大学（以下「本学」という。）における学術研究が科学的及び社会的規範に従い適切な方法で遂行され、社会からの信頼を確保することを目的に、研究に従事するすべての研究者が遵守すべき倫理指針及び研究活動上の不正行為に関する必要な事項を定めたものである。

### 2. 用語の定義

本ガイドラインにおいて用いる用語の定義は、次のとおりとする。

#### (1) 研究者

本学の専任教職員のみならず、本学で研究活動に従事するものすべての者を指し、学生であっても研究にかかわる時は研究者に準ずるものとする。

#### (2) 研究活動上の不正行為

① 故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる、ねつ造、改ざん、又は盗用。

- ・ねつ造：存在しないデータ、研究結果等を作成すること
- ・改ざん：研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること
- ・盗用：他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること

② ①以外の研究活動上の不適切な行為であって、研究者の行動規範及び社会通念に照らして研究倫理からの逸脱の程度が甚だしい二重投稿、不適切なオーサーシップ

- ・二重投稿：他の学術誌等に既発表又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿すること
- ・不適切なオーサーシップ：論文著作者が適正に公表されないこと

### 3. 大学の責務

(1) 本学は、研究倫理にかかわる意識を高め、研究活動における不正行為及び研究費の取り扱いにおける不正行為を防止するため、必要な措置を講じる。

(2) 本学は、研究活動に不適切な行為が認められた場合は、速やかに原因の究明と適切な措置を講じ、学内外への説明責任を果たす。

- (3) 本学は、本学が研究者などに交付した研究費及び研究者などが学外から獲得した研究費を適切に管理し、研究費を支出又は支出後に、その支出が適正であるか確認し監査する。
- (4) 本学は、各研究科長、各学部長、別科長、各附置研究所長、事務局長を研究倫理教育責任者と定め、研究者による研究活動にかかわる法令等の違反を防止するため、必要な教育研修及び啓発活動を定期的に行う。
- (5) 本学は、研究活動における技術の提供や貨物の輸出について、法令等を遵守し安全保障輸出管理に努める。

#### 4. 研究者の責務

##### (1) 基本事項

- ① 研究者は、社会倫理を逸脱しないよう自らを強く律し、研究活動を遂行する。
- ② 研究者は、利益相反や責務相反の発生に十分注意を払い、研究活動を遂行する。
- ③ 研究者は、研究倫理及び研究活動に係る法令等に関する研修又は科目等を受講しなければならない。
- ④ 研究者は、研究を進めるにあたり、データのねつ造、改ざん、盗用などの不正な行為を行わないことはもとより、論文等の形で発表された研究成果のもととなった実験データ等の研究資料は、当該論文等の発表から10年間の保存を原則とし、試料や標本などの有体物については5年間の原則とするなど適切な取り扱いを徹底し、不正行為の発生を未然に防ぐよう環境整備を図る。
- ⑤ 研究者は、研究活動の正当性の証明手段を確保するとともに、第三者による検証可能性を担保するため、研究のため収集した資料等の開示の必要性及び相当性が認められる場合には、これを開示する。
- ⑥ 研究者は、研究費の使用にあたって、本学諸規程及び研究費ごとの決められた条件や使用ルールなどを遵守する。
- ⑦ 研究者は、研究活動における技術の提供や貨物の輸出について、法令等を遵守し安全保障輸出管理に努める。
- ⑧ 研究を指導する立場にある研究者は、研究者の研究活動に不正や法令等の違反が起きないように適切に指導・管理を行う。

##### (2) 研究成果の適切な発表・オーサーシップの基準

- ① 研究者は、研究成果の公表に際して、データ根拠の信頼性や確保に十分留意し、公正かつ適切な引用を行う。
- ② 研究者は、学術論文の発表に際して、オーサーシップやすでに発表されている関連データの利用、著作権について、各研究組織、研究分野、学術誌ごとにある固有のルールを十分に尊重する。
- ③ 研究者は、共同研究における成果の発表に際して、それぞれの研究者の実質

的貢献度を適切に反映させ、研究者全員の了解のもとに行う。

(3) 審査の公正性

研究者は、他者の研究論文の査読や審査にあたる場合、審査対象者に対して予断を持つことなく、学問的な基準や当該審査の審査基準に基づいて公正に審査を行う。

(4) 個人情報の保護

研究者は、研究の過程で得られた個人情報を正当な理由なく他人に知らせ、又は不当な目的に利用しない。

(5) ハラスメントの排除

研究者は、研究活動の遂行にあたり、本学におけるハラスメント防止に関する規則の精神に則り、いかなるハラスメントも行わない。

(6) 利益相反の適正なマネジメント

研究者は、研究活動において、利益相反や責務相反の発生に十分な注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。

(7) その他

「拓殖大学教員必携」（平成15年3月初版発行）にも則り、研究活動を遂行する。

## 5. 事務

このガイドラインに関する事務は、学務部学長事務室が行う。

## 6. 改廃

このガイドラインの改廃は、研究倫理・公的研究費適正化委員会の議を経て、理事長が決定する。

### 附 則

このガイドラインは、令和5年4月1日から施行する。



# カリキュラムツリー



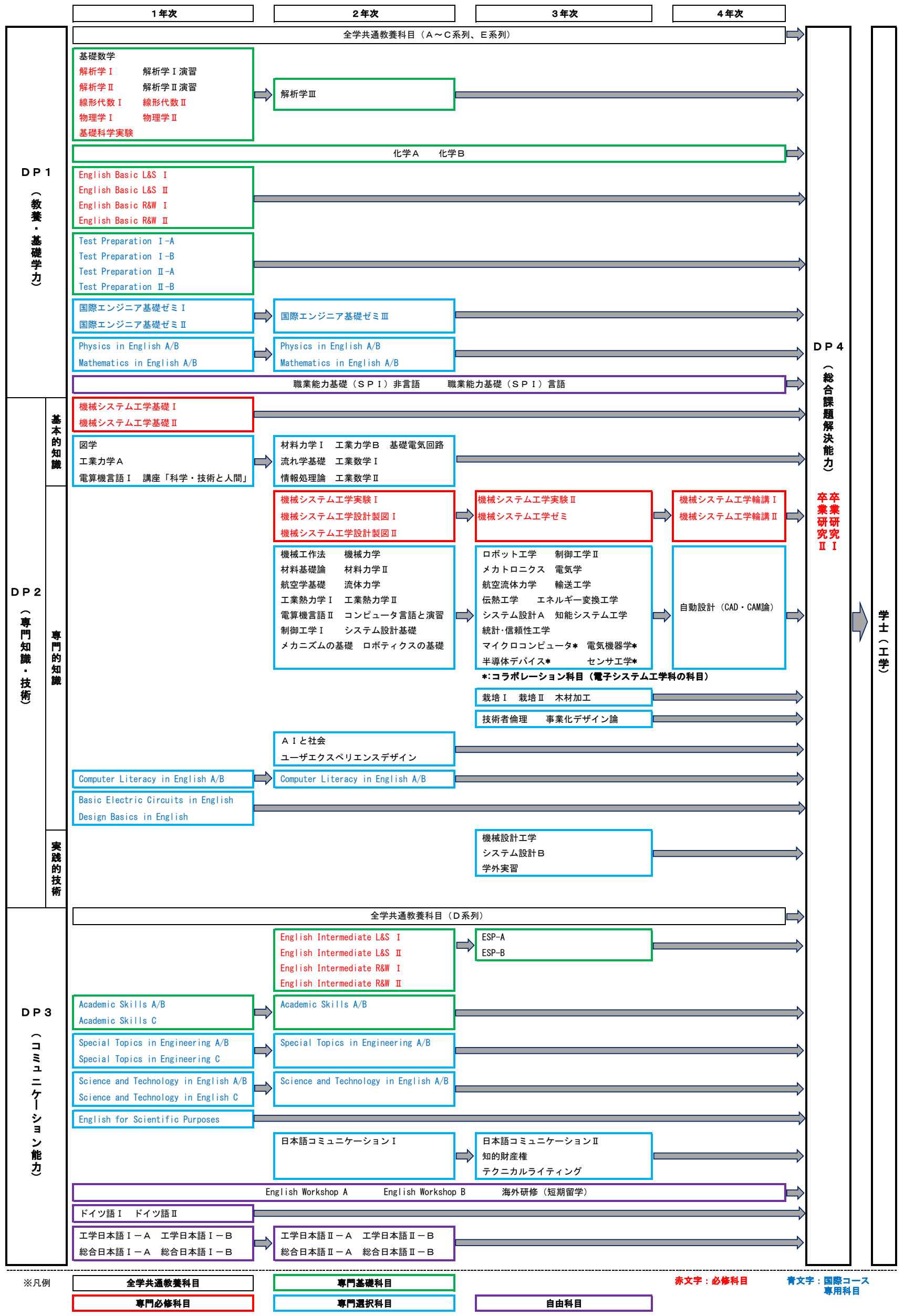
## 2 1 カリキュラムツリー

### 2 1 - 1 機械システム工学科のカリキュラムツリー

機械システム工学科のカリキュラムツリーは、次の折り込みページを参照してください。



# 21-1 機械システム工学科のカリキュラムツリー





## 2 1 - 2 電子システム工学科のカリキュラムツリー

電子システム工学科のカリキュラムツリーは、次の折り込みページを参照してください。



## 21-2 電子システム工学のキャリアムツリー

[ENC: 次世代通信ネットワークシステムコース] (赤文字: 必修、緑: コース指定、青: コースコア)

分野	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
全学共通教養科目		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		DP3 コミュニケーション能力 DP1 教養・基礎学力 DP4 総合課題解決能力
自由科目	英語	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B	
	ドイツ語科目	ドイツ語 I	⇒ ドイツ語 II							
	職業能力基礎科目	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)	
	認定科目	単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		
	留学生対象日本語科目	工学日本語 I-A 工学日本語 I-B (各々半期科目) 総合日本語 I-A 総合日本語 I-B (各々半期科目)		⇒ 工学日本語 II-A 工学日本語 II-B (各々半期科目) 総合日本語 II-A 総合日本語 II-B (各々半期科目)						
共通選択科目			AIと社会 ユーザエクスペリエンスデザイン	日本語コミュニケーション I	⇒ 日本語コミュニケーション II 技術者倫理	⇒ テクニカルライティング 知的財産権				
国際コース専用科目	国際コース専用科目群 ⇒ 国際コース専用科目群 ⇒		国際コース専用科目群 ⇒							
専門基礎科目	英語	English Basic L&S I English Basic R&W I	⇒ English Basic L&S II English Basic R&W II	⇒ English Intermediate L&S I English Intermediate R&W I	⇒ English Intermediate L&S II English Intermediate R&W II	⇒ ESP(工学英語)-A (前期組)	ESP(工学英語)-B (後期組)			
	自然科学科目	解析学 I (α組・β組) 解析学 I 演習 (α組・β組)	⇒ 解析学 II (α組・β組) 解析学 II 演習 (α組・β組)	解析学 III						
		線形代数 I 基礎数学 (α組・β組以外) 基礎数学演習 (α組・β組以外)	⇒ 解析学 II (α組・β組) ⇒ 解析学 I (α組・β組以外) 解析学 I 演習 (α組・β組以外)	解析学 II (α組・β組以外) 解析学 II 演習 (α組・β組以外)						
		物理学 I	⇒ 物理学 II							
		基礎科学実験 A組	⇒ 基礎科学実験 B組							
		化学 A	⇒ 化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B	
	専門科目	実験・実習・ 輪講・卒業研究	基礎電子工学実習 B組 システムエンジニア養成講座 I	⇒ 基礎電子工学実習 A組	⇒ 電子システム工学実験 I	⇒ 電子システム工学実験 II	⇒ 電子システム工学実験 III エレクトロニクス応用実験 (前期組)	⇒ 電子システム工学実験 IV エレクトロニクス応用実験 (後期組) システムエンジニア養成講座 II 学外実習	卒業研究 I 電子システム工学輪講 I 卒業研究 II 電子システム工学輪講 II	
電気・電子回路		基礎電気回路	⇒ 電気回路 I 電気回路 I 演習 基礎電気数学	⇒ 電気回路 II 電気回路 II 演習 電気・電子製図	電気法規及び施設管理	⇒ 電子回路 I 回路設計 I	⇒ 電子回路 II 回路設計 II	パルス回路		
		コンピュータソフトウェアハードウェア	⇒ コンピュータ基礎実習	⇒ プログラミング基礎及び演習 I ⇒ コンピュータ基礎	⇒ プログラミング基礎及び演習 II ⇒ デジタル回路 ⇒ デジタル回路演習	⇒ プログラミング論 A ⇒ コンピュータハードウェア I ⇒ コンピュータネットワーク	⇒ プログラミング論 B ⇒ マイクロコンピュータ	⇒ 応用プログラミング ⇒ コンピュータハードウェア II		
計測・制御工学				⇒ 基礎電磁気学	⇒ 応用電磁気学 ⇒ 電気磁気測定	⇒ 高周波・測定	⇒ センサ工学 ⇒ 自動制御			
通信・情報処理					⇒ 通信方式 ⇒ 応用フーリエ解析	⇒ デジタル信号処理 ⇒ 応用確率論	⇒ 通信ネットワーク ⇒ 画像工学 ⇒ 音響工学 ⇒ 電波法規			
物性・デバイス					⇒ 電子材料・物性 ⇒ 半導体デバイス ⇒ 電気機器学	⇒ パワーエレクトロニクス概論 ⇒ 発電工学				
学際領域				⇒ 工業熱力学 I	⇒ 生体電子情報工学 ⇒ 伝熱工学 ⇒ ロボット工学 ⇒ メカトロニクス	⇒ 生体計測工学				

[EAM: AIメディアテクノロジーコース] (赤文字: 必修、緑: コース指定、青: コースコア)

分野	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通教養科目		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		DP 3 コミュニケーション能力 DP 1 教養・基礎学力 DP 4 総合課題解決能力	
自由科目	英語	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B		
	ドイツ語科目	ドイツ語 I	⇒ ドイツ語 II								
	職業能力基礎科目	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)		
	認定科目	単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群			
	留学生対象日本語科目	工学日本語 I-A 工学日本語 I-B (各々半期科目) 総合日本語 I-A 総合日本語 I-B (各々半期科目)		⇒ 工学日本語 II-A 工学日本語 II-B (各々半期科目) 総合日本語 II-A 総合日本語 II-B (各々半期科目)							
共通選択科目			AIと社会 ユーザエクスペリエンスデザイン	日本語コミュニケーション I	⇒ 日本語コミュニケーション II	⇒ テクニカルライティング 知的財産権					
国際コース専用科目	国際コース専用科目群 ⇒ 国際コース専用科目群 ⇒ 国際コース専用科目群										
専門基礎科目	英語	English Basic L&S I English Basic R&W I	⇒ English Basic L&S II English Basic R&W II	⇒ English Intermediate L&S I English Intermediate R&W I	⇒ English Intermediate L&S II English Intermediate R&W II	⇒ ESP(工学英語)-A (前期組) ESP(工学英語)-B (後期組)					
	自然科学科目	解析学 I (α組・β組) 解析学 I 演習 (α組・β組) 線形代数 I 基礎数学 (α組・β組以外) 基礎数学演習 (α組・β組以外)	⇒ 解析学 II (α組・β組) 解析学 II 演習 (α組・β組) 線形代数 II ⇒ 解析学 I (α組・β組以外) 解析学 I 演習 (α組・β組以外)	解析学 III 解析学 II (α組・β組以外) 解析学 II 演習 (α組・β組以外)							
		物理学 I	⇒ 物理学 II								
		基礎科学実験 A組	⇒ 基礎科学実験 B組								
		化学 A	⇒ 化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B				
		化学 A	⇒ 化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B				
	専門科目	実験・実習・ 輪講・卒業研究	基礎電子工学実習 B組 システムエンジニア養成講座 I	⇒ 基礎電子工学実習 A組	⇒ 電子システム工学実験 I	⇒ 電子システム工学実験 II	⇒ 電子システム工学実験 III ⇒ 電子システム工学実験 IV エレクトロニクス応用実験 (前期組) エレクトロニクス応用実験 (後期組) システムエンジニア養成講座 II 学外実習				
		電気・電子回路	基礎電気回路	⇒ 電気回路 I 電気回路 I 演習 基礎電気数学	⇒ 電気回路 II 電気回路 II 演習 電気・電子製図	電気法規及び施設管理 電子回路 I 回路設計 I	⇒ 電子回路 II 回路設計 II	パルス回路			
			コンピュータソフトウェア ハードウェア	⇒ コンピュータ基礎実習 ⇒ プログラミング基礎及び演習 I ⇒ コンピュータ基礎 ⇒ プログラミング基礎及び演習 II ⇒ デジタル回路 ⇒ デジタル回路演習	⇒ プログラミング論 A ⇒ コンピュータハードウェア I ⇒ コンピュータネットワーク	⇒ プログラミング論 B ⇒ マイクロコンピュータ	⇒ 応用プログラミング ⇒ コンピュータハードウェア II				
		計測・制御工学		⇒ 基礎電磁気学	⇒ 応用電磁気学 電気磁気測定	⇒ 高周波・測定	センサ工学 自動制御				
通信・情報処理				⇒ 応用フーリエ解析	⇒ 通信方式 ⇒ デジタル信号処理 ⇒ 応用確率論	⇒ 通信ネットワーク ⇒ 画像工学 ⇒ 音響工学 電波法規					
物性・デバイス					⇒ 電子材料・物性 ⇒ 半導体デバイス ⇒ 電気機器学	⇒ パワーエレクトロニクス概論 ⇒ 発電工学					
学際領域				⇒ 工業熱力学 I	⇒ 生体電子情報工学 ⇒ 伝熱工学 ⇒ ロボット工学 ⇒ メカトロニクス	⇒ 生体計測工学					
						⇒ 電子システム I ⇒ 電子システム II ⇒ 電子工学輪講 I ⇒ 電子工学輪講 II					
							⇒ 卒業研究 I ⇒ 卒業研究 II				

[EIE: IOTエレクトロニクスコース] (赤文字: 必修、緑: コース指定、青: コースコア)

分野	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通教養科目		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		DP1 教養・基礎学力 DP3 コミュニケーション能力 DP4 総合課題解決能力	
自由科目	英語	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B	English Workshop A	English Workshop B		
	ドイツ語科目	ドイツ語 I	⇒ ドイツ語 II								
	職業能力基礎科目	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)	SPI (非言語)	SPI (言語)		
	認定科目	単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群			
	留学生対象日本語科目	工学日本語 I-A 工学日本語 I-B (各々半期科目) 総合日本語 I-A 総合日本語 I-B (各々半期科目)		⇒ 工学日本語 II-A 工学日本語 II-B (各々半期科目) 総合日本語 II-A 総合日本語 II-B (各々半期科目)							
共通選択科目			AIと社会 ユーザエクスペリエンスデザイン	日本語コミュニケーション I	⇒ 日本語コミュニケーション II	⇒ テクニカルライティング 知的財産権					
国際コース専用科目	国際コース専用科目群 ⇒ 国際コース専用科目群 ⇒ 国際コース専用科目群										
専門基礎科目	英語	English Basic L&S I English Basic R&W I	⇒ English Basic L&S II English Basic R&W II	⇒ English Intermediate L&S I English Intermediate R&W I	⇒ English Intermediate L&S II English Intermediate R&W II	⇒ ESP(工学英語)-A (前期組) ESP(工学英語)-B (後期組)					
	自然科学科目	解析学 I (α組・β組)	⇒ 解析学 II (α組・β組)	解析学 III							
		解析学 I 演習 (α組・β組)	⇒ 解析学 II 演習 (α組・β組)								
		線形代数 I	⇒ 線形代数 II								
		基礎数学 (α組・β組以外)	⇒ 解析学 I (α組・β組以外)	⇒ 解析学 II (α組・β組以外)							
	基礎数学演習 (α組・β組以外)	⇒ 解析学 I 演習 (α組・β組以外)	⇒ 解析学 II 演習 (α組・β組以外)								
	物理学 I	⇒ 物理学 II									
	基礎科学実験 A組	⇒ 基礎科学実験 B組									
化学 A	⇒ 化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B				
専門科目	実験・実習・ 輪講・卒業研究	基礎電子工学実習 B組 システムエンジニア養成講座 I	⇒ 基礎電子工学実習 A組	⇒ 電子システム工学実験 I	⇒ 電子システム工学実験 II	⇒ 電子システム工学実験 III ⇒ エレクトロニクス応用実験 (前期組)	⇒ 電子システム工学実験 IV ⇒ エレクトロニクス応用実験 (後期組) システムエンジニア養成講座 II 学外実習				
	電気・電子回路	基礎電気回路	⇒ 電気回路 I	⇒ 電気回路 II							
		⇒ 電気回路 I 演習 ⇒ 基礎電気数学	⇒ 電気回路 II 演習 ⇒ 電気・電子製図		⇒ 電気法規及び施設管理						
					⇒ 電子回路 I ⇒ 回路設計 I	⇒ 電子回路 II ⇒ 回路設計 II	⇒ パルス回路				
	コンピュータ ソフトウェア ハードウェア	⇒ コンピュータ基礎実習	⇒ プログラミング基礎及び演習 I ⇒ コンピュータ基礎	⇒ プログラミング基礎及び演習 II ⇒ デジタル回路 ⇒ デジタル回路演習	⇒ プログラミング論 A ⇒ コンピュータハードウェア I ⇒ コンピュータネットワーク	⇒ プログラミング論 B ⇒ マイクロコンピュータ	⇒ 応用プログラミング ⇒ コンピュータハードウェア II				
	計測・制御工学			⇒ 基礎電磁気学	⇒ 応用電磁気学 ⇒ 電気磁気測定	⇒ 高周波・測定	⇒ センサ工学 ⇒ 自動制御				
	通信・情報処理				⇒ 応用フーリエ解析	⇒ 通信方式 ⇒ デジタル信号処理	⇒ 通信ネットワーク ⇒ 画像工学 ⇒ 音響工学 ⇒ 電波法規				
	物性・デバイス					⇒ 電子材料・物性 ⇒ 半導体デバイス ⇒ 電気機器学	⇒ パワーエレクトロニクス概論 ⇒ 発電工学				
	学際領域			⇒ 工業熱力学 I		⇒ 生体電子情報工学 ⇒ 伝熱工学 ⇒ ロボット工学 ⇒ メカトロニクス	⇒ 生体計測工学				
							⇒ 電子卒業研究 I ⇒ 電子卒業研究 II				
						⇒ 電子卒業研究 I ⇒ 電子卒業研究 II					

[RT:ロボティクスコース] (赤文字:必修、緑:コース指定、青:コースコア)

分野	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	DP 3	DP 4
全学共通教養科目		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群	
自由科目	英語	English Workshop A		English Workshop B		English Workshop A		English Workshop B		English Workshop A	
	ドイツ語科目	ドイツ語 I		ドイツ語 II							
	職業能力基礎科目	SPI (非言語)		SPI (言語)		SPI (非言語)		SPI (言語)		SPI (非言語)	
	認定科目	単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群			
	留学生対象日本語科目	工学日本語 I-A 工学日本語 I-B (各々半期科目)		工学日本語 II-A 工学日本語 II-B (各々半期科目)							
共通選択科目			AIと社会 ユーザエクスペリエンスデザイン	日本語コミュニケーション I	日本語コミュニケーション II	テクニカルライティング 知的財産権					
国際コース専用科目		国際コース専用科目群	国際コース専用科目群	国際コース専用科目群							
専門基礎科目	英語	English Basic L&S I English Basic R&W I	English Basic L&S II English Basic R&W II	English Intermediate L&S I English Intermediate R&W I	English Intermediate L&S II English Intermediate R&W II	ESP(工学英語)-A (前期組)	ESP(工学英語)-B (後期組)				
	自然科学科目	解析学 I (α組・β組)	解析学 II (α組・β組)	解析学 III							
		解析学 I 演習 (α組・β組)	解析学 II 演習 (α組・β組)								
		線形代数 I	線形代数 II								
		基礎数学 (α組・β組以外)	解析学 I (α組・β組以外)	解析学 II (α組・β組以外)							
	基礎数学演習 (α組・β組以外)	解析学 I 演習 (α組・β組以外)	解析学 II 演習 (α組・β組以外)								
	物理学 I	物理学 II									
	基礎科学実験 A組	基礎科学実験 B組									
	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B			
	専門科目	実験・実習・ 輪講・卒業研究	基礎電子工学実習 B組	基礎電子工学実習 A組	電子システム工学実験 I	電子システム工学実験 II	電子システム工学実験 III	電子システム工学実験 IV			
電気・電子回路		システムエンジニア養成講座 I				エレクトロニクス応用実験 (前期組)	エレクトロニクス応用実験 (後期組)				
		基礎電気回路	電気回路 I 電気回路 I 演習 基礎電気数学	電気回路 II 電気回路 II 演習 電気・電子製図		電気法規及び施設管理					
コンピュータ ソフトウェア ハードウェア		基礎電子工学実習 B組	基礎電子工学実習 A組	電子システム工学実験 I	電子システム工学実験 II	電子システム工学実験 III	電子システム工学実験 IV				
計測・制御工学				基礎電磁気学	応用電磁気学 電気磁気測定	高周波・測定	センサ工学 自動制御				
通信・情報処理					応用フーリエ解析	通信方式 デジタル信号処理 応用確率論	通信ネットワーク 画像工学 音響工学 電波法規				
物性・デバイス						電子材料・物性 半導体デバイス 電気機器学	パワーエレクトロニクス概論 発電工学				
学際領域				工業熱力学 I		生体電子情報工学 伝熱工学 ロボット工学 メカトロニクス	生体計測工学				

DP 3  
コミュニケーション能力

DP 1  
教養・基礎学力

DP 4  
総合課題解決能力

DP 2  
専門知識・技術

卒業研究 I  
電子工学輪講 I

卒業研究 II  
電子工学輪講 II

[EE: エコエネルギーシステムコース] (赤文字: 必修、緑: コース指定、青: コースコア)

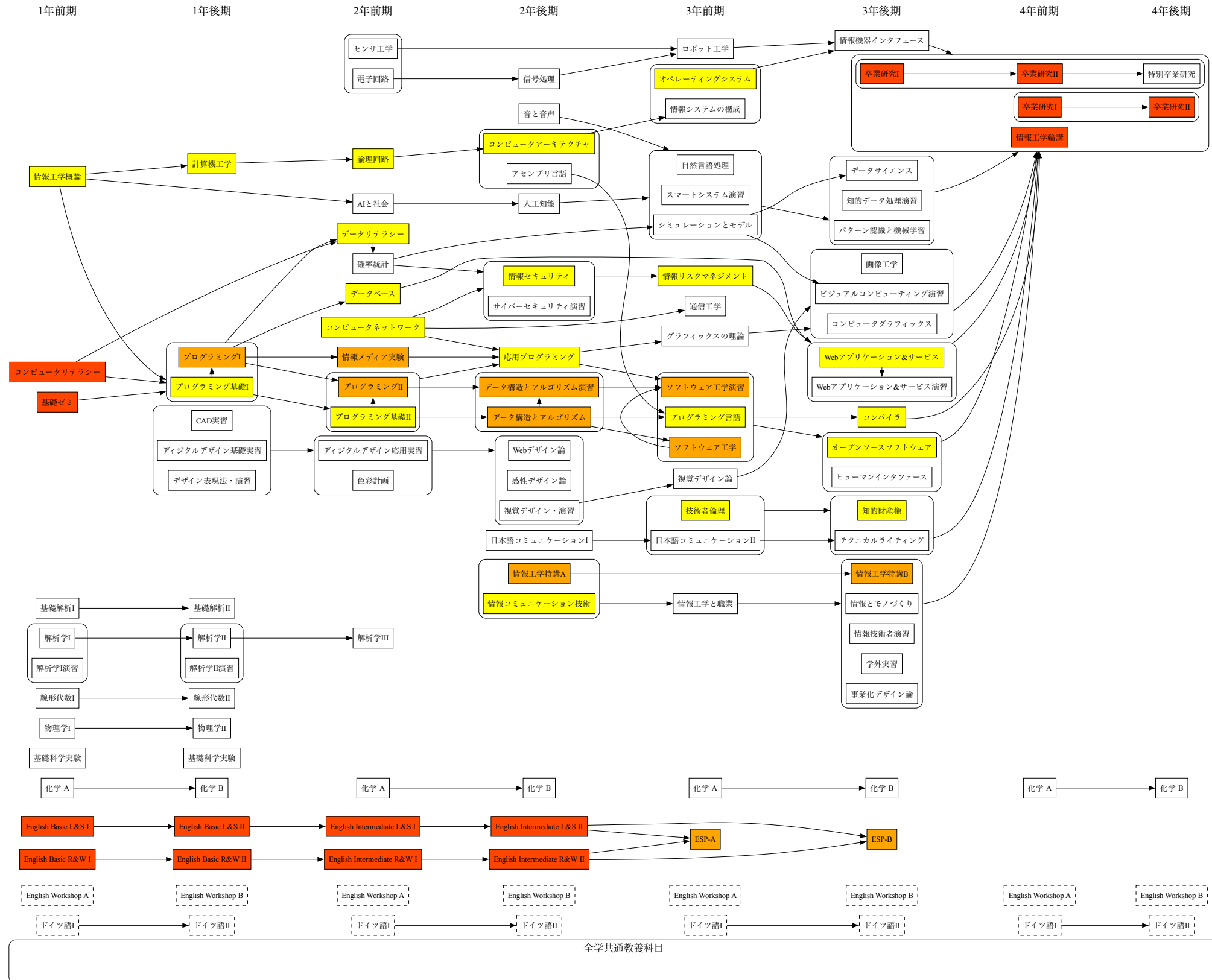
分野	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	DP3 コミュニケーション能力	DP4 総合課題解決能力	
全学共通教養科目		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群		全学共通教養科目群				全学共通教養科目群
自由科目	英語	English Workshop A		English Workshop B		English Workshop A		English Workshop B		English Workshop A		
	ドイツ語科目	ドイツ語 I		ドイツ語 II								
	職業能力基礎科目	SPI (非言語)		SPI (言語)		SPI (非言語)		SPI (言語)		SPI (非言語)		
	認定科目	単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		単位認定科目群		
	留学生対象日本語科目	工学日本語 I-A 工学日本語 I-B (各々半期科目)		工学日本語 II-A 工学日本語 II-B (各々半期科目)								
共通選択科目				AIと社会 ユーザエクスペリエンスデザイン	日本語コミュニケーション I	日本語コミュニケーション II	テクニカルライティング 知的財産権			DP1 教養・基礎学力		
国際コース専用科目		国際コース専用科目群		国際コース専用科目群		国際コース専用科目群						
専門基礎科目	英語	English Basic L&S I English Basic R&W I	English Basic L&S II English Basic R&W II	English Intermediate L&S I English Intermediate R&W I	English Intermediate L&S II English Intermediate R&W II	ESP(工学英語)-A (前期組)	ESP(工学英語)-B (後期組)					
	自然科学科目	解析学 I (α組・β組)	解析学 II (α組・β組)	解析学 III								
		解析学 I 演習 (α組・β組)	解析学 II 演習 (α組・β組)									
		線形代数 I	線形代数 II									
		基礎数学 (α組・β組以外)	解析学 I (α組・β組以外)	解析学 II (α組・β組以外)								
	基礎数学演習 (α組・β組以外)	解析学 I 演習 (α組・β組以外)	解析学 II 演習 (α組・β組以外)									
	物理学 I	物理学 II										
	基礎科学実験 A組	基礎科学実験 B組										
	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B	化学 A	化学 B				
	専門科目	実験・実習・ 輪講・卒業研究	基礎電子工学実習 B組 システムエンジニア養成講座 I	基礎電子工学実習 A組	電子システム工学実験 I	電子システム工学実験 II	電子システム工学実験 III	電子システム工学実験 IV エレクトロニクス応用実験 (前期組)	エレクトロニクス応用実験 (後期組) システムエンジニア養成講座 II 学外実習			DP2 専門知識・技術
電気・電子回路		基礎電気回路	電気回路 I 電気回路 I 演習 基礎電気数学	電気回路 II 電気回路 II 演習 電気・電子製図		電気法規及び施設管理				卒業研究 I 電子工学輪講 I		
						電子回路 I 回路設計 I	電子回路 II 回路設計 II	パルス回路	卒業研究 II 電子工学輪講 II			
コンピュータ ソフトウェア ハードウェア		コンピュータ基礎実習	プログラミング基礎及び演習 I コンピュータ基礎	プログラミング基礎及び演習 II デジタル回路 デジタル回路演習	プログラミング論 A コンピュータハードウェア I コンピュータネットワーク	プログラミング論 B マイクロコンピュータ	応用プログラミング コンピュータハードウェア II					
計測・制御工学				基礎電磁気学	応用電磁気学 電気磁気測定	高周波・測定	センサ工学 自動制御					
通信・情報処理					応用フーリエ解析	通信方式 デジタル信号処理 応用確率論	通信ネットワーク 画像工学 音響工学 電波法規					
物性・デバイス						電子材料・物性 半導体デバイス 電気機器学	パワーエレクトロニクス概論 発電工学					
学際領域				工業熱力学 I		生体電子情報工学 伝熱工学 ロボット工学 メカトロニクス	生体計測工学					

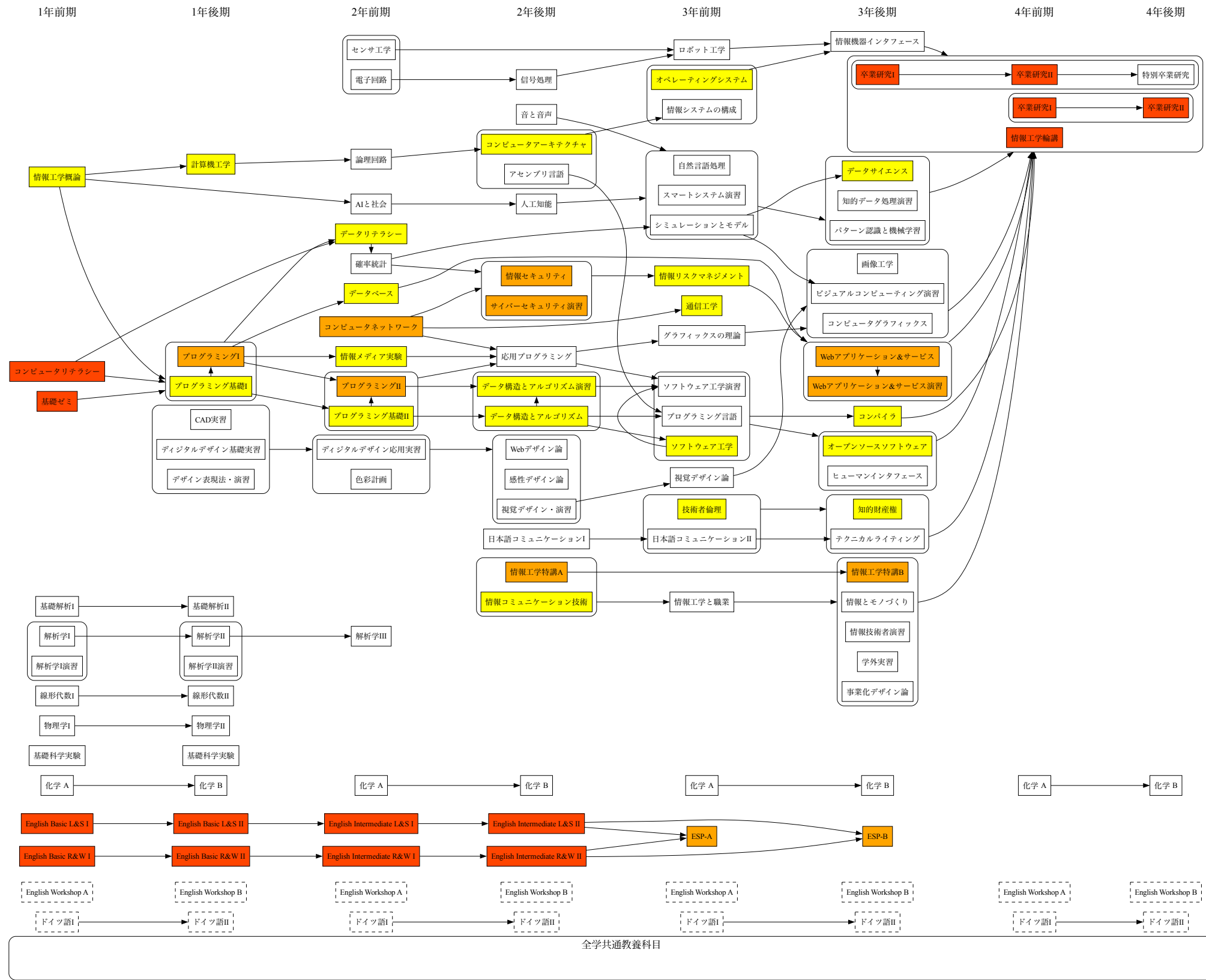


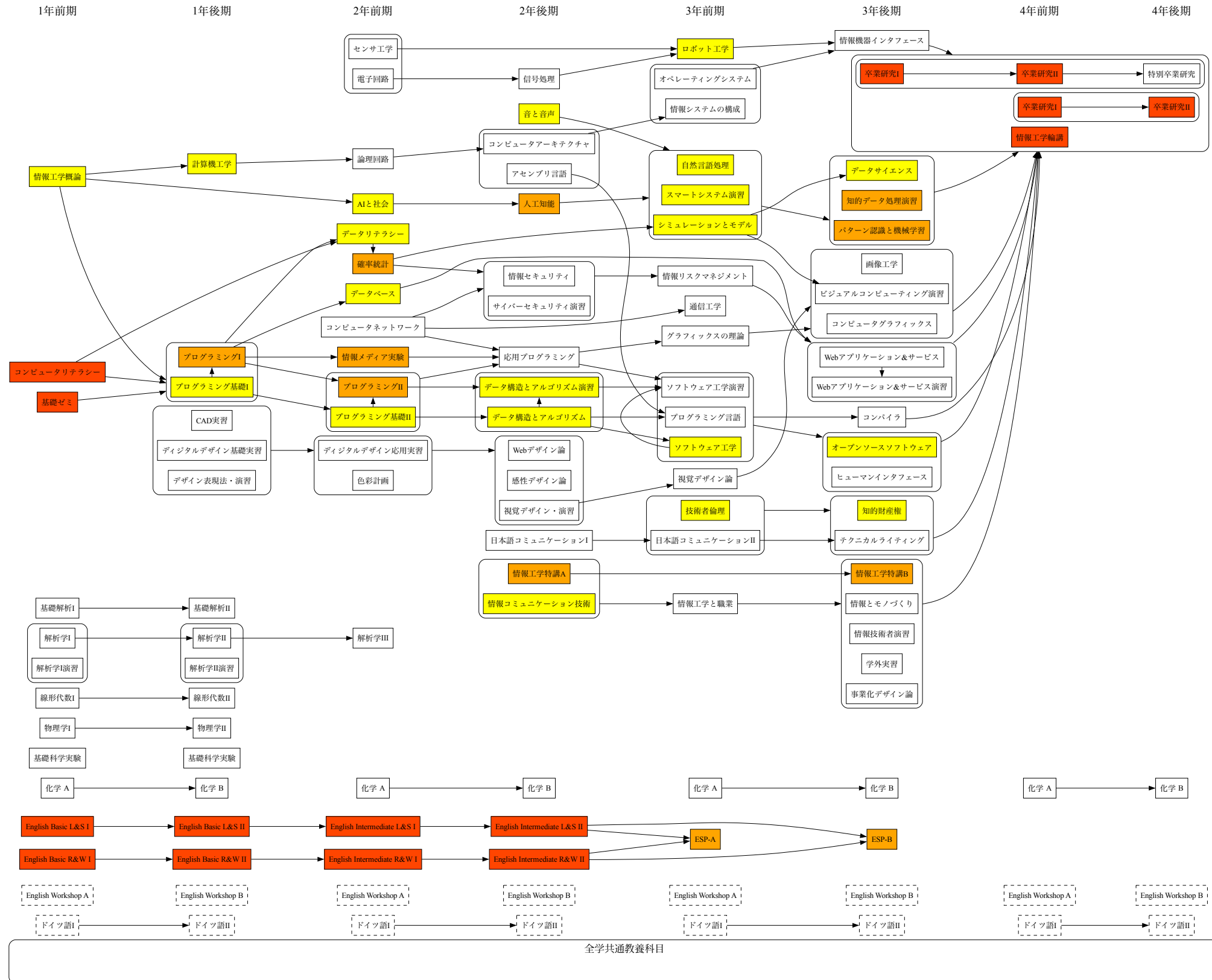
## 2 1 - 3 情報工学科のカリキュラムツリー

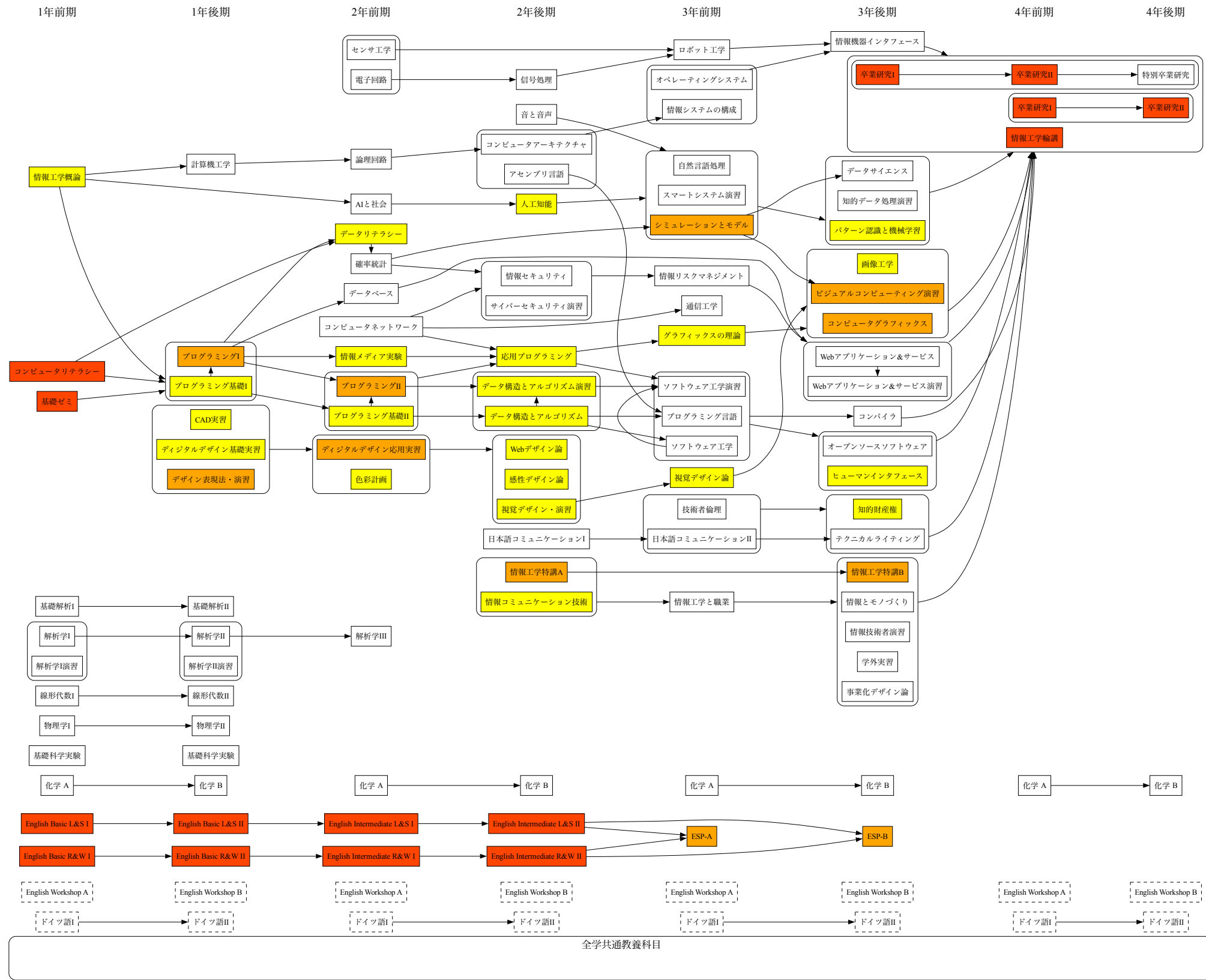
情報工学科のカリキュラムツリーは、次の折り込みページを参照してください。

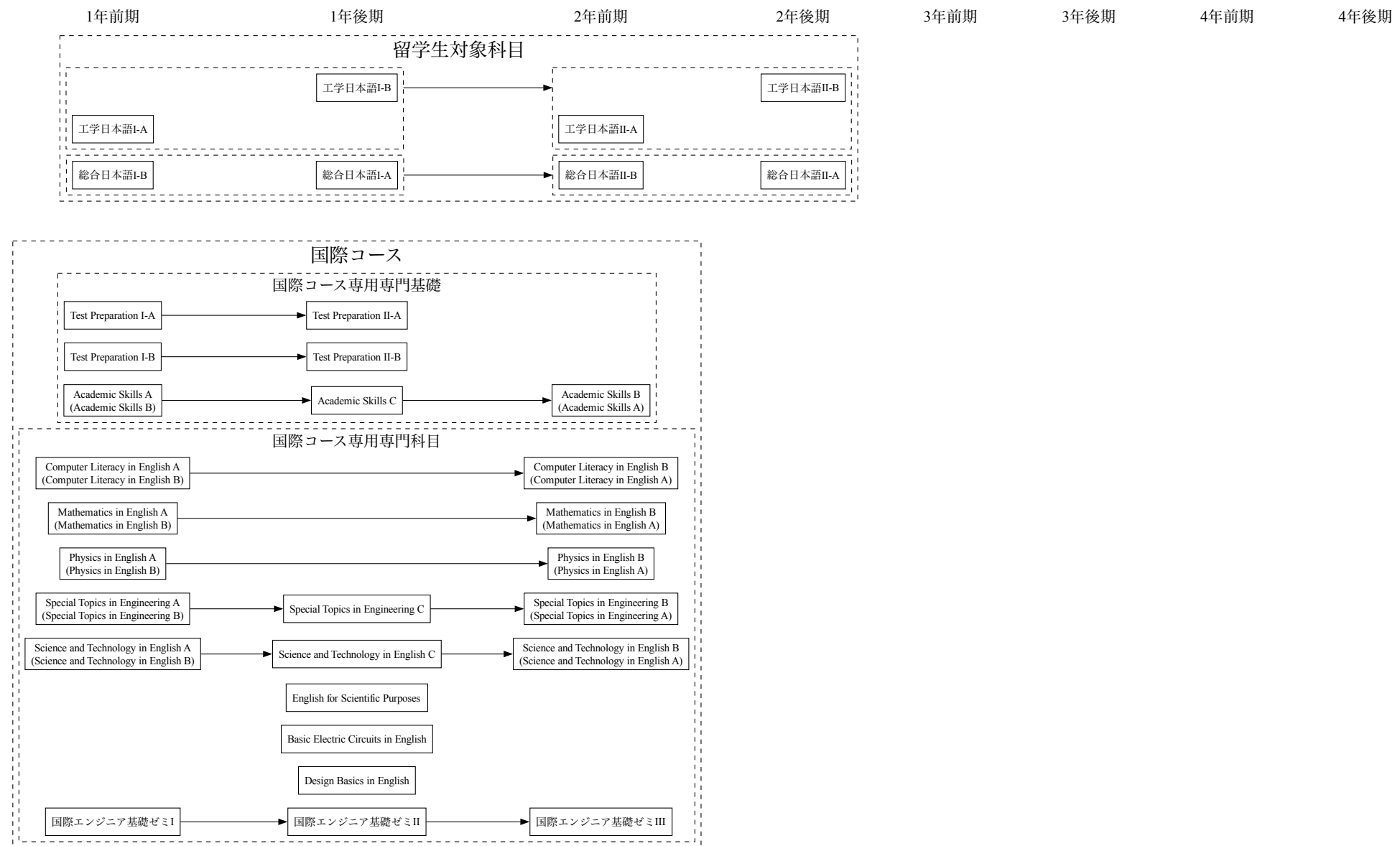












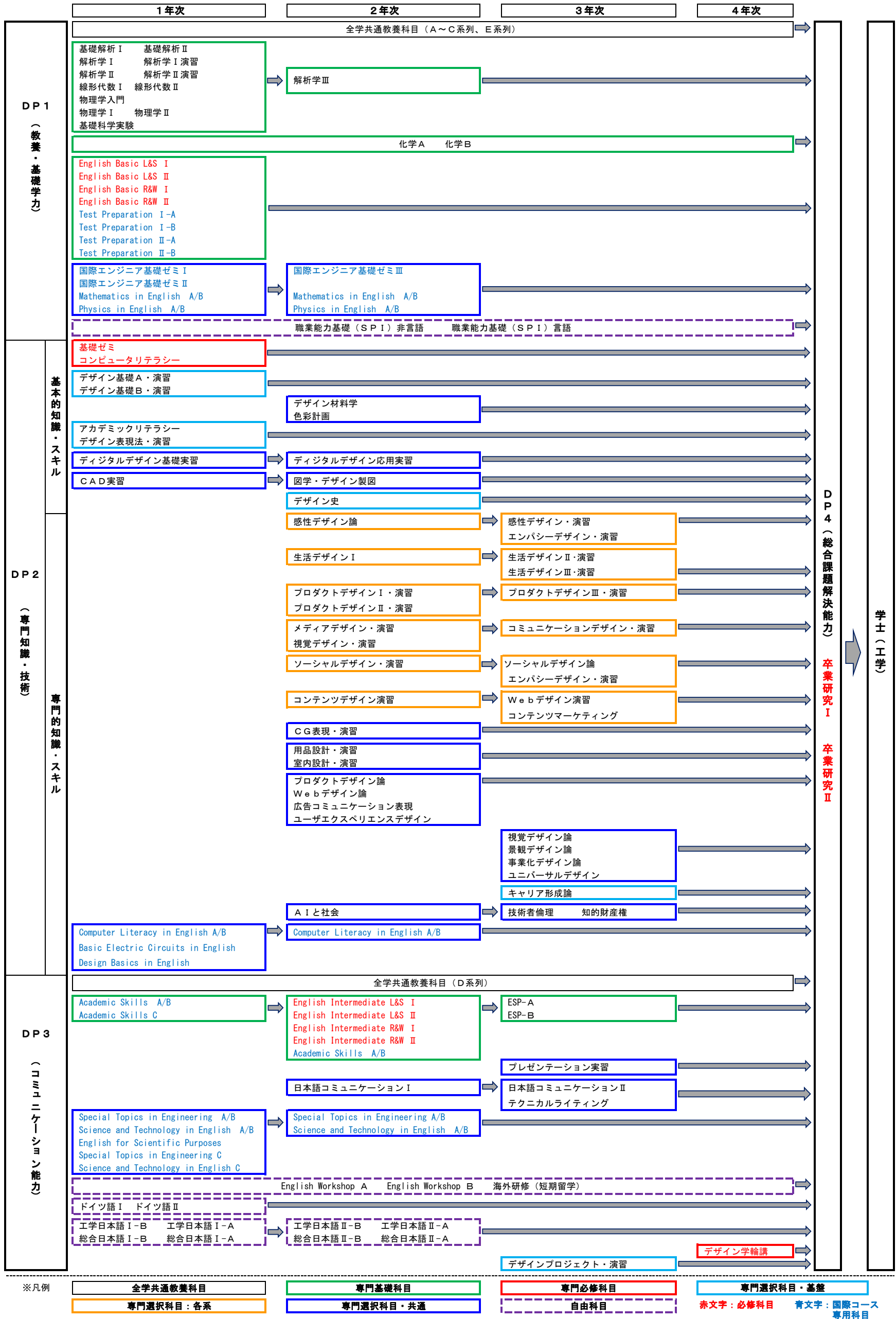


## 2 1 - 4 デザイン学科のカリキュラムツリー

デザイン学科のカリキュラムツリーは、次の折り込みページを参照してください。



# 21-4 デザイン学科のカリキュラムツリー





2025（令和7）年4月1日発行

**拓殖大学 履修要項（工学部）**

2025（令和7）年度入学者用

**八王子国際キャンパス**

学務部八王子学務課（工学部）

〒193-0985

八王子市館町815-1

<https://www.takushoku-u.ac.jp>

学 部	工 学 部
学 科	学 科
学生番号	番
氏 名	